

10,11番惑星が存在する?!

UFO contactee

RAP JAPAN NEWSLETTER



UFO・超能力・宇宙哲学

コンククナ

〈連載第1回〉

AUTUMN
1987

98

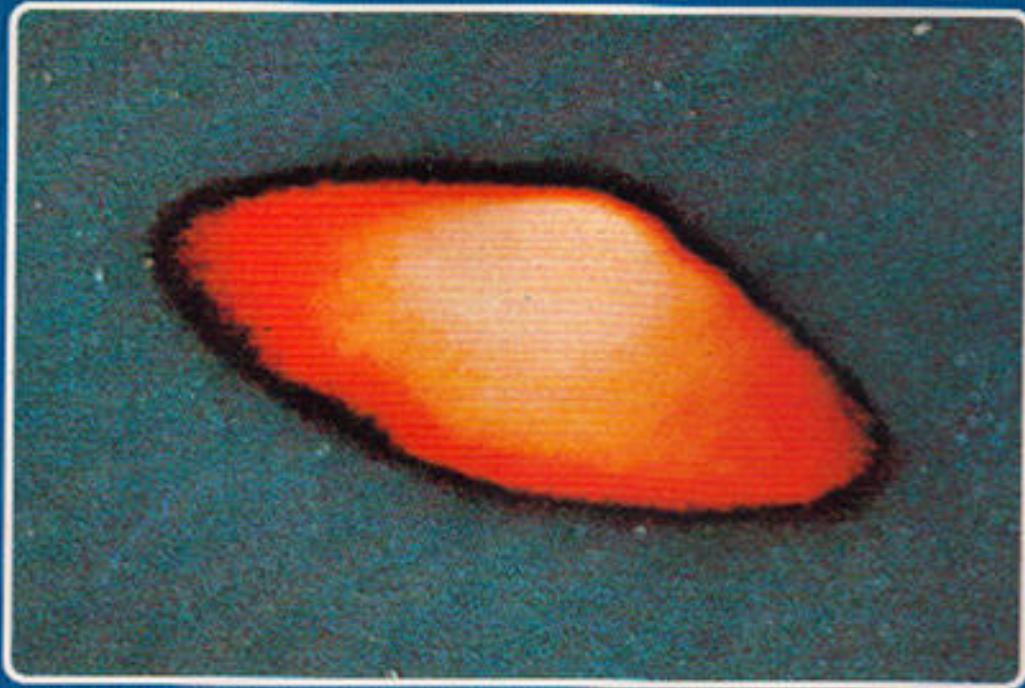
UFO-宇宙からの完全な証拠

木星の衛星イオに古代都市跡を発見

静岡市上空にUFO頻繁に出現

太陽系惑星にまだ仲間がいる?

私は別な惑星へ行ってきた! 〈最終回〉



UFO contactee 98号目次

〈巻頭言〉歴史的認識と直感力	1
木星の衛星イオに古代都市跡を発見/	2
UFO-宇宙からの完全な証拠 (連載第1回)	4
ダニエル・ロス	
静岡市上空にUFO頻繁に出現	12
遠藤 昭則	
太陽系惑星にまだ仲間がいる?	19
片岡 豊	
連夜のテレパシー送信に応じて出現した円盤	20
知念 清邦	
万物の実体と想念の重要性	22
GAP短信	25
科学—SCIENCE	26
私は別な惑星へ行ってきた! (最終回)	30
ユーコン	
〈投稿欄〉ユーコン広場	40
〈報告〉静岡支部大会/青森・秋田合同支部大会	42
沖縄支部主催「アダムスキー全集読者感想発表会」	43
〈予告〉62年度地方支部大会(その3)	44
〈予告〉62年度日本GAP総会	45
〈広告〉アダムスキー全集/英文版ユーコン	46
全国月例研究会案内	47



◆金星人からジョージ・アダムスキー
に送られた金星のシンボルマーク、2個の圓形の内、左側は宇宙
の父性原理(FM)、右側は母性原
理(MF)を意味する。円は宇宙を象
徴している。

GAPについて

彼らは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動です。
世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべく、
世界を一つの見地に基づいて1950年にジョージ・アダムスキー元NASA
技術者によって設立されました。彼の願いは「最大多数の人々が現代の真実を見
るべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・ハーバー”の子であり、そのパワーの法則が宇宙に遍在している事実
を悟りもってること」にありました。この法則は他の世界(惑
星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”的研究
を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブリザーズ問題を关心する
人々をまとめる事にあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則
の実現を図ることにあります。その中心思想は次のとおりです。
この太陽系の他の惑星群には偉大な先進をとげた人類が居住して
いるが、米ソ等の大国民政府はこの真相を隠している。

この世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者などの子孫
で、シントラクト(鉛封)しており、危機にひんした地球に対して
世界の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブリザーズ
とコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常
その真相は洩らされていない。

ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向
きと、地上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教・国際
社会に有益な貢献を企てる刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸い

■表紙写真は1965年10月21日、米ミネソタ州の保
安官助手アーチー・ストラウチが、同州セントジョ
ージ付近を4人の仲間と狩猟中に撮影した円盤。

木星の衛星イオに古代の都市跡が発見されたのにソ連は隠しているというハンガリーの天体物理学者アルバート・フェルトシュタイン博士の爆弾声明はあまりに唐突であつたためか、世界的に流布しなかつたし、日本のマスコミは全く取り上げなかつた。というよりもこのニュースが入らなかつたのだろう。しかし高名な科学者が社会的地位の失墜を危惧することなく、あれほど声明を出したというのは、よほどの根拠があつてのことだろう。

近来、ソ連もアメリカも太陽系の未

〈卷頭言〉

歷史的認識與 直感力



と述べているが、これを発表したのは一九五〇年代前半の頃で、惑星探査機などは未開発の時代だった。当然、ほんどの人から否定されただれども、無理からぬことだ。学校で使用する教科書にはすべて「九個」説が挙げてあり、これを神の御宣託のごとく大衆は信じ込まされていたからだ。現在でもそうだろう。

ここで認識という問題が生じる。「およそ認識は、主観的には〔認識する者の立場から見ると〕、歴史的であるか、さもなくば理性的であるか、この二つしかない。歴史的認識は、与えられたものから成る認識であり、理性的認識は原理にもとづく認識である。いつたい認識が元来どこから与えられたものであるにせよ、——換言すれば、その認識が直接に経験されたものにせよあるいは他の人から聞かされたもの、あるいはまた（一般的な知識として）教えられたものであるにせよ、とにかくはたから与えられた認識である限り、その認識を所有する者について言えば結局それだけの程度の、またそれだけの量の歴史的認識でしかない」と大哲学者カントは「純粹理性批判」で説いており、さらに「客観的な意味での理性認識（換言すれば、本来の人間理性泉即ち原理から汲みとれたときののみ、主観的にも理性認識という名を帶

びることが許されるのである」と述べている。そしてヴァルフ哲学の体系のことを例にあげている。

いさざか難解なようだが、これは要するに、眞実を知るには他人から与えられる知識をウ呑みにするよりも自身の直感力を主体にせよと唱つているのだ。早く言えば、宇宙的印象を感じするテレパシークな人間になれと説いているのである。この真意がつかめぬために深遠なカント哲学は一般に親しまれなくなつた。それはともかく、教育というものは良くも悪くも恐るべき催眠術的効果を發揮するから注意を要する。その注意は教育する人の側に向けられてしまふべきだらう。

アダムスキーリの諸説は未だに多くの人から否定されている。しかしその否定の根拠はカント流に言えば与えられたものから成る歴史的認識にすぎない。学校で九個と教えられたからといふ。それだけのことでの既成概念が形成され、以後は太陽系に対する認識の進展がないといふのは恐ろしいことである。

しかし「隠されているもので漏らされないものはない」というイエスの警告どおり、太陽系諸惑星の真相は少しずつ一般に流れている。そして結局どのように客観的に見ても緩慢ながらアダムスキーリの宇宙空間に関する諸説が正しかつたことを立証する方向に宇宙科学が動いていると言えるようだ。

おそらく来世紀になればアダムスキ

トウールの発見が後世で常識化したのと同様にだ。

だが人間の直感力といつても個々のレベルがあり、千差万別であつて、必ずしも一様ではない。各自が自分自身のレベルでもがき苦しみ、模索し、試行錯誤を繰り返しながらレッスンを学んでいる。つまり万人は各自が或る絶対値の上に立つて思考し、それなりのレベルに自己を位置づけているのである。ある時点における絶対値は本人に必要なのであって、その時点においてはそれ以上でもそれ以下でもない。具体的に言えば、アダムスキーパーのように否定する人がいても、その時点において否定することが本人にとっては最も良の学習なのだ。このようにみると否定論者をとやかく言えなくなつてくれる。むしろ祝福の想念を送りながらあたたかい目で見るのが高潔な態度だということになるだろう。

こうなると編者の持論「UFO研究は人間研究」の意義が浮上してくるよう気がする。ひとくちにUFOといつても、ものすごく複雑多岐な問題が含まれていて、前述のごとくカントまで引っ張り出すことになるからだ。このカントが地球以外の人類が存在する惑星群、を想定していたことは案外知られていない。(久)

久

木星の衛星に古代都市跡を発見！

惑星探査機が撮影した驚異的写真をソ連が隠蔽？

イギリスGAP主催者クリフ・プール氏が今年五月に久保田会長へ伝えた情報によると、一九八五年にソ連が打ち上げた惑星探査機が、木星の衛星イオに古代の壯麗な都市跡が存在する事実をつきとめたが、ソ連当局は隠していることをハンガリーの天体物理学者アルバート・フェルトシュタイン博士が暴露したといふ。この驚くべき記事を掲載したイギリスの「ウイークリー・ワールド・ニュース」紙の記事も送られてきた。これには標題の大見出しと共に「古代アテネの異星版を発見したようなもの」という副題がついている。以下はその記事の全訳。

世界のトップクラス科学者の一人がソ連に対する公式な抗議を出して、一九八五年に木星の衛星に古代の都市を発見しながら、ソ連の科学者たちはこれを隠蔽していると称して非難した。

ヨーロッパの科学誌に掲載されたその抗議文でアルバート・フェルトシュタイン博士は、「ひそかに持ち込まれた公式文書と写真類はソ連が世紀の秘密の科学的発見を隠そうとしてきたこ

とを明瞭に示している」と述べている。

またこの抗議文は、火星で寺院の廃墟の存在を発見しながらソ連と同じよう完全に口を閉ざしてきたアメリカの宇宙開発関係者をも非難している。

「アメリカもソ連も火星と木星の衛星イオに都市跡があることを知っている。なぜ彼らはここまで隠しているのか？」とハンガリーの天体物理学者は抗議文の中で問いかけている。

「彼らは大衆がパニックを起こすのを恐れているのか。自分たちの威信を失うと思っているのか。彼らはわれわれのほとんどがすでに知っていることないということを、なぜ認めるわけにゆかないのか」

フェルトシュタイン博士によると、氏がソ連のある軍事筋（氏名を明かし

ていない）から受け取った文書と写真類は、一九八五年七月十九日に一機の惑星探査機がイオの地表に古代の都市を発見したことを証明しているという。

「この都市は廃墟になつていてるけれども、残つてゐる建築様式はすごく洗練されている。」

コンピューターの分析によつて、ゴバン目の広い大通りと小さな歩道があるのがだれにもはつきりと見える。建築物（複数）自体は巨大な長方形の構造物である。

それらには平たい傾斜のついた屋根があつたらしく。また飛び控え（壁）やある型の建築デザインと構造などは、われわれがいまだに地球上でそれを用いていることを裏付けていることもわかる。これは古代アテネの異星版を発見したようなものだ！」



●木星の衛星イオ 1979年3月5日、アメリカが打ち上げた惑星探査機ボイジャー1号が36万kmの距離から撮影した写真。目に見え
る最小の点すらも径約10km近くある。噴煙活動をする活火山が発見されて話題となった。13個ある木星の衛星の
うち、1610年にガリレイが発見したイオは直径3,640km、明るさは5.5等級あり、小望遠鏡でも容易に見られる。(UPI・サン提供)

ウイークリー・ワールド・ニュース誌の一九八四年十一月二十日号で報道されたように、ソ連の一探査機は一九八二年ないし八三年に火星の表面に寺院群と思われるものを撮影した。この建造物（複数）は青みがかった灰色で、ドーム状であり、少なくとも五万年昔のものだといわれた。しかしぴ連はこの発見もできるだけ秘密にした。

クレムリンのソ連高官連はフェルトシュタイン博士の抗議を受け取ったことを確認も否定もしていない。彼らは博士の“隠蔽工作”的主張をバカげたことだと言つてゐる。

「彼ら（ソ連当局）はチュルノブイリ爆発惨事についても、ドイツとスエーデンの放射能測定器の針が飛ぶまではたいした事故ではないと私に語つていた。

ソ連はウソつきだが、アメリカも同じようなものだ。

両国とも同じ知識を持っているけれども、それは表面に出でこないだろう。アメリカの“知識情報の自由”法にもとづいて何かを知つたというのなら、それは笑い草だ。アメリカは自由人の故郷かもしれないが、その国の指導者たちは大衆に知つてもらいたい事だけを知らせてゐるのだ。

別な惑星に存在する古代都市の発見のニュースは世界のものなど」とフエルトシュタイン博士は述べている。

UFO— 宇宙がつの 完全な証拠

金星、火星、月に関する真相

●ダニエル・ロス／久保田八郎訳

現代アメリカのUFO研究家として最先端をゆくロス氏がついに一冊の素晴らしい書物を書いた。わが太陽系内の各惑星に高度に発達した人類が住んで偉大な文明を築いていたというジョージ・アダムスキーリーの主張を支持し、宇宙開発の知られざる実態を解説した上、UFOの実在を科学的に立証したこの書は、疑惑を続ける世界のUFO研究界的一大道標となるだろ。い。

日本GAP会長・久保田八郎はかねてからロス氏と親交を保ち、情報交換を続けてきたが、今年七月の米国英文版発行に先立つて氏より英文原稿と添付写真類等資料一切を入手し、本号より連載を開始した。驚異的内容の展開を期待されたい。

第一章 第1章	本書は十一章から成る。各章の標題は次のとおり。
第二章 第2章	「謎」の実態 重要な目撃例
第三章 第3章	惑星の探査
第四章 第4章	火星——望遠鏡による立証
第五章 第5章	火星——マリナーとバイキングによる探査
第六章 第6章	本物の月を暴露する
第七章 第7章	アポロ、月へ行く
第八章 第8章	月は生きた環境を見せてくる
第九章 第9章	金星に関する真相
第十章 第10章	金星——わが姉妹惑星
第11章 第11章	人類の住む太陽系
第12章 結論	

▼ダニエル・ロス氏



われわれがすごしているような時代というものは常に敗北主義と絶望を生み出してきた。しかしそれにもかかわらず、

人間はこの時代の最大の目標に立ち向かつてそれを克服する力を自己の内部に持つていると信じる少數の人がなおもいる。

われわれが敗北を避けようとするのなら、眞実を知ろうとし、それにむかって行動をするだけの勇気を持たねばならぬ。眞実を知るようになり、勇気を持つならば、われわれは絶望を必要としないのである。

アルバート・aigneau

第1章 「謎」の実態

今日UFOという言葉を聞いたことのない人はほとんどいない。Unidentified Flying Objects (未確認飛行物体) の略語として用いられるこの語は、多年一般の認めるところとなってきた。この語に暗に意味されているのは、多くの未確認飛行物体は地球外から来る宇宙船である、ほとんどの人が信じている点にある。このことは一般に受け入れられてきたけれども、UFOの存在そのものの背後にひそむ真相について知っている人は今日ほどなどいない。

現在それは謎とは言えないだろうが、多くの理由により、特定の事業などを支配する既得権を所有する人や団体などを保護するために、その問題はそれなりに促進されてきた。本書はこうし

した混乱を断固として排除し、四十年間にわたって空中に目撃され、世界中に報告されてきた惑星間宇宙船の背後にひそむ真相を提供するものである。証拠や解釈は堅固な基礎をもとにして提示されるはずである。UFO問題に関する心靈的な基盤に立った発表はすべて誤ったものであり、したがつて本書の内容に加えてない。

われわれの惑星（地球）との絶えまらない接触を続けてきたこれらの来訪宇宙船（UFO）は、わが地球と同様に人間の住むホーム惑星（複数）を持っている。ひとたびそれらの発進地が知られ、理解されるならば、UFOに関する謎は存在しなくなる。それらの発進地はわが太陽系の他の惑星群であり、その宇宙旅行者たちはどの点から

みても人間なのである。

アメリカ政府内の各種情報部門、たとえばNASA（国家安全保障局）、CIA（中央情報局）、その他特殊な軍部各部門などは多年この（UFO）の

情報を有してきた。NASA（米航空宇宙局）内の高位にある幹部連は、状況にたいする完全な知識を持つていた。しかし二十一年間、宇宙開発による発見事と諸惑星の状態の完全な誤った情報が流されて一般化した。こうしてオーソドックスな科学的考え方方が文句なしに支持され、その結果、UFO問題はさらに論争的となり、大衆にとっては見たところ解けそうにもない謎になってしまったのである。

したがつて本書の主な部分は、UFOの最近の歴史とともに、火星、金星、月などに関する実際の惑星としての状態を説明するつもりである。要約すれば、本書は宇宙科学に関する最新の発表なのである。

読者は私が最初どのようにしてこの分野（UFO問題）を始めたかを興味をもつて知りたいだろう。

UFO問題についての私の探究は一九七四年に始まった。ニューヨーク州北部地方で発生した、しっかりした文書で証明されているあるUFO目撃事件のあとである。その当時以前にさ

かのばると、私はUFO問題について知らなかつたし、宇宙の探査に関心はなかつた。しかしながら初期に受けた教育以来ずっと私は普通の状態で理科系の勉強を続けていた。

多くの学生と同様に私も化学、生物学、物理学、数学などの大学進学コースのすべてを勉強した。高校を出て約一年たつたとき、私は米海軍へ入り、潜水艦勤務につこうと決心した。原子力潜水艦に乗つて冒険に満ちた勤務の旅に出ることに胸を躍らせたのだ。

そこで一九六六年の初頭に私は入隊し、イリノイ州グレートランクスにて原子炉オペレーターになるための原子力訓練教科課程を受けていた。ここでは基礎訓練を受けているあいだに私は海軍の電子工学校へ入つて原子炉オペレーターになるための原子力訓練教科課程を受ける資格を得た。電子工学校の三十八週間コースを終了したあと、私はサンディエゴへ向かい、潜水艦補給船に乗つて一時的な勤務についた。一九六八年、カリフォルニア州の海軍の学校で私の原子力関係訓練が始まったが、これは原子物理学、原子炉施設取扱技術、化学、放射能理論、流体力学などに関する完全な教育プログラムだった。

この十二ヶ月の教科課程を完了するためには私はアイダホ州の海軍原子炉試験場で模範的な訓練を受けた。続いてコネティカット州のある短期学校を終えた後、私はサンディエゴの急速攻撃

潜水艦勤務を命じられた。

ところがある日、びっくりするよう命令がくだった。カリフォルニア州のメアアイランド造船所で新規に建造中の潜水艦へ転属せよというのだ。

この潜水艦はUSSビンタード(SS N 672)だった。長らしい建造期間中、乗組員はその艦の原子炉の第一、第二パワープラントの操作テストのあらゆる面で完全な教育を受けた。これらを完了するためのあらゆる段階に乗組員にたいする新知識のきびしい学習と応用が含まれていた。新しい潜水艦を艦隊に編入するのに手つ取り早い方法はないし、しかも乗組員が教育を受け高度に有資格者になる近道もないのだ。その潜水艦の任務に統いて、私たちは原子炉操作安全試験で最高の遂行評価を受けた。これは海軍の原子力潜水艦すべてにたいして毎年実施される試験である。

太平洋艦隊の新しい艦として私たちには西海岸沿いの各軍港にむかって出航した。カナダとハワイへ行つたあと、母港サンディエゴに帰ってきた(訳注:サンディエゴはカリフォルニア州南西端の港市。米海軍太平洋側最大の基地で、海軍航空隊、海軍基地、海兵隊基地などがある)。この潜水艦乗りの体験は難儀な仕事と冒険の組み合わせである。私が海軍にいることは愉快な生活のように思われた。

ピンドに乗り組んでからの三年間

は一九七二年で終わり、そのあと私は電子工学の高度な勉強のためにコロラド州のPME学校へ行つた。私の海軍兵役の最後の十六ヵ月間は別な潜水艦ですごしたが、これはコネティカット州グロトンの海軍潜水艦基地を母港としていた。その艦に乗つていたあいだ、軍事行動のために東海岸の各港へ寄港し、バージン諸島へも行つた。二ヵ月の別な航海で北極圏を通過し、北スカンディナビアをまわり、白海にまで入つて行つた(訳注:白海はソ連北西部の海、北極海の一部)。

回想すると、いま私にわかるのは、海軍にいたあいだ世界で発生している他の事柄について私は全く何も知らなかつたということである。大気圏外で起こっている出来事については言うまでもない。海軍生活は人間によつて造られたもののなかで最も精巧な技術的機械(潜水艦)に乗つた教育的な冒険だつたし、私は意欲をそそる仕事に没頭した。その結果、他の関心事を追求したり多くの物事を読んで調べる時間は全然なかつた。宇宙問題に関してはアメリカが月へ宇宙船を送つて帰還させたということしか知らなかつた。

私は最初その目撃のことを、グレンズフォールズのWWSUラジオ局が

空中に停止し、次に低空で空中をさまざまの方向に飛んで行くのを数百名の住民が目撃したのだ。

私は最初その目撃のことを、グレンズフォールズのWWSUラジオ局がギューラー番組を中断して、興奮した住民たちが放送局へ電話をかけてきたのを流し出したときに聞いた。私は家族とともに屋外へ出てトランジスタラジオで放送を聞き続けた。すると数百名の人々がラジオ局の近くへ集まつてUFOを目撃していることがわかつた。私のいた所からは良好な視界が得られたので、群衆が集まつていた場所まで一マイルばかりをドライブしないことに充分な理解を得ることができるだろう。私が海軍を除隊してまもなくある出来事が発生し、それがこの新しい方向における私の探究に拍車をかけたのである。

グレンズフォールズ大UFO事件

私はカリフォルニア州サンディエゴへ移動する前、ニューヨーク州北部地区そこでサンディエゴ州立大学において三年間の学業をおさめたのだ。私は多くの学科から提示されいろいろな課目を勉強した。人文学、自然科学、哲学、機械工学、文化史、心理学、さらには上級クラスの実験コースに至るまで勉強した。

しかしその期間中に私は大学の学習以上に別な分野の個人的な研究調査の方をやつていた。私の努力の一部は見つけるのが困難な書物、雑誌、ほとんど知られていない刊行物を探すのに多くの時間と金を必要としたのである。

何かの一職業に必要な知識を超えた別な知識を求めていた。

この新しい限界のない分野は宇宙科学と宇宙時代の哲学であった。しかしそれはいかなる国も宇宙開発計画とほとんど関係はなかつた。むしろそれは基礎的な真実を求めての独学と自習による探究である。そうしてこそ多くの分野からの知識を統合して生命のより多くの人がラジオ局の近くへ集まつてUFOを目撃していることがわかつた。私のいた所からは良好な視界が得られたので、群衆が集まつていた場所まで一マイルばかりをドライブしないことになるだろうし、ドライブ中に視界が悪くなると思われるからだ。しかも物体群はいつ永久に飛び去つてしまふかわからない。

州と地元の両警察が現場にいて交通

整理をし、大群衆にむかって近くの遊園地へ移動せよと呼びかけている放送も聞いた。

私は物体群を見つけようとして空を眺め渡したが、夜空を見るに慣れていらないため、最初に見たのは結局輝く星々のかたまりだつた。しかしながら数分後に突然一機の輝くオレンジ色の物体が急速に視界を横切るのを見た。それは完全に停止し、ちょっとのあいだジツとしてから方向を逆転し、飛んで帰つて、もっと弱く光つている一群の物体に加わつてしまつた。そのスピードは信じられないほどで、それから全物体群は空中の別な領域へゆつくりと移動した。

これは私にとって印象的な美しい瞬間だつたが、空中のあの輝く物体を見た人々のほとんどもそうだつたろうと思う。この船団はその夜中、しばしば密集して移動し、美しい蛍光色を放つていた。この気持を言葉であらわすのはむつかしいが、突然きわめて多くの想念と印象が私の心中を通過した。この物体群が知的に操縦されている船団だということは疑いのないことだ。どこから来たのかはわからないが、地球と彼らのホーム惑星間に密接な関連があるという絶対的なフィーリングがあつた。多くのフィーリングは実際言葉であらわしにくいし、そのときにそうするべき理由もないように思われた。それはただ畏怖、驚異、啓蒙のフ

イーリングだつた。私が目撃したそのUFO出現事件は、宇宙は地球人だけではないということを私に納得させる証拠となつたのである。それは言葉では伝えられないような、とてつもない実感であり、平安なフィーリングだつた。

その夜、ラジオ放送を聞いたあとで興奮の原因が何であるかを知ろうとして目撃地点へ多くの人がやつてきた。

たぶんには懐疑的な人もいたことだろう。目撃の持続時間はさまざま、いつ出てくるか予測しがたいものだが、忍耐強い大多数人人はその夜數カ所で船団をチラリと見た。多くの人はこの印象的な出来事が大気圏外から来た宇宙船の否定できない出現だと感じていた。たしかに物体群を見ただけでその発進地を特定することはできなかつた。そして多数の人はたぶん自分自身の推測や説を持つてゐるだろう。

午後八時頃、ラウンド湖の農業共同

F.O.目撃事件は、文書によつて証明された史上最もすぐれた事件の一つになつてゐるのだ。というのはこの事件は州警察、郡保安官、オールバニー空港の連邦航空管制塔、さらにすでに述べた数百の市民などが関連しているからだ。

午後八時頃、ラウンド湖の農業共同生活体付近の住民たちは、州警察へ電話をかけて、空中に多数の光体を目撃したと報告した。パトロール警官マイクル・モーガンは調査をするためにその地域へ派遣された。到着してから彼と同僚の警官はサラタガ湖上空をゆつくりと移動して行く大きな軟式飛行船型の物体に気づいた。その巨大な物体は赤味を帯びた脈動するような蛍光で輝いていたが、続いて警官は二機の小さな白色の物体が約四百五十メートルの高度で飛んで行くのを認めた。見たところ大きな光る飛行船型物体の中へ入つて行くようだつた。

一新聞は八月二十二日号に事件のあつた夜に関してすぐれた記事を掲載し、大気圏外から来た物体群による驚異的な光景を数百の住民が目撃したと書いた。

これは私が目撃した事件である。しかし後になつて私はニューヨーク州の州都オールバニー付近に住んでいた住民たちによつてその夜早くもつと多くの目撃事件があつたことを知つたのである。

オールバニーの目撃事件

長口パート・キングと勤務中の管制官たちは四つのレーダースクリーン全部にその巨大な物体を追跡することができた。突然、例の二機の小物体がふたたび現れて、もと来た方向へ飛び去つた。

葉巻型物体はゆつくりとターンして

近くの警察の隊舎の方へ移動したが、続いてそれはオールバニーの方へまさにスピードで加速して飛び去つた。その地域で訓練飛行をやつていた空軍の一パイロットは、一機の物体が基地

へむかう自分の航路を横切つていま飛んで行つたと連絡した。

管制塔では係官たちがレーダースクリーンを見つめて、その物体のスピードを時速五千七百六十キロメートルと計算した。この物体の飛行は州のパトロール警官ウォーレン・ジョンソンも見た。彼はたまたまオールバニー付近の八十七号ハイウェーで止まつていた

この事件後まもなく、別な光る物体群が目撃され、報告されたが、これはオールバニーの民間航空パトロール隊が調査のために飛行機を飛ばしたときである。

一パイロットが二千四百メートルの高度で飛んでいたとき、一機の無音の物体が彼の飛行機の近くを信じられないほどのスピードで通過するのを見たのだ。管制官たちは別なレーダーにスイッチを入れて、スクリーンに急速に

動く物体を発見した。クラッター消去（障害電波消去）装置を用いて彼らは一機の固型物体を追跡していったことを再度確認した。それがオールバニー地域から消えるにつれて四千八百キロから八千キロメートルに加速したのである。

一九七四年八月以前に私は宇宙科学を研究しようという個人的理由をもつなかつた。そのあと私は自分や数百名の人々にとってUFOが存在するという証拠となつた事件を自撃するのにまたまた適当な場所にいたのだが、私が私は解答を知りたかった。私は謎だけだけつして満足はしない。UFOが存在することを知るだけでいかなる主眼點があるといふのか。これらの宇宙船はある理由または目的で地球以外の生命をわれわれに気づかせようとしていたのだ。この宇宙からの訪問者たちは地球の文明にただあれこれと思いをめぐらすだけで果てしない混乱の中にわれわれを残そうとしているのだと私は信じなかつた。宇宙空間の航行は確実に知性体の存在を信じさせることになるので、それで彼らは地球の信頼できる信用のおける人々と実際にコンタクトする方法を用いてきたのだろう。

例の自撃の興奮は住民のあいだで数日間続いたが、妻と私にとっては大陸

を横断してサンディエゴへ荷物とともにドライブするべき時となつた。そしてまもなく私は一市民として最初の数カ月を楽しんでいた。南カリフォルニアのこの美しい地域に住んだので、特に楽しかったのである。浜辺、気候、公園、町の夜などは私たちが心から望んでいたものだつた。私たちは海岸ぞいに短い旅行をしたり、北方のパロマ一山へ登つたり、南方のメキシコへ行つたりした。別な日には私の古い艦船の基地であつた海軍潜水艦桟橋へも行つた。その町の東に横たわっている山岳地帯へキャンプに行くこともあつた。サンディエゴの新しい家で未来が輝いて保証されているように見えた。

岳地帯でキャンプに行くこともあつた。サンディエゴの新しい家で未来が輝いて保証されているように見えた。

優秀な指導者について アダムスキーキー問題を知る

私たちが新しい環境に落ち着いてまもなく、私は一冊の小さなペーパーバック本を見つけた。その内容は考古学上の謎とか地球上の未解決の謎に関するもので、過去の大気圏外からの訪問者に関する諸説について短い論説も載つていた。その本は多少とも興味はあるものだつたが、厳密に言うと、基本的には意味のないものだつた。私の興味は急速に失せて、まもなくその本のことはすべて忘れてしまつた。UFOや古代の謎について書いた多くの本はそんなものなのだ。決定的なものはほとんどなく、推量や推測が済んでいた。

長い年月を経ていまここで書きながら私が個人的に証言できるのは、単なる好奇心または何かを信じることと、惑星間宇宙船の証拠に関するところの宇宙空間で発生している物事の背後にひそむ真実の知識とのあいだには極端に大きな差があるという事実である。だれしも単に自分自身の推測または他人の推測でもつてその間隙を埋めて、これがUFOに関する知識だと称することはできない。真実というものは人間の希望的観測に支配されないのである。

新聞を読んでいるとき、私は地元の

他の人の時間をむだにはしなかつた。そこにはたしかにUFO問題に関する既知数。があつたし、多くのUFO写真は吊り鐘型のスカウトシップであった。その先生は空軍の記録にもとづいたセミドキュメンタリーのフィルムを全員に見せた。

その先生はただちに私の尊敬の的に大きな差があるという事実である。だれしも単に自分自身の推測または他人の推測でもつてその間隙を埋めて、これがUFOに関する知識だと称することはできない。真実というものは人間の希望的観測に支配されないのである。

新聞を読んでいるとき、私は地元の

職業上の地位を守ろうとするインテリのコマを映写したが、そのほとんどの写真は吊り鐘型のスカウトシップであった。その先生は空軍の記録にもとづいたセミドキュメンタリーのフィルムを全員に見せた。

その先生はただちに私の尊敬の的に大きな差があるという事実である。だれしも単に自分自身の推測または他人の推測でもつてその間隙を埋めて、これがUFOに関する知識だと称することはできない。真実というものは人間の希望的観測に支配されないのである。

新聞を読んでいるとき、私は地元の

職業上の地位を守ろうとするインテリのコマを映写したが、そのほとんどの写真は吊り鐘型のスカウトシップであった。その先生は空軍の記録にもとづいたセミドキュメンタリーのフィルムを全員に見せた。

その先生はただちに私の尊敬の的に大きな差があるという事実である。

「なぜ彼らは地球へ来るのか」という疑問を解きたがっていたのである。

先生はUFO存在の証拠に関する全領域について博識ぶりを示しながら話のだった。アダムスキーは空飛ぶ円盤に関する三冊の書物を書き、惑星間訪問の問題について自分の意見述べたことで世界的に認められていた人である。彼の最初の著書「空飛ぶ円盤は着陸した」を私が一冊見つけるのに約一週間を要した。私たちはアダムスキーの他の二冊の書物のペーパーバック版を入手することができたが、ただし後になつて私はその二冊の元のハードカバー版を古本屋で見つけた。

先生は一枚の推せん図書一覧表をくばつたが、それは約二十冊の書物の著作目録だった。当時これらはほとんど絶版になつていたけれども、結局私はサンディエゴとロサンゼルスの古本屋を歩きまわつて、その全部を手に入れた。

▲ジョージ・アダムスキー

アダムスキーの最初の「コンタクト

「空飛ぶ円盤は着陸した」におけるジョージ・アダムスキーの記事は正直で簡明な論説である。彼の話は新しい問題において知的に新天地を開いた。その問題は一九五三年までに円盤関係報告に関して世界中の人々の好奇心をそそっていたのだが、アダムスキーは

ぜ彼らは地球へ来るのか」という疑問を解きたがっていたのである。

先生はUFO存在の証拠に関する全領域について博識ぶりを示しながら話のだった。アダムスキーは空飛ぶ円盤に関する三冊の書物を書き、惑星間訪問の問題について自分の意見述べたことで世界的に認められていた人である。彼の最初の著書「空飛ぶ円盤は着

陸した」を私が一冊見つけるのに約一週間を要した。私たちはアダムスキーの他の二冊の書物のペーパーバック版を入手することができたが、ただし後になつて私はその二冊の元のハードカバー版を古本屋で見つけた。

先生は一枚の推せん図書一覧表をくばつたが、それは約二十冊の書物の著作目録だった。当時これらはほとんど絶版になつていたけれども、結局私はサンディエゴとロサンゼルスの古本屋を歩きまわつて、その全部を手に入れた。

私が入手した貴重な書物のほとんどは図書館でも見られないし書店にもない。人間は自分自身の図書館を作り上げねばならないのだ。私は公共図書館もよく利用したし、必要なものはコピーにて取つた。しかしこの手の研究調査は数年以上の期間を経てゆっくりと展開していくものだ。宇宙科学に関する私の新しい興味は、ジョージ・アダムスキーによつて書かれた著書類を読んだ後に、全く自然に起つてきたのである。

「空飛ぶ円盤は着陸した」におけるジョージ・アダムスキーの記事は正直で簡明な論説である。彼の話は新しい問題において知的に新天地を開いた。その問題は一九五三年までに円盤関係報告に関して世界中の人々の好奇心をそそっていたのだが、アダムスキーは

しかしその頃まで私はUFO問題と関連分野に関する別な百五十冊ばかりの本を集めている。科学、考古学、文化史、天文学、天体物理学、気象学、神話学、哲学、重要な伝記類、そして世に知られていない無数の刊行物などである。また月に関する多くの書物や記事も集めた。私は科学雑誌類を研究し、それらから記事を切り抜いてファイルし始めた。新聞の切り抜きも集めた。

私が入手した貴重な書物のほとんどは図書館でも見られないし書店にもない。人間は自分自身の図書館を作り上げねばならないのだ。私は公共図書館もよく利用したし、必要なものはコピーにて取つた。しかしこの手の研究調査は数年以上の期間を経てゆっくりと展開していくものだ。宇宙科学に関する私の新しい興味は、ジョージ・アダムスキーによつて書かれた著書類を読んだ後に、全く自然に起つてきたのである。

パロマー山の自宅から望遠鏡による空の観測を数百夜続けた後、アダムスキーは少なくとも十二枚の写真を撮影したが、これらは空中や月の近くを動くまわる飛行物体が地球のものでないことを示すほどに優秀なものだつた。パロマー山の自宅から望遠鏡による空の観測を数百夜続けた後、アダムスキーは少なくとも十二枚の写真を撮影したが、これらは空中や月の近くを動くまわる飛行物体が地球のものでないことを示すほどに優秀なものだつた。一九五二年までに彼は、円盤はしばしばアメリカの軍事基地近くで見られるとか、ときには遠い砂漠地帯に短時間の着陸をするとかの多くの報告を聞いていた。アダムスキーは自分のカメラ道具や六インチ望遠鏡を車に積んで、こうした遠い地点へ何度も旅をしたけれども、近距離で物体を見るに成功しなかつた。しかしついに例の年の十一月だった。手取り早くアダムスキーは二人の助手とともにパロマー山の自宅を出た。カリフォルニア州のモハーヴェ砂漠近くのある地点へ車で行くことになつて、四名の知人に会うためだ。

ブライズの町に到着後、彼らはデザートセンターと呼ばれる小さな町へ車で引き返すことにきめた。そしてそこからパーカー・ハイウェーを十七・六キロメートルほどドライブし続けた。

この宇宙の物体を写真に撮影するため、自分の五年の長きにわたる努力をと闘ったが、ついにそれが実現した。それは実際には力なりの本を集めていた。科学、考古学、文化史、天文学、天体物理学、気象学、神話学、哲学、重要な伝記類、そして世に知られていない無数の刊行物などである。また月に関する多くの書物や記事も集めた。私は科学雑誌類を研究し、それらから記事を切り抜いてファイルし始めた。新聞の切り抜きも集めた。

パロマー山の自宅から望遠鏡による空の観測を数百夜続けた後、アダムスキーは少なくとも十二枚の写真を撮影したが、これらは空中や月の近くを動くまわる飛行物体が地球のものでないことを示すほどに優秀なものだつた。パロマー山の自宅から望遠鏡による空の観測を数百夜続けた後、アダムスキーは少なくとも十二枚の写真を撮影したが、これらは空中や月の近くを動くまわる飛行物体が地球のものでないことを示すほどに優秀なものだつた。一九五二年までに彼は、円盤はしばしばアメリカの軍事基地近くで見られるとか、ときには遠い砂漠地帯に短時間の着陸をするとかの多くの報告を聞いていた。アダムスキーは自分のカメラ道具や六インチ望遠鏡を車に積んで、こうした遠い地点へ何度も旅をしたけれども、近距離で物体を見るに成功しなかつた。しかしついに例の年の十一月だった。手取り早くアダムスキーは二人の助手とともにパロマー山の自宅を出た。カリフォルニア州のモハーヴェ砂漠近くのある地点へ車で行くことになつて、四名の知人に会うためだ。

ブライズの町に到着後、彼らはデザートセンターと呼ばれる小さな町へ車で引き返すことにきめた。そしてそこからパーカー・ハイウェーを十七・六キロメートルほどドライブし続けた。

アダムスキーはすぐ次のように考えた。もし一同がハイウェーの近くの地点にとどまつていたら、当然ながら走りすぎたドライバーたちの好奇心を引きつけることになるだろうから、個人的なコンタクトの機会を失うかもしれない。

ないと。そこで彼と仲間の二人は廃棄された射撃場の荒れた道路を車で行つて、もと一同がいた場所から約八百メートルの所で停車した。この間三人はずつと大宇宙船を見続けていた。

カメラ道具をセットしているあいだにアダムスキーアは他の二人にたいして四名がいる場所へ引き返し、もし何かが起つたら全員で観察するように伝えてくれと頼んだ。

アダムスキーアは何かが起るだろうという確固たるフィーリングを持つていたが、ちょうどそのとき大宇宙船はターンして反対方向へ行つてしまつた。数機の軍用機が突然空中に飛来し、見ただところ円を描いて巨大な宇宙船の正体をつきとめようとしているらしかつたが、宇宙船は急速に上昇して、アッという間に空中に消えてしまい、あとには米陸軍機がむなしく旋回しているだけだつた。

さらに五分間がすぎたとき、アダムスキーアは突然空中に閃光がきらめくのに気づいた。一機の美しい小型機が近くの二つの山の峰の間のくぼみの方へむかってゆっくりと滑空して来る。彼は携帯用望遠鏡に取り付けてあつたカメラで二、三枚のスナップ撮影をし、続いて別なカメラを取り出して一枚の写真を撮つたら、小型機は突き出た丘の群れのむこうへ消えた。

アダムスキーアはそれほどまでに接近して小型機を見たことで畏敬の念を起

こし、数分間がすぎるにつれて、次に何をすべきかを考えていた。

すると突然、彼は二つの低い丘のあたりの山峠近くに一人の男が立つているのを見た。その男は自分の方へ来て地域の鉱山師なのか？ たぶんやはりあの小型機を見た人なのだろうし、それとも助けを求めている人なのかな？

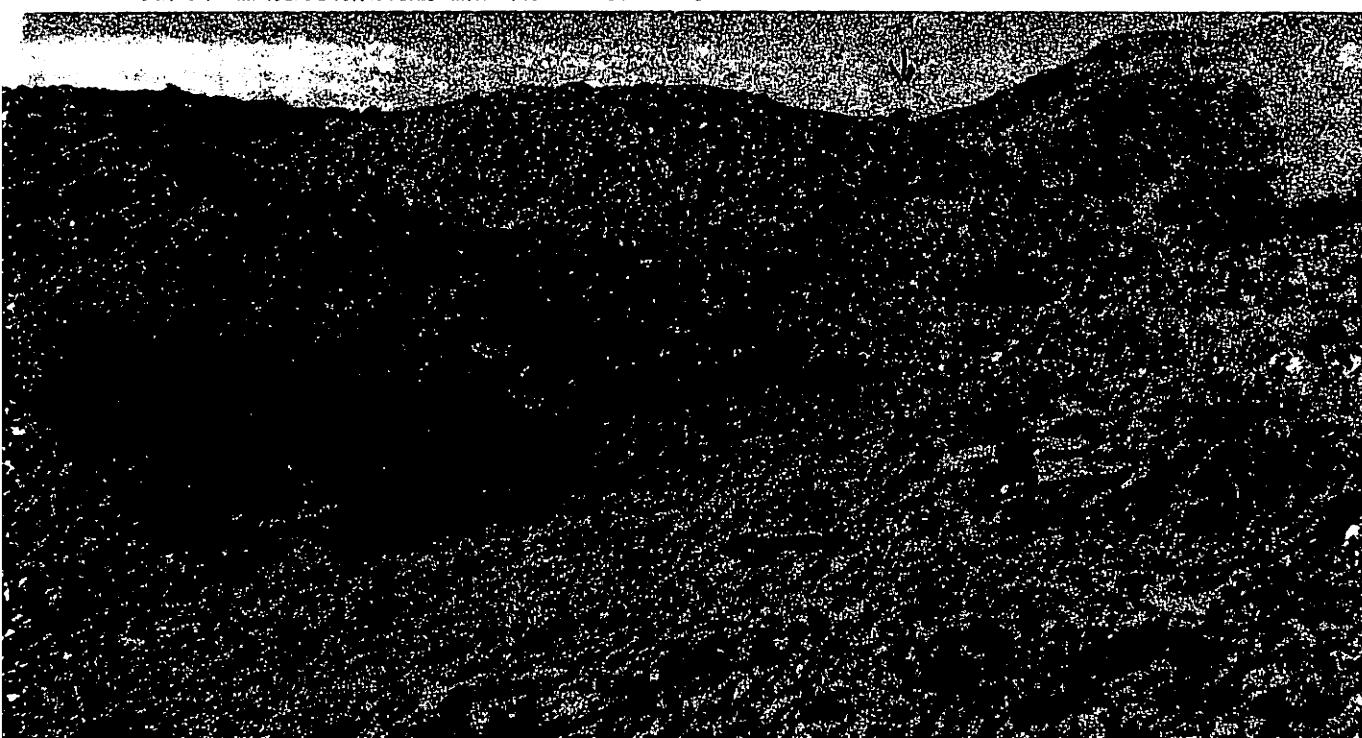
その男は約四百メートル彼方にいるので話しかけるのはむりだ。アダムスキーアはその男の方へ歩いて行くことにしたが、その間、道路付近の友人たちにその男が充分に見えているはずだと考えていた。

アダムスキーアは接近するにつれて、その男が友好的な態度で微笑しているのがわかつた。見たところ若そうで、着ている服はやや違うものだつた。スキータイプのズボンのついた上下統合の服のように見える。アダムスキーアが接近すると、その男も数歩前方へ歩み寄つたので、ついに二人は互いの腕の長さ以内の位置に来た。

その瞬間、一音も発しないのに、アダムスキーアは自分が宇宙から来た人の前にいることにはつきりと気づいたのである。別な世界（別な惑星）から來た人間なのだ。

その訪問者はすぐに限りない理解と親切さのフィーリングをアダムスキーアに印象づけた。そのときまではほん

▼1952年11月20日、アダムスキーアが6人の同行者とともに着陸した円盤を目撃したカリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯。矢印の下に黒く見える物体が円盤。船体の半分は丘に隠れている。



のわずかの警戒心すらアダムスキーから完全に消え去っていた。アダムスキーは相手の楽しそうな高貴な容貌に大いに関心があつたので、最初はその小型機について質問しようとは思わなかつた。彼は著書で次のように述べている。

「相手は握手するかのような態度で片手を差しのべた。私は自分たちの習慣的なやり方でこれに応じた。しかし相手は微笑し、頭をかすかに振ってこれを拒んだ。われわれが地球上で行う握手のかわりに、彼は片手の掌を私の片手の掌にぴたりとくつつけた。ただ触れただけで、強く押しつけたのはない。私はこれを友情のしるしだと解釈した。

相手は身長約百六十五センチで、体重は——われわれの標準に従えば——約六十キロである。年齢は二十八歳程度と推定したが、もつと年をとつてい

たのかもしない。
丸顔で極端に広い額があり、大きくて穏やかな灰緑色の目を見せており、両横に少し傾いている。頬が西洋人よりも少し高いけれども、インディアンや東洋人ほど高くない。鼻はすてきな形だが、特に大きくなはない。普通の大きな口の中に美しい白い歯があつて、微笑したり話したりするときに輝いた。その宇宙人の髪は長くて両肩まで届いており、色は砂色で、風に吹かれて少し揺れていた。アダムスキーは相手の皮膚が美しく、手頃に日焼けしたような色に似ていると述べている。顔のヒゲをそつたように見えない。といふのは相手の顔には子供と同じように毛がないからだ。

その男の衣服は非常にきめこまかく織られた生地のもので、長い袖とズボンの脚がついていたとアダムスキーは記している。それは腰のまわりを取りまいている金褐色のベルトを除いてチヨコレートブラウン色だつた。それは宇宙旅行用の非常に快適なユニフォームであるよう見えた。アダムスキーはいかなるチャック、ボタン、バックルなども見なかつたし、その男が指輪時計、その他の装飾品を着けていないのに気づいた。靴は革に似ていたが柔らかくてしなやかで、爪先は丸かつた。

テレパシーは自然の能力

その男の外観について考えをまとめたのかもしれない。

丸顔で極端に広い額があり、大きくて穏やかな灰緑色の目を見せており、両横に少し傾いている。頬が西洋人よりも少し高いけれども、インディアンや東洋人ほど高くない。鼻はすてきな形だが、特に大きくなはない。普通の大きな口の中に美しい白い歯があつて、微笑したり話したりするときに輝いた。

ながらアダムスキーは最初の質問をして、どこから来たのか、と尋ねた。

「たしかに、彼が考へてることもわかつたと思つた。」

テレパシーは自然の状態である。そ

れは心靈的な事柄、超感覚的知覚（ESP）、または他のかたちの希望的観測

などとは関係ない。それは“超感覚”ではない。なぜなら各感覚と関連した

自然のフィーリングであるからだ。

いかえれば、それは想念を伝達させる

手段などを用いて、自分の考へている

ことをあらわそうとした。テレパシーは最も重要な、フィーリングという感覚を通じて想念や心中のイメージを伝えることのできる自然の表現法である。

アダムスキーはこの線にそつて研究を続け、三十年以上もこれを事実として教えていたのだ。

「これは人間やあらゆる生き物にそな

わつている自然の先天的な能力である。

しかし心はいつもの個人的想念、感情的な闘争、日常の不安などをなくさねばならない。気分を浮きたたせるような宇宙空間の自由な状態にあり、しかも心が日常の不安から解放されたアメリカの宇宙飛行士たちは、突然にこの

道を回る惑星である。彼はその答を繰り返し、「金星」という言葉を口に出

して実際にそのことを確証した。

なぜあなたがたは地球へ來るのかと

いうアダムスキーの質問にたいして、

大気圏内の核爆発の実験の結果、宇宙

空間へ出て行く放射能に關心があるか

らだと相手は答えた。しかし彼らが地

球へ來るのは友好的なものだというこ

とがアダムスキーにわかつた。

（以下次号）

静岡支部大会開催の興奮と歓喜の一夕——頻繁に出現——遠藤昭則

静岡支部大会開催の興奮と歓喜の一夕——頻繁に出現——遠藤昭則

二千年以上もの昔からこの太陽系内の近隣惑星群の方々によってスペース・プログラムは続けられて来ています。そして今回の静岡での出来事はそれを確証するもの一つとなるかもしません。

静岡支部が結成されて今年で満十年ということで、五月四日（日）に静岡駅から歩いて三分程の所にある静岡ステーションホテルにおいて静岡支部大会が盛大に挙行されました。

私は第一回目の大会以来毎年参加させて頂いておりますが、年々参加者がふえてくるのを見ると、あらためて野口静岡支部代表、そして同支部の方々の大きな力を感ぜずにはいられません。

今年は大会の始まる一ヶ月程前から上空に思念をしていました。大会の当日かその翌日に円盤が出現してくれればよいのだがと思っていたからです。

五月二日（土）、大会の二日前。いよいよあさっては大会の日だと思うとなぜか心が宇宙的になつてくるようでした。夜九時頃、机に向かっていると心地よいフィーリングが湧き起つて来ました。

きました。円盤が上空にいる時や、少しして後に円盤が現れる時などに湧き起るフイーリングです。急いでベランダに出て夜の空を見上げましたが、そこには円盤その他の発光体は見えず、ただどんよりとした雲があるだけでした。上空に見えるかと思つて出たので少しがつかりしましたが、あのフieriングは続いていました。それで上空に向かつて再度思念をしてみました。部屋に入り、考えてみると、これは静岡で素晴らしいことが起こるということだなという印象が湧き起つてきました。

そこで二十分間の休憩となりました。私はこの大会の素晴らしいことにしばらく呆然としていました。ふと松村氏と安藤氏が受付の横で会員バッジを即売していました。そこで浜名湖パークイング工場を乗せて車で東名高速道路を走っていました。そして浜名湖パークイング工場へと移つて行くにつれてますます熱気を帯びてきました。

両氏の講演が終了したのが三時半、始まつた大会は高梨氏の司会で

見えたので覚えてます。あと五分で休憩時間が終了するという時になつて、円盤が出現するからカメラを用意せよという印象が強烈に湧き起つてきました。

浜名湖で円盤を撮影

見てここで話は少しさかのぼりますが、今年の三月二十日のことです。私は妻の友人の結婚式に出席するために乗せて車で東名高速道路を走つていました。そして浜名湖パークイング工場で休憩をすることになりました。

車がパークイングエリアに到着して外に出ようとするとき、カメラを持って行けリアで休憩をすることになりました。外に出て空を見上げるとまるで円盤がその中にいるような雲がありました。しかし私の内部では、そこを見ているのではなくて反対側の空を見よという声なき声がありました。

私は慌ててカメラを向けて撮影しました。その後しばらく反対側の空を見ていると、やや右の空にまつ白な円盤が現れて水平飛行を始めました。

私は慌ててカメラを向けて撮影しました。後に想像してその物体が写つていったのは言うまでもありません。

その時の体験を覚えているので、五月四日静岡でのこの時も円盤は出現するという印象がありました。

方向から上方にかけて円盤がいるるかもしれない、私の横にいた安藤氏に話してカメラを用意してもらおう

母船型の雲を見る

五月三日（日）、静岡に午前十一時半に到着しました。着いてからは色々と見学をして、夕方ホテルに戻り、一晩つきました。夕食をとつている時もつとしたらあの雲の中に母船がいるのかもしれないと思って見ていましたが、まだ、今度の大会では円盤が必ず出現するという印象がありました。

五月四日（月）、空は昨日とは違つて良い天気になりました。静岡支部大

と思いました。しかもしも出なかつたらどうしようという気持ちのために氏に言ふことはできませんでした。しかしなく会場の中に入り、後の方の窓際にある席へ戻ることにしました。そしてそれはどんどん上昇しているそうでした。私はこのことだつたのかと思い、氏の指さす方向を見ましたが分かりません。そこで先程感じた印象を確認するために、印象で感じたコースを描いて尋ねると、そうだということでした。このタイプの円盤は翌日の市内観光のときに度々出現することになりました。

母船の映像を透視

さて翌日の未晴らしい出来事に入る前に不思議なことを付け加えておきましょう。三時五十分から始まつた久保田会長の宇宙的パワー溢れる講演の途中で、巨大な金星の母船の映像が透視映像のように見えました。私の目の錯覚かと思つていました所、他に二人の方も全く同じ映像を見たということを後に聞きました。上空からのパワーが先生の講演の時に送られていたのでしょうか。

五月五日（月）、快晴。市内観光は最高の天氣です。バスには全国から参加された約六十名の方々がこの日の

乗車しました。しかしながら必ず乗ってみると橋口氏が空を指さしてキラキラ光る円盤が見えると言つていました。そしてそれはどんどん上昇していました。

素晴らしい出来事を期待するかのよう乗り込んでいました。午前十時を少し過ぎてからステーションホテルを出発して一路浅間神社へとバスに向かいました。上空から必ず出現するというフィーリングがあります。

自撃前のフィーリング

先程からよくフィーリングを感じたというようなことを書いていますが、それはどのようなフィーリングなのだと思います方がおられるかもしれません。ここでそのフィーリングのことについて書かせて頂こうと思います。

Uコン96号に「想念放射、透視、UFO自撃」という題で拙文をのせて頂きましたが、その中に昨年の十月十四日の円盤自撃のことが出てきます。その自撃の時に思ったことは、ただ見ているだけではいけない、さらにそれを越えてスペース・ピープルの波動を感じてみようということでした。そして受けた感じを身体で覚えることにしました。それ以来、円盤を自撃する時にはそれに似た感じが起ることがあります。

母船の映像を透視

さて翌日の未晴らしい出来事に入る前に不思議なことを付け加えておきましょう。三時五十分から始まつた久保田会長の宇宙的パワー溢れる講演の途中で、巨大な金星の母船の映像が透視映像のように見えました。私の目の錯覚かと思つていました所、他に二人の方も全く同じ映像を見たということを後に聞きました。上空からのパワーが先生の講演の時に送られていたのでしょうか。

五月五日（月）、快晴。市内観光は最高の天氣です。バスには全国から

時もあります。それでそのフィーリングをうまく起こすようにするには、円盤をよく見るようにして、そのフィーリングを蓄積していかなければなりません。

最近分かつてきましたことがあります。それは私が一人でいる時に自撃する円盤がそれぞれ同じような波動を持つているということです。これから考えらることは、円盤とコンタクトする人は、その人専門の波動を持った円盤とコンタクトするのではないかということです。つまりその人を専門に見て下さっているスペース・ピープルのグループがあるということです。

これで上空からのフィーリングを感じたことがお分かり頂けたでしょうか。うまく感じられるようにするには忍耐強い自己訓練が必要です。

バスの中は大騒ぎ

さてバスの中に戻りましょう。バスの前の方に座っている人々の間から、「あつ、見える、見える」「ほらあそこ、あそこ」という声が起きました。見るとキラッキラッと光る円盤が山の上をゆっくりと飛んでいます。まるで私達を祝福するかのように、鳥のように悠然と飛んでいるではありませんか。

また円盤とコンタクト（と言つても自撃するだけですが）をしようとするときにはそのフィーリングを自分から起こすようにしています。しかしこのフィーリングはなかなか起こしにくい

スは道なりに曲がつて走っているので、円盤は途中で山のかけに隠れてしましました。バスの中では、これからすごいことが起こるのだという気持ちが皆の間にありました。まだそこには円盤が母船

がありましたが、そこでガイドさんの簡単な説明を聞いて中へ入りました。まだ塗りかえたりのようになやかな色をした装飾のある社が正面に見えます。ここで自由時間となりました。

多くの会員が神社ではなくて空の方を時々見ていました。私はただ、どこどこだと見ているのは疲れるので、あまり上は見ませんでした。ここでの神社は良いフィーリングを感じる所なのですが、その中でも特に良い場所はどこだろうと思つて妻と境内の玉砂利を踏みしめながらゆっくりと歩いてみました。またせつかくここに来たのだから拝殿の中も見てみようと建物に近寄つてみました。

白いフォース・フィールドの円盤

よい印象を受ける場所に近付くなが

ら、私が時々見る円盤はこういう時に出てくれないのかな、もし近くにおられたら姿を見せて下さいと何気なく思いました。そこはとても良いフィーリングを感じる所でした。少しその場所に止まってそのフィーリングを感じました。青い空、向こうの山々から降りて来るであろう風の爽やかさ、それらを感じて深く呼吸をしました。

妻が歩き出したので私も歩こうすると内部に印象が湧き起つてきました。

「待て、待って上を見ていろ」

と。足は歩こうとするのですが、どうしても見ていろという気持ちになり、立ち止まって上空を見ていました。爽やかなとても良いフィーリングです。しばらくして橋口氏が私のすぐ後ろに来て叫びました。

「あっ、あれ、あれ！」

と音つて私の見ていた方向の空を指しています。よく見ると白いフォース・フィールドに包まれた円盤が天頂方向へと上昇しています。私が時々見る円盤は白いフォース・フィールドに包まれているものがよくあるのですが、そのような円盤なのです。しかしいつもより重みがありました。この日にかなり出現したキラキラと光る円盤とは幾分違う波動を感じました。

この円盤を私と妻と橋口氏の三人で見ていると周囲に人が集まってきたました。そして皆で、

「あっ、見える。あそこだ！」

と言ひながら見ていました。高梨氏は双眼鏡でかなり細部まで見ていました。

所に止まってその円盤に皆が気をとりました。しかしこの円盤に皆が気をとら降りて来るであろう風の爽やかさ、それらを感じて深く呼吸をしました。

妻が歩き出したので私も歩こうすると内部に印象が湧き起つてきました。

「待て、待って上を見ていろ」

と。足は歩こうとするのですが、どう

しても見ていろという気持ちになり、立ち止まって上空を見ていました。爽やかなとても良いフィーリングです。しばらくして橋口氏が私のすぐ後ろに来て叫びました。

「あっ、あれ、あれ！」

と音つて私の見ていた方向の空を指

しています。よく見ると白いフォース・

フィールドに包まれた円盤が天頂方向へと上昇しています。私が時々見る円盤は白いフォース・フィールドに包ま

れているものがよくあるのですが、そ

ののような円盤なのです。しかしいつもより重みがありました。この日にかな

り出現したキラキラと光る円盤とは幾

分違う波動を感じました。

この円盤を私と妻と橋口氏の三人で見ていると周囲に人が集まってきたました。そして皆で、

間隔をおいて光っています。ビデオで

は清水南氏が、カメラでは先生その他数名の方が撮影していました。あとで

した。しかしこの円盤に皆が気をとら降りて来るであろう風の爽やかさ、それらを感じて深く呼吸をしました。

妻が歩き出したので私も歩こうすると内部に印象が湧き起つてきました。

「待て、待って上を見ていろ」

と。足は歩こうとするのですが、どう

しても見ていろという気持ちになり、立ち止まって上空を見ていました。爽やかなとても良いフィーリングです。しばらくして橋口氏が私のすぐ後ろに来て叫びました。

「あっ、あれ、あれ！」

と音つて私の見ていた方向の空を指

しています。よく見ると白いフォース・

フィールドに包まれた円盤が天頂方向へと上昇しています。私が時々見る円盤は白いフォース・フィールドに包ま

れているものがよくあるのですが、そ

ののような円盤なのです。しかしいつもより重みがありました。この日にかな

り出現したキラキラと光る円盤とは幾

分違う波動を感じました。

この円盤を私と妻と橋口氏の三人で見ていると周囲に人が集まってきたました。そして皆で、

「あっ、見える。あそこだ！」

と言ひながら見ていました。高梨氏は双眼鏡でかなり細部まで見ていました。

所に止まってその円盤に皆が気をとりました。しかしこの円盤に皆が気をとら降りて来るであろう風の爽やかさ、それらを感じて深く呼吸をしました。

妻が歩き出したので私も歩こうすると内部に印象が湧き起つてきました。

「待て、待って上を見ていろ」

と。足は歩こうとするのですが、どう

しても見ていろという気持ちになり、立ち止まって上空を見ていました。爽やかなとても良いフィーリングです。しばらくして橋口氏が私のすぐ後ろに来て叫びました。

「あっ、あれ、あれ！」

と音つて私の見ていた方向の空を指

しています。よく見ると白いフォース・

フィールドに包まれた円盤が天頂方向へと上昇しています。私が時々見る円盤は白いフォース・フィールドに包ま

れているものがよくあるのですが、そ

ののような円盤なのです。しかしいつもより重みがありました。この日にかな

り出現したキラキラと光る円盤とは幾

分違う波動を感じました。

この円盤を私と妻と橋口氏の三人で見ていると周囲に人が集まってきたました。そして皆で、

「あっ、見える。あそこだ！」

と言ひながら見ていました。高梨氏は双眼鏡でかなり細部まで見ていました。

所に止まってその円盤に皆が気をとりました。しかしこの円盤に皆が気をとら降りて来るであろう風の爽やかさ、それらを感じて深く呼吸をしました。

妻が歩き出したので私も歩こうすると内部に印象が湧き起つてきました。

「待て、待って上を見ていろ」

と。足は歩こうとするのですが、どう

しても見ていろという気持ちになり、立ち止まって上空を見ていました。爽やかなとても良いフィーリングです。しばらくして橋口氏が私のすぐ後ろに来て叫びました。

「あっ、あれ、あれ！」

と音つて私の見ていた方向の空を指

しています。よく見ると白いフォース・

フィールドに包まれた円盤が天頂方向へと上昇しています。私が時々見る円盤は白いフォース・フィールドに包ま

れているものがよくあるのですが、そ

ののような円盤なのです。しかしいつもより重みがありました。この日にかな

り出現したキラキラと光る円盤とは幾

分違う波動を感じました。

この円盤を私と妻と橋口氏の三人で見ていると周囲に人が集まってきたました。そして皆で、

「あっ、見える。あそこだ！」

と言ひながら見ていました。高梨氏は双眼鏡でかなり細部まで見ていました。

所に止まってその円盤に皆が気をとりました。しかしこの円盤に皆が気をとら降りて来るであろう風の爽やかさ、それらを感じて深く呼吸をしました。

妻が歩き出したので私も歩こうすると内部に印象が湧き起つてきました。

「待て、待って上を見ていろ」

と。足は歩こうとするのですが、どう

しても見ていろという気持ちになり、立ち止まって上空を見ていました。爽やかなとても良いフィーリングです。しばらくして橋口氏が私のすぐ後ろに来て叫びました。

「あっ、あれ、あれ！」

と音つて私の見ていた方向の空を指

しています。よく見ると白いフォース・

フィールドに包まれた円盤が天頂方向へと上昇しています。私が時々見る円盤は白いフォース・フィールドに包ま

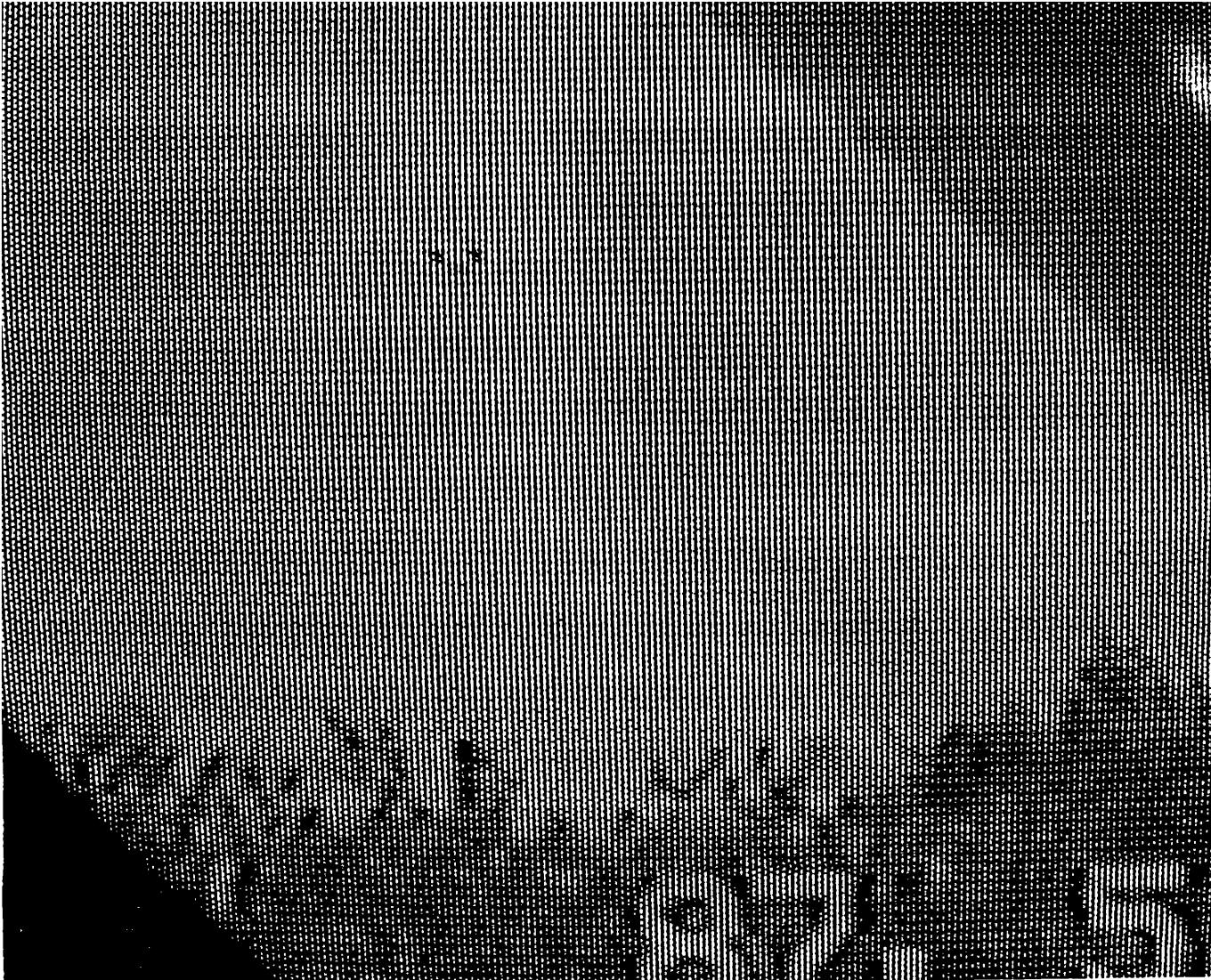
れているものがよくあるのですが、そ

ののような円盤なのです。しかしいつもより重みがありました。この日にかな

り出現したキラキラと光る円盤とは幾

分違う波動を感じました。

この円盤を私と妻と橋口氏の三人で見ていると周囲に人が集まってきたました。そして皆で、

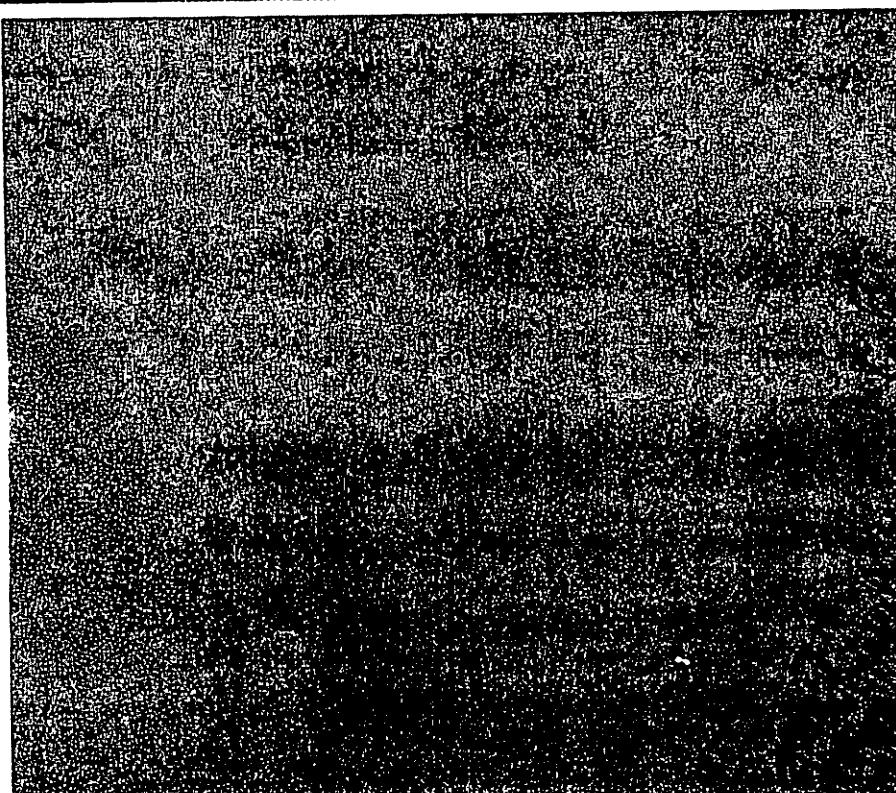


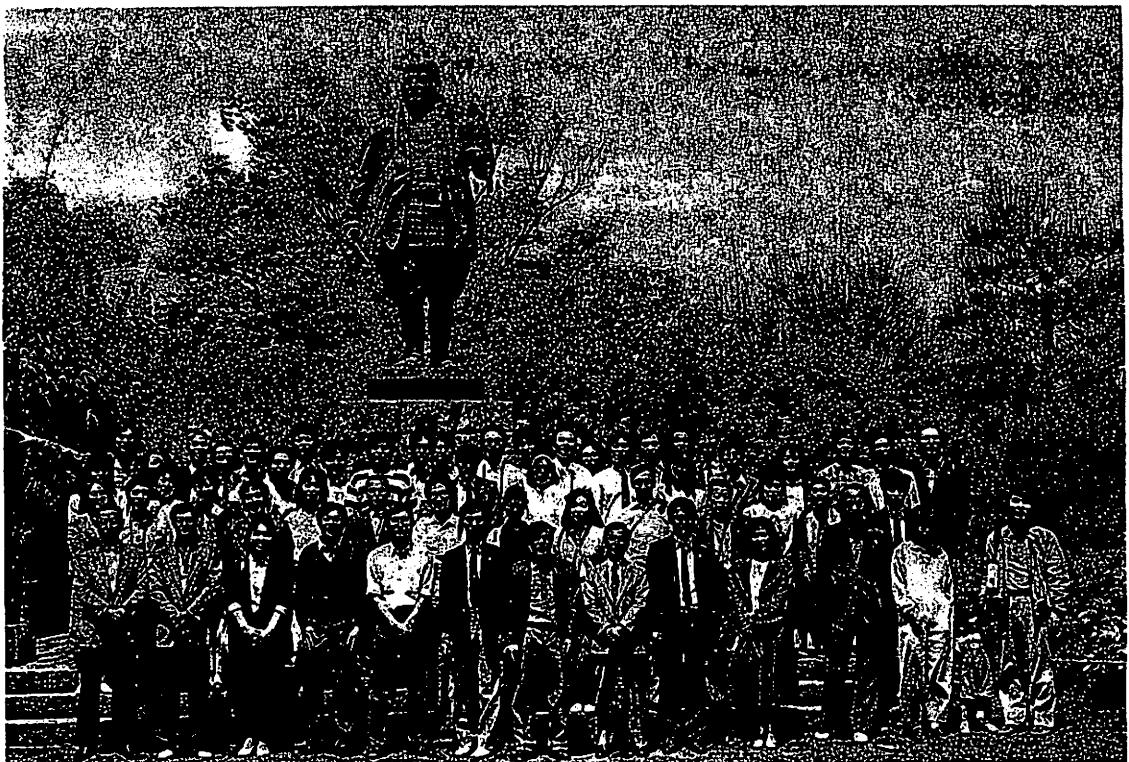
浅間神社上空のUFO

写真上は5月5日、静岡市内の浅間神社で清水南氏が8mmビデオカメラで撮影した写真の1部分を拡大したもの。中央左上に写っているのが断続的に光りながら飛んだ円盤状UFO。京セラ8ミリビデオカメラ、8倍ズーム。

写真下は同じ物体をほぼ同時に久保田会長がスチルカメラで撮影したものの(矢印)。

ニコンFE2、100mmレンズに2倍コンバーター使用。モータードライブ装着。





▲駿府城跡公園の家康銅像前にて(久保田会長撮影)。

良い影響を与えるようになる。これ程素晴らしいことはないと思いません。

駿府城跡でまたUFO出現

バスは浅間神社を出発して数分後、駿府城址に着きました。お堀の横にある体育館では中学生か高校生でしょう、柔道大会が開かれていました。その体育館の前でバスを降り、道路を横断して堀の上の橋を渡つて城跡の公園へと行きました。公園入口の風にそよぐ木々は私達の心をなごやかにしてくれるようでした。

城跡の右手方向に強いフィーリングを感じました。見るとまるでカツオブシのような形をした大きくてまつ白な雲が一つありました。印象はそこからやってきているようでした。中に何か巨大なものがあるような感じです。その雲を見ていると他の人達はどんどんと歩いて行つてしまふので、遅れではいけないと後からくつづいて行きました。

広々としたグランドを通り、鷹狩り姿の家康の銅像の所へと来ました。ここで久保田先生自らカメラを構えて全員の記念撮影となりました。そこでふと背景となる空を見て驚きました。家康の像のまうしろに先程見た雲があるのです。まるで私達がそこに来るのを知っていたかのように。

撮影が終わって皆はまた空にUFO

が現れないかと見上げていました。しかし私はその反対の方向を見たくなつてそちらを見ていきました。しばらく遠くの空を見ていると、キラッと光つたものがありました。そして少しだつて〇が見えたと言つっていました。

後ろを向くと家康がお手植えしたというミカンの木の所に数人の人が集まつていました。至近距離で二、三人の人が不思議な形の物を見たということでした。ミカンの木の上に滞空しており、それから飛んで行つたということでした。小型円盤だったのでしょうか。

集合まではまだ時間があったので妻と一緒に公園の池の周囲を歩いてみました。色とりどりの花がうまく植えられており、それらが陽に映えてとてもきれいでした。

トイレへ行つて出てみると、皆帰り始めていたので慌てて二人で走つて行きました。団体行動を乱してしまったかな、こんなことではスペース・ビルも考えてしまうだろうなと思い、急ぎました。広いグランドに越崎さん達がいましたので、ほつとしてそのグループに合流しました。遠くの空に見えている飛行機とそれによつてできた雲を見ていたそうでした。

少し下に視線を移すと木々の上を鳥が一羽飛んでいました。あれはUFOではないなど眺めていました。遠くて黒い点しか見えないのですが、鳥のよ

「あそこには見えるのはなんだろう」と言いましたが、見つからないようでした。大きな木のかげに隠れてしまつたので見えなくなつたのですが、また出てくるような気がしたので、
「もうすぐ出でますよ」と言いました。そこで双眼鏡を持つていた人が探しました。そして
「あつ、キラキラ光つてるぞ」と言うのです。皆でよく見ると、それはキラツキラツと光るまぎれもない円盤でした。肉眼でもよく見えました。やはり浅間神社の時に見たキラキラ光る円盤と同じ光り方でした。飛行機はもうだいぶ移動していましたが、その通りか下の方を飛んでいました。しかしここに止まっているわけにはいきませんので、待っているバスの方へと急ぐことにしました。

午前中は三ヵ所でのキラキラと光る円盤が出現しました。

午後からは登呂遺跡へ行きましたがとにかく午前中フィーリングを感じようとしてばかりいたので少々疲れも出たのでしょうか、上空からのフィーリングはそれ程強く感じられませんでした。空を見ている方はたくさんおられたが、私はこのフィーリングからするとたぶん出現しないだろうなと思

うに頑張つていこうと思ひます。
編著付記
五月四日の静岡支部大会は百名の出席者があり大盛況だった。三人の大講演が続いて私（久保田）の持ち時間が少くなり、質疑応答は省略されたがこれは労力軽減のためと解釈して主催者側のご好意に感謝した。
夜の夕食会も盛大だったが、私はビ

編者付記

十時半に宮ヶ崎町の浅間神社に到着
四万五千平方メートルの広大な敷地に
華麗な二十四棟の社殿群を配置したこ
の社は古代に創建され、鎌倉時代以降
歴代幕府の崇敬を受け、文化元年

浅間神社でコトロを撮影

(一八〇四年)から六十年の歳月と十万両の巨費を投じて再建された。現在の社殿群は当時のものだ。日光東照宮を思わせる派手な色彩と彫刻類が鮮やかで、神社にありがちな陰湿さがない。これなら外人観光客も喜ぶだろうと思いつながら境内へ入る。

しばし散策。一行もほとんど空を見上げているばかりで、他のお客様さんは異様な団体に見えただろう。

十時四十分すぎ頃、私は境内中央の舞殿の左方にいて、なんとなく正面の大拝殿の方を見ていた。

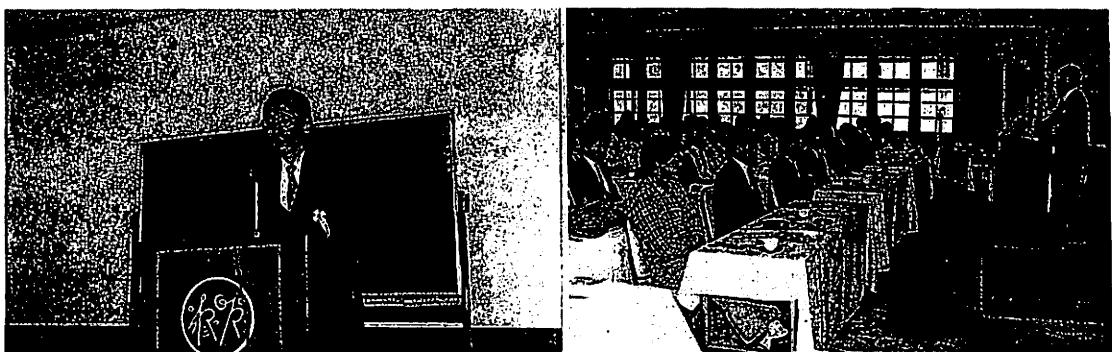
突然、喚声が上がった。

「円盤だーっ！ 飛んでるぞーっ！」

一同が指さす方向を見ると、大拝殿の左手うしろの森の上空を、水平に左から右へ断続的に強烈に光りながらゅつくり飛ぶ物体が見える！

急いでカメラを構えた私はモーター・ドライブのコンティニュアスでもつて機関銃のように振りまくった。といつても物体が森の後方へ隠れるまでの数秒間だから、実際に撮影したのは八カットで、その内物体が写っていたのは三カットだけだった。百ミリレンズに二倍コンバーターをつけた上、絞りをf8にしていたのでシャッタースピードが落ちてブレたが、とにかく写った＝写真。

静岡でこういうことが発生するような気がして、少し前に中古品のモータードライブを買っていたのだが、これ



▲左は講演中の野口静岡支部代表。右は久保田会長（撮影 筒井 徹）

が絶大な威力を發揮した。これを使用しなかつたら一カット撮るのが精一杯だろう。

清水南氏（山梨県）は8ミリビデオでキヤッチャした。あとでモニター操作により見せてもらつたら見事に写つていた。これで見ると円盤型物体であることがわかる。断続的な輝きはあるで呼吸しているかのようだ。私たちの目を引こうとしてあるような光り方をしたのだろう。

UFO撮影に成功するには當時カメラを携行し、いつでも写せるように最適の状態にしておく。出現したら慌てふためくだけで思考は停止するから、シャッタースピード、絞りなどはあらかじめ空の明るさに合わせて設定しておく。シャッターがオートなら絞りはなるべく開いておくと高速で撮れる。空に向かってた場合はオートフォーカスより手動が有利。望遠レンズは二百ミリまでが使いやすいなど、いろいろ言えるが、先号表紙に掲載された降幡和彦氏の素晴らしいUFO写真のごとく、撮れるときは千円余の使い捨てカメラでも撮れるのだから、問題は機材よりも撮影者本人の真剣さとそれに応えるUFO側の配慮にあると言えそうだ。単なる好奇心や功名心にかられるだけでは撮影はむづかしい。UFOが出てこないからだ。月並みだが、やはり撮影者の純粹さ、宇宙的カルマ、その他要素がからんでくるようだ。

清水南氏からの報告

静岡支部大会での御講演、大変有難うございました。「マインド空間より意識空間へ移住すること」とのお話は私達会員にとりまして非常に重要な課題であり、これから努力をしてゆかなればと考えております。

ところで今日、浅間神社上空のUFOを撮影したビデオの引伸し写真が仕上がつきましたので同封いたします。

やはり球形体のまわりにフランジが付いているような形に見えます。

撮影した日の観光バスの中で、私の座つていた中央の座席からも右側面に輝きを変化させながら飛行するUFOが見えました。この後、浅間神社境内上空に別の型のUFOが長い時間出現したようですが、私には双眼鏡がなく見えませんでした。

ここでの見学時間が終わつたため門の方へ出ようとした時、何気なく後ろを振り返ると森の上空左手に先程バスの中を見たのと同じ型のUFOが輝きを周同期に変えながら右手の方へ移動しておりました。すぐみんなに知らせると同時にビデオカメラを回しました。

ズーム6倍で撮りましたが、UFOの写っている時間は一秒位です。最近は撮影出来る人とUFO撮影の目で購入したばかりなのに早速UFOを撮影出来たのは大変幸運でした。し

かしこの撮影成功のかけには、スペース・ピープルの配慮がうかがわれます。その一つにはバスの中でも見える位置に比較的長い時間出現した事。また輝きを激しく変化させて目につき易かつた事。そしてビデオに撮った時は森の上を水平に飛行して、カメラで撮るのに非常に都合の良い速度と場所に出現した事等です。

これらの事を考えてみると、スペース・ピープルは私達GAPの活動を強く援助してくれている事を感じます。そして今度の事をきっかけにこれからもGAP活動を積極的に行って、更に良いビデオを撮つて皆さんに見ていただきよう努力して行きたいと思つております。



▲浅間神社で上空を見る人々。

太陽系惑星にまだ仲間がいるか…

アダムスキーの十一惑星説に近づいた…

■十番目の惑星が存在?

別掲「科学」欄にソ連が太陽系の第十番と十一番惑星の存在を推定しているが、アメリカからも第十番惑星存在推測の報道が出た。七月一日付の朝日新聞によると次のとおり。

「太陽系に十番目の惑星が存在する可能性がある」と米航空宇宙局（NASA）の天文学者が六月三十日、記者会見で明らかにした。太陽系脱出をめざして飛行中の惑星探査機バイオニアから送られてくるデータから推測された結果だ、という。

発表したNASAジェット推進研究所のジョン・アンダーソン博士によるところ、百五十年前まで逆のばつた観測結果で、天王星と海王星の軌道がわずかに引き離されていることがわかった。太陽以外の天体の影響で惑星の運動の仕方がずれる、擾動と呼ばれる現象だが、バイオニア10号と11号の観測データでは、天王星と海王星の擾動に影響を与えたと思われる引力は全く観測されなかつた、という。

そのため同博士は、「これは十番目の

惑星が存在し、かつて天王星と海王星に接近した時に軌道に影響を与えた結果と考えられる」という。この惑星は地球の五倍程度の質量で、太陽の周りを七百年から一千年かけて公転する不規則な軌道上を運動している、と同博士はみている。

太陽系では、太陽から最も離れた九番目の惑星、冥王星が一九三〇年に発見された。もし、同博士の予測通り十番目の惑星が見つかれば、木星、土星、海王星、天王星に次いで五番目に重い惑星になる。バイオニア10、11号は二、一七三年に打ち上げられ、地球からそれぞれ六十四億キロ、三十二億キロ離れた宇宙空間から毎日、観測データを送つてきている。

右と同じ内容の記事が七月二日付毎日にも出たがこちらは短い。後半で次のように述べている。

「現在までに発見されている九惑星が同一平面上の軌道を回っているのに對し、この十番目の“惑星X”は、これまでとほぼ直角をなす軌道を周回し、大

は九個ではなく十二個の惑星から成っている」という。科学もこの説に近づくようだ。

かつては火星にも大量の水

米学者が火星に大量の水があつたと推測した記事が六月二十七日付河北新報に短く掲載された。ただし現在の火星ではなく大昔のことを言つていて。

「太陽系惑星の中で地球に最も似ているといわれる火星も大昔には、火山活動によつて惑星内部から大量の水が表面に噴き出していたと米国の地質学者が六月二十六日発売の米科学誌『サイエンス』に発表した。

ロナルド・グリーリー・アリゾナ州立大教授は、火星探査機マリナー9号やバイキング1、2号の観測で明らかになつた火星表面の地質図を基に過去、噴火に伴つてどの程度の水が内部から噴き出したかを計算した。

この結果、誕生後二十億年（太陽系の年齢は約四十六億年）ほどの間に、火星表面を同じ厚さで覆うとする四十六メートルの厚さに相当する水が噴き出した、と推定できるという。

■ソ連上空にUFO?

英國の旅客機乗員がソ連上空を飛行中、二個のUFOを目撃したと報告し百三十キロの高度で燃え尽きる人工衛星の光が、わずか十六キロ程度の高度を飛ぶ飛行機から見えだとすると、遠い光を見誤つたのではないか」と推測している。

「英國航空（BA）のボーイング747ジャンボ旅客機がことし四月、ソ連カザフ共和国上空で未確認飛行物体（UFO）に遭遇していたと二十七日付の英紙タイムズが報じた。

同紙が報じたBA機のアンソニー・コリン副操縦士の証言によると、ロン

ドン発パンコク行きBA009便が四月二十二日、ソ連上空を飛行中、突然、機首右方向に「二つの青白い光を点滅する飛行機のようなものが現れた」。

飛行機なら航行灯は赤なのに、緑色だけた」という。

この飛行物体は同じ高度でBA機に向かってきたため、コリン副操縦士らは進路を変えてこれを避けたが、機首前方約一・六キロのところを右から左方向へ猛スピードで通過し、地平線へ消えた。通過の際には小さなライトの長い列が見えたといふ。

ソ連の管制当局は、当時、他の飛行機は飛んでいなかつたとしており、コリン副操縦士は「決して飛行機ではなかつた。五人の乗員のだれもがかつてのようなものを目撲したことはない」と強調している。

しかし英天文学協会の人工衛星部長は「落下してきた人工衛星の大気圏再突入を目撲したのだと思う」とし「通常約百三十キロの高度で燃え尽きる人工衛星の光が、わずか十六キロ程度の高度を飛ぶ飛行機から見えだとすると、遠い光を見誤つたのではないか」と推測している」

連夜のトランペシードが止まらない春川氏

春川正一氏は眞実のハンタクティーだった！

片岡 豊

今、私の傍には本誌97号があります。その表紙に載せてあるUFO写真を見ながらペンを取っています。丸い大きな底部、そして全体の大きさに比して少し小さめのUFOを取り巻くように取り付けてあるフランジ(周縁部)。全体から放たれる高次元な波動が私に心地よく伝わってきます。

なぜ私がこの写真に親しみを感じてペンを取ったかと申しますと、実は私と家族は一緒に同型のUFOを昨年目撃しているからなのです。

本誌93号で初めて春川氏の連載記事「私は別な惑星へ行つてきた！」を読んで、その内容の複雑さ、そして文中より発する高次元な波動に誘われ、その日からわが家の庭に立つようになりました。夜の外気が肌寒くさえ感じられる一年前のことです。

連日夜空に呼びかける

川が西から東に伸び、さらに大きく蛇行し、南へくだり、瀬戸内海へと注いでいます。

最初は

庭に立ち始めて十分間ぐらいで家に引つ込んでしまいましたが、日数がふえるにつれて三十分、一ヶ月も過ぎる頃には一時間以上、七月に入る頃には平日でも三時間近く庭に立つようになっていました。夜空を見上げるのが楽しくて仕方がないのです。金曜日の夜などは明日は休日だとばかりに夜九時頃から翌朝三時すぎまで夜空を見上げていました。

初めの頃は顔を見せていかつた木星がいつのまにか火星を追い越して、秋になる頃にはさつきと西へ姿を消すようになっていました。

天文マニアでもない私をこれほどまでに庭にクギ付けにさせた理由は何だったのでしょうか。私は庭に出ますと夜空を見上げて、まず初めに星たちに

ようになります。するとそれに答えるかのように光体が視野を横切つて行きます。

しばらくしてまた話しかける。

とまた現れるといった具合です。あまり間隔が短いと常識に欠けると思い、ある程度間隔をあけるようにしていま

した。こうして私が庭に立つていて時間が少しづつ長くなつていった理由がおわかりいただけだと思います。もう一つ理由があります。それは夜も更けてきますと、昼間の生産活動で汚れた空気が澄んできて、夜空が非常にきれいに見えるようになり、宇宙からの波動もなんとはなしに多く降り注いでくる感じを受け、心身共に気持が良くなつてくるのです。

アダムスキーライドの編隊が飛ぶ

七月二十九日の真夜中十二時を過ぎた頃、四機編隊のUFOが南からカーブを描きながら東方へと飛んで行くのが見えました。このときのUFOはまさにアダムスキーライドで、三個の球形着陸装置が見えました。図に描くと次頁

のとおりです。

高増山の上空あたりから自宅の上空にかけて大きくカーブを描きながら、ときおり小さく左右にスライドするよに東方へ飛び去つて行きました。

このように毎夜楽しい時をすごしながらも、この頃はまだ私の心の片隅にわずかながらも、もしかするとあれは錯覚ではないだろうかという愚かな考えがつきまとつていました。

秋も深まつた十一月の最初の日曜日、私の人生にとって最も重大な事件が起きました。それまでの私はアダムスキーを媒体として伝えられた高次元な宇宙哲学に引かれ、その高度な内容に共感しつつ、自分が求めていた眞実に出会つた喜びを心の励みとして、いくつかの疑問を押し消すかのごとくひたすら信じて久保田先生をはじめ皆さんについてきました。

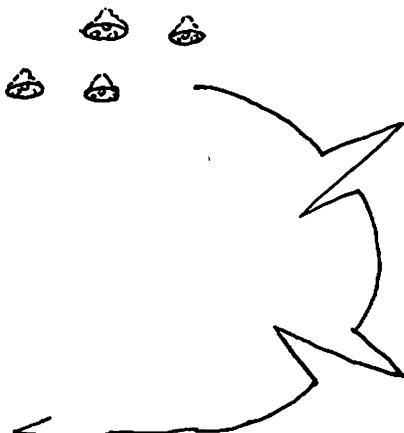
しかしその日を境に一片の疑問もない百パーセントの信頼へと変わつていったのです。今回の一連のUFO目撃体験で私が得た最大の収穫はこの点にあります。

重大な目撃事件が発生

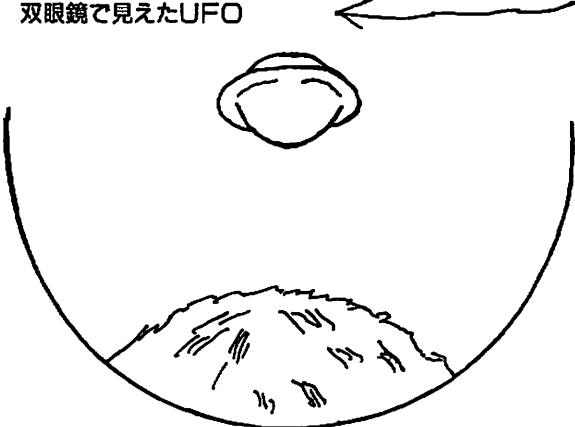
わが家の庭はほぼ真南に位置し、あまり広くないので私はいつも南面にむかって立つておりました。地理的には自宅から四百メートルほど南方に芦田

1. 右の図はアダムスキー型円盤
4機編隊の航跡図。

2. 下図は双眼鏡の視野に出現し
た円盤。本誌97号表紙掲載の
降旗氏撮影円盤と酷似してい
る。



双眼鏡で見えたUFO



春川氏は正しかつた

昼間のUFOの様子を少しくわしく
説明しましょう。

- 一、デザインはシンプルで不要の突起
は見当たらない。
- 二、アルミ合金のような光沢で、反射
してピカピカ光らない。
- 三、重量感があり、揺れ、震動が全く
ない。
- 四、全体にくらべてフランジ(周縁部)
の比率は小さい(フランジで空気
抵抗を受けて飛ぶ構造ではない)。

すれに近い所に三郎の滝という幾段に
もなった小さな滝があります。この地
は夏には滝すべりの子供たちでにぎわ
う所ですが、秋ともなるとあまり人影
は見えません。

私たちは滝から少し離れた第二駐車
場に車をとめました。そこには都合の
よいことに他に車はありません。早速お
弁当を開いてまず腹ごしらえをするこ
とにしました。私は屋外に出るとたくさん
食べますので、妻がいつもお弁当

を多目に作ってくれます。

お腹もふくらみ、ちょっと一服。子
供たちが車からラケットを持ち出し、
「バドミントンをやろうよ」とせがみ
ますので、休む間もなく相手をします。

一時間ばかり遊ぶと、さすがに三十
歳なかばの体では疲れてしまいます。また
一服と座席に座り込んだ私は、なにげ
なく青く澄み渡った秋の空を見上げま
した。もう時刻は二時近くになっていました。

私は思わず「ああ、あれ」と指さし
ながら言いますと、妻が「なによ」と
振り向き、あわてて子供たちに「あれ、
あれ」と言いました。すると子供たち
は「UFOだ!」と大きな声で叫びま
した。

私はいつも車に双眼鏡(二十倍)を
乗せてありますので、早速その双眼鏡
を取り出し、開いたままの車のドア一
に双眼鏡をしつかりと押しつけ、レン
ズに飛びつきました。なかなかピント
が合いません。「ピントが合った!」
しばし我を忘れてその突然の来訪者
に見入っておりました。しばらくする
とその来訪者はゆっくりと運動を始め、
「また来るよ」との印象を残して山の
むこうへ消えて行きました。その間三
分たらずの時間でした。事実その夜、
ふたたびUFOが現れました。

五、騒音が全くない。
まさに姿は本誌97号に紹介された
降旗さん撮影のUFO写真とまったく
同型であります。

しかし私はこの一連のUFO目撲の
もつ意味の重要性に気付かせんでも
した。本誌97号を手にした瞬間、私の目
撲したUFOが降旗さんの撮影された
UFOと同型であること、また降旗さ
んと私は共に本誌に掲載された春川氏
の体験を知った日から毎夜、夜空にむ
かって想念を送り続けていた事実。こ
れらの条件を照らし合わせて考えてみ
るとき、初めてその意味に気付き、今
私はペンを取らずにはいられませんで
した。

これらの事実を示すまでもなく、春
川氏が久保田先生を通じて本誌上に載
せられた数々の高次元の記事を読まれ
た方々は充分にご理解されているとは
思いますが、再認識の意味を込めまし
てあえて言わせていただきますと、
「春川氏は眞実のコンタクティーダーであ
る」の一点につきます。

今日の情報過多の社会ではノイズも
多く、混乱を起こしやすい状況下にさ
らされています。何が眞実であるかを
しっかりと見定め、高次元な波動に從
いたいものです。

春川氏の連載記事は98号をもつて終
わることですが、非常に寂しい思
いがします。ぜひとも第二弾、第三弾
の企画をお願いいたします。(因は筆者)

アダムスキイの宇宙論演説と その意味と概念の重要性

知念清邦

司会者挨拶

～今日はこれから知念さんの「講演をお聴き頂くことになりますが、ここにあります講演の要点のメモを拝見しました、これは宇宙哲学の真髓に深くせまり込んでおりまして大変に素晴らしい内容です。ご期待下さい。

ところでアダムスキイ氏やスペース・ビープル（注）進化した別な惑星の人々は、地球人が創造主と呼称しているのに対して、彼等も地球人のレベルを遥かに超えたところで理解し、知つておられて、それで創造主とは呼ばず「宇宙の英知」とか「宇宙の意識」とか、あるいは「至上なる英知」とも「宇宙の力」とも表現しておられます。これまで地球人は創造主を、たとえば宇宙の中の異次元のどこかに一個の靈的な存在として想像したり、あるいは「宇宙の力」とも表現しておられます。

この知性または意識はあくまでも知性あるいは意識であつて、靈ではありません。

靈とはあくまでも地球人式の発想から出た言葉で、この靈の正体はといえば、実はそれは人間の想念エネルギーによるものです。

話がちょっとはずれましたが、とにかく初めのうちは以上の事がとらえていたし、現在もそうですが、これは誤りで、これをスペース・ビープルの方々は「宇宙普遍としての実在」「万物の内部に満たす」「因」とあります。

他方、これはこの「宇宙の意識」の性格的な面に関する表現になると思ひます。

事実に気付かせようとしている訳です。

どこか遠い所にあると想像していたものを実は身近に、というよりも万物は実は創造主（宇宙の英知）自身がみずからをさまざまな姿にして具現しておられることは、このままの姿にして具現しておられるのだということに気付かせようとなさつておられる訳です。無限の宇宙こそが実は創造主なのであり、それ（宇宙）はある知性の海なのだと。万物はその（宇宙の）意識なのだと。

「宇宙の意識」の性格的な面を完全に理解しきつてしまふことはできないのではないかでしょうか。

スペース・ビープルの方々はそれを「大いなる慈悲」とも言つておられますがね。

とにかくこの事につきましては皆様も考えてみるとよいでしょう。今日は私の講演ではありませんので私の前置きはこの辺でやめにしまして、早速知念さんの「講演をお願いいたしましますがね。

う。　沖縄支部代表・新里義雄

ますが、それを「大いなる理性」とも言つておられます。

これについて私は以前によく考えたことがあるのですが、今でもときどき考えますが、その性格的な面を考えてみると、これはもう人間の思考尺度ではどうてい理解しきれないだろうと思ひます。考えれば考えるほど解らなくなってきて、「あなた（宇宙の意識）という方は私は理解しきれません。勝手にして下さい！」とでも言いたくなるような所へ落ち着いてしまうんですね。おそらく人間がいかに進歩しても「宇宙の意識」の性格的な面を完全に理解しきつてしまふことはできないのではないかでしょうか。

とにかくこの事につきましては皆様も考えてみるとよいでしょう。今日は私の講演ではありませんので私の前置きはこの辺でやめにしまして、早速知念さんの「講演をお願いいたしましますがね。

う。　沖縄支部代表・新里義雄

こんなのは、知念です。こうして人前で何かのまとまった事をお話するのは初めての経験で、慣れておりませんので、自分の思いを上手にも充分にも伝えられるとは思えませんが、その点アダムスキイ氏は「宇宙哲学」の中

で、ヨハネの福音書の初めの部分を解説して、「初めに意識だけがあつた。そして意識は神と共にあつた。そして意識は神である」と述べておられます。

たしかに「宇宙とは唯一絶対意識であり、それが活動している無限の世界である」というのが完全な概念だと思いますが、このことは皆様も説んだり聞いたりなさつておられる方もいらっしゃるでしょう。

人間界の活動を見ればわかりますように、意識なしには物は創造されませんね？ 何を思いつくにせよ、造るにせよ、根源は意識になります。そして万物は空間から現象化しました。宇宙空間が意識の海でなければ万物が現象化するはずがありません。

その「根源なる知性」をアダムスキイ氏やスペース・ビープルの方々は「宇宙の意識」とおっしゃつておられるのだと思います。そしてこれは「宇宙は意識」といつてもよいのではないでしようか。

宇宙は意識。この言葉を今ここで少しの間かみしめてみませんか。

そこで今日は皆様に、この「意識」の活動、あるいは行為とは何かという角度から、これについて一緒に考えてみて頂きたいのです。意識の行為は何だろかと。

私達の行為というものは身体を動かしたり、あるいはある状態にしておく

ことですが、「はじめに意識だけがあつた」というように、「意識」だけの場合その行為とは何だろうかということです。

そうですね。それは思考ですね。それしか考えられません。想念と言つた方がいいと思います。でもここでは思考と言つた方が話の内容が複雑化しないで済みますのでこの言葉を使用することにします。

思考が「意識」がする唯一の行為であり全てだと思います。そうしますと結局現象の世界というものは、思考によって条件づけされた活動の、あるいは波動の結果、いわば波動のおりなす模様のような物であるということになりますね。これを換言すれば、「意識」は思考することによってみずから現象化することになります。

ここでもう一度初めて考えてみましょう。万象の根源にあるのは、「意識」以外にはないのです。そうは思えませんか？ この万象の根源をあの方々が「意識」と呼称なさっておられるのは実に適切だと思えるのです。意識のないところからは思考または想念は発生しません。どうでしょう？ 私はこの「宇宙の意識」を全能の知性だと感じております。

とにかく、アダムスキーリー全集第四卷「宇宙哲学」の十八頁のあたりに述べられているのは、この辺の重大な真実についてのことだと思います。

結局宇宙は、思考（想念）の発信源が直接に「宇宙の意識」によるものであつたり、現象物を通じてであつたりしている訳です。

たとえば私達は「自分」という「意識体」です。「人間」と呼ばれています。しかも人間ばかりか万物は皆「意識体」ですよね。ですから万物は皆それをペターンは異なっていても「自分」という意識を持つているはずです。

これはたとえば万物が想念または波動を放つていても証明されるのですが、このことは感じる方もいらっしゃれば、お聞きになつてご存知の方もいらっしゃいますね。万物が「想念波動」を放つためには思考しなければなりません。そして思考するのは「意識」です。そうですね？

周囲を見渡しますと、ここでなおも、宇宙には何だかめつたやたらに沢山の意識があるよう感じてしまわれる方がいらっしゃるかもしれません。しかし、なぜなら万物は、「宇宙の意識」がこれで良し」という「形」でみずから表現なさつておられるはずですから……。

こうして解つてきますと結局「形」というものは「宇宙の意識」の方法あるいは手段にすぎません。万物も、私達の人間といふ状態も方法でしかないのです。

だから私達は「形」を見ずに、その物の正体（意識）を見るべきです。その人を「意識体」として見るべきです。その形や姿や見かけにこまかされない事です。その物は「意識体」なのです。

皆さん。「意識」の行為は思考がすべてであり、それによって万物は現象化したこと、そして思考が現象になるのがこの「宇宙」という絶対世界の中的一大原理だということはご理解いただけておりますでしょうか。他方、人間が宇宙の子「宇宙の意識」の子であるということはまちがいのない真実ですね。ならば人間が「宇宙の意識」の持つ資質を受け継いでいるということも真実のはずです。そうですね？ それは自然界で示唆されている絶対的な法則です。

物が結局は想念すなわち思考が原因になっています。そうでない物が一つでもありますでしょうか？ 絶対にありませんね。

何事につけ、まず思考が原因ということになります。そしてこれこそがすますと、それぞれの「形」、人間でいえば「人体」ということになりますが、万物はそれぞれの条件下で活動＝思考であります」と。

こうしてここで更にお気付き頂いたことがあります。それは何かと申しますと、それぞれの「形」、人間でいえば「人体」ということになりますが、万物はそれらの条件下で活動＝思考であります」と。

確かに今ここにある物は人間の手によつて、身体を動かすという行為によつて一個の形になりました。しかしそれはその前に思考が原因になつております。そして私が今から話を進めようとするのは、その原因の段階の思考についてです。

そこでそれではいついさまざまな創造物とは何なのでしょうか？ これが実は意外で、しかも簡単な原理だったのです。こういう事なんですね？ それは自然界で示唆されている「さまざまな現象物（万物）」とは、それぞれが皆「意識体」であり、しかも

そこまでそれはいついさまざまなものであります。

それは、私達人間が親である「宇宙の意識」の持つ資質を受け継いでいるといふことも真実のはずです。そうですね？ それは自然界で示唆されている絶対的な法則です。

それでは、私達人間が親である「宇

「宇宙の意識」から受け継いでいる最重要な資質とは何でしょうか？もうお気付きだと思います。そうですね。それは人間も思考パワーあるいは想念パワーを現象化させることが出来るという資質ですね？

僭越な言い方になってしまいますが、皆様に充分に時間をかけて洞察を加えて頂きたいことはこの点なのです。

私はこれに気付いたとき何だか嬉しさに加えて実は恐くなりました。人間はこの想念パワーをいかようにでも応用出来るはずだからです。

私達の一人ひとりに、ある人の身の回りに、本人に発生する出来事や現象（心靈現象ですらも）は、すべてがとは言えないかも知れませんがそれらは主に本人の思考習慣——習慣想念の性質の結果なのです。

それらは本人の内部に在る「意識」に本人が思考習慣という行為でもってプログラミングされたものの現象化であり、今思考したもののが現象化なのです。今思考したものは今は現象化または実現しなかつたとしても、ほうつておけば必ずいつかは本人に現象化することになるのです。それはダイレクトに現象化することもあります。

つまり、神において、「宇宙の意識」においてそうであるように人間においても、本人が気付くことと気付くまいと思われる性質がすべての出来事——現象

を引き起こしているのです。この点が私達が注意しなければならない最も重要な所なのです。

あまり詳細にお話し致しますことはここでは控えたいと思いますが、たとえば物や現象とは何かと申しますと、それは「はつきりと、こうなんだと確信された考え方」です。

皆さん「万物は『宇宙』の絶対確信の現れです。そして人間は『宇宙』の現れです。だから人間にも確信されたものです。ならば本人に実現するのです。それが人間が親（宇宙）から受け継いでいる重要な資質と申しますよりも「宇宙の意識」の一部は私達に密着しているから……。

大変に僭越ですが、以上に申し上げました事柄につきましてよく考えてみて頂きたいと思います。そして僭越のついでに一度、絶対にお忘れになつてはならない事、あなたのために重大な、忘れてならない事をおたずねします。

今、あなたの目の前におられる方はどなたでしょうか？

そうですね。自らを人間という条件下に置いて思考しておられる「宇宙の意識」御自身です。

そしてあなたはどなたでしょうか？

まったく同様ですね。

これまで、人間には神性または仮性があるといわれきましたけれども、

実は以上に申し上げましたことが、この言葉の真意であつた訳です。

また、万物は一体であるということにでも内奥には平和の望みや幸福の望み、そして富や健康の望み、その他あらゆる良き物の望みがあるのかというとの理由もお解りになるのではないかと

ます。

そして何故に人間には、どんな人間にでも内奥には平和の望みや幸福の望み、そして富や健康の望み、その他あらゆる良き物の望みがあるのかというの真意も、いまだご存知でなかつた方にには、これでお解りいただけると思います。

また、萬物は一体であるということにでも内奥には平和の望みや幸福の望み、そして富や健康の望み、その他あらゆる良き物の望みがあるのかと、この理由もお解りになるのではないかと

思います。

そして最後にもう少し加えさせて頂きますが、私達はもはや自分を責めるのはやめようではありませんか！無知の中に迷い込んで、いわゆる悪人をも責めるのはやめるべきです。

この地球のどこにも宇宙のどこにも実は悪人は存在しないのですから。「何がなんだかわからぬ人」や「どうすればいいかわからない人」や「誤解する人」などが居るだけです。それでも彼らは皆、内部の「宇宙の意識」にうながされたものなんですね。

よね？

「地球や地球人に悪いものは何もありません」とマスターはおっしゃつております。

「ただし理解力の欠乏のために、唯一最高の生命界において彼らは幼児です」ともおっしゃつっていました。私達はいわば幼児なのであって悪人でも罪のもののです。このことは、たとえ殺してであろうと、情けない状態にあります。

うと、賢者であろうと、愚者であろうと、聖者であろうと、たとえスペース・ビーブルの方々であろうと、そんなことは一切関係なく、だれでもがその実体は「宇宙の意識」そのものではないかと申し上げているのです。万物は

「宇宙の意識」以外の何者でもありません。以上のことをふまえて「生命の科学」を読んでみてはいかがでしょうか。ある方にとってこれまで「むづかしい有難い本」から「やさしい有難

い本」に変化しているのではないかと

■青森支部代表・副代表交替

青森支部は多年鈴木武男氏が代表として活躍されたが、体が不調(高血圧)のため六月より副代表の田村嘉彦氏が代表に、副代表に弘前市の小杉博氏が就任した。

■大盛況/静岡支部大会

去る五月四日、静岡支部大会が静岡市ステーションホテル大ホールで開催され、出席者百名に達して大盛況だつた。

翌日の市内観光ではUFOが数度出現して大騒ぎとなり、久保田会長、清水南氏(山梨県)が撮影に成功した。詳細は本号記事「静岡市上空にUFO頻繁に出現」を参照。

■沖縄支部主催「アダムスキ—全集腕者感想発表会」成功裡に終了

六月七日午後一時より那覇市中央公民館で標記の大会が開催された。支部代表・新里義雄氏が琉球新報と沖縄タイムスに出した広告により来会者は十八名に達し、ア全集読者数名による感想発表、久保田会長による講演(スマイド使用)、質疑応答と続き、終始熱氣の溢れる真剣な雰囲気に満ちて成功裡に終了した。詳細は本号43頁の報告を参照。

■西ドイツ国際UFO大会より招待

西ドイツのUFO研究誌「UFOナハリヒテン」主宰者カール・ファイト氏はユーロン英文版第三号を読んで感動し、六月二十六日にベースペーデン市で開催の国際UFO大会に本誌に連

載中の「私は別な惑星へ行つてきた」の主人公、春川正一氏を招待してきた

が、氏が行けないために代わって久保田会長を指名し、同大会で春川氏の体験と日本GAPの活動状況について講演を行うよう要請してきたけれども、六月二十一日の青森・秋田合同支部大会と続くために断り状を発送した。

■青森・秋田合同支部大会

青森・秋田両支部による第一回合同支部大会が予定どおり六月二十一日午後、青森県観光物産館「アスバス」で開催され、出席者二十三名を得て熱気下に終了した。翌日は十六名で観光に出発。好天下を車でカヤの高原、笹の子、十和田湖等を周遊。新緑の絶景を観賞しながら愉快な一日をすごした。詳細報告は本号42頁。

■長崎支部が誕生/

日本GAP二十番目の支部として長崎支部が発足した。支部代表は同市在住の元木和雄氏、副代表は島田利勝氏。いずれも会員歴の長いベテランでGAP海外研修旅行にも参加した。第一回月例会は六月二十二日同市市民会館で開催。毎月第三日曜日開く。詳細は本号47頁の「全国支部月例会案内」欄を参照。

■長野支部主催UFO写真展大成功

去る六月四日より九日まで六日間、松本市深志のブックストックサンギャラリーで開催された長野支部主催UFO写真展は延べ二千名の入場者があり大

成功を収めた。会場側の話によるとこの主人公、春川正一氏を招待してきた

これまでの催事のなかで最高の入りだつたという。参観者はみな信じられぬほど熱心な態度で写真を見学し、アンケートの結果も多数の人がこの種の写真展を期待していたことを示した。

■新潟支部主催第一回UFO写真展

昨年に続き新潟支部は今年も八月六日より九日までの四日間、新潟市西堀通五番町八六六の三越デパートでUFO写真展を開催する。八月中同デパートは定休日なしに営業、特に七、八、九日は新潟祭りが行われるので人出が多く大盛況が予想される。詳細問合せは新潟支部代表・星宮治夫氏へ。



※第一回旅行説明会

七月二十六日(日)午後一時より五時まで銀座七丁目の銀座ガスホール(☎〇三一五七三一一八七二)六階会議室で開催の予定。JR有楽町駅下車。

■八月東京月例会、日時会場を変更

八月の東京月例会は次のとおりに日時と会場を変更するのでご注意を。

(1)日時 第一、土曜日の一日午後一時半より六時まで。

(2)会場 皇居北の丸公園「科学技術館」六階大会議室。地下鉄東西線竹橋駅下車、徒歩数分。タクシーなら東京駅丸の内側より五百円台。同館入口右手エレベーターを利用。

■静岡支部再度UFO写真展開催予定

今夏八月に行う。詳細は野口代表へ。電話〇五四二一八六一七七二九

■九月の本年度総会

本年度総会は九月二十日に有楽町朝日ホールで盛大に挙行の予定。今年度はアメリカのダニエル・ロス氏が講演を行う。詳細は本号45頁の予告を。

(大阪市)、坂本茂子(秋田県)、今西正子(神戸市)、田中法代(山梨県)、園崎澄夫(金沢市)、小瀬信久(前橋市)、大畠忠(千葉県)、清水南(山梨県)、萩原昭彦(横浜市)、矢田真理(埼玉県)、越崎裕子(東京)、大場範子(同)、青木雅季(神奈川県)、浜村美里(千葉県)、河辺宏幸(名古屋市)、梅沢明(静岡市)

SCIENCE

(毎日、読売、朝日各紙に掲載された六十二年四月以降の科学記事を抜粋紹介。各記事末尾の数字は掲載日を、Mは毎日、Yは読売、Aは朝日を示す)

野菜

果物にやはり制ガン効果がある

ふだん食べている野菜や果物の中に発がん性と密接に関連する変異原性を抑える未知の物質がかなりの量含まれていることが農水省食品総合研究所の篠原和毅室長らの研究で明らかになり、四日まで東京で開催の日本農芸化学会で発表された。調べた野菜のうち抗変異原性の強さ(制ガン効果の強さ)のベスト3はナス、ブロッコリー、コマツナだった。

これまで野菜や果物には酵素のペルオキシダーゼ、植物繊維ビタミンCなど抗変異原物質が含まれていることが知られている。篠原室長らはこれら以外にも抗変異原物質があるのではと考え、十種類の野菜と果実三種類を調べた。各100グラムからとったジュースのうち、研究されつつある低分子部分は除き、残った高分子部分を対象に強い変異原物質のトリプトP-2の作用でサルモネラ菌が起こす突然変異をどれだけ抑えるかを見た。

その結果、野菜ではナスが突然変異を起こす(ガン細胞になる)割合を八三%抑えてトップ。以下ブロッコリー(キャベツの一種)八〇%、コマツナ(関東の野菜)七八%、ホウレンソウ七七%、ピーマン七三%の順。最低のニンジンでも二五%を示した(これからみるとナスをしつかり食べればガンにかかりにくくということになる)。

果物ではりんご五八%、ハツサク五〇%、アマナツ二〇%だった。注目されるのはりんごやハツサクの皮にも抗変異原

物質(ガンになるのを抑える物質)がかなり含まれ、「りんごの皮は体によい」が裏付けられたこと(4・4M)。

エイズ抑制作用を発見

動脈硬化症の治療に使われているデキストラン硫酸と血液凝固阻止剤のヘパリンに、エイズ(AIDS)後天性免疫不全症候群)ウイルスの増殖を抑制する働きがあることが福島県立医大(福島市)の伊藤正彦教授(細菌学)らの実験でわかった。同教授は「エイズ患者の延命効果があるとしてアメリカなどで広く使われているアジドチミジンより安価で副作用も少ない。臨床試験を待たねばならないが、免疫増強剤と併用すれば延命率になることが期待される」と説明している(4・12M)。

異空間分子の正体突き止め

東京天文台付属野辺山宇宙電波観測所と名古屋大学分子科学研究所のグループは六月三日、オウシ座暗黒星雲の中で強いナゾの電波を発していた星間分子の正体を突き止めたと発表した。炭素鎖の端にイオウがついたC₂とCSの二種類の直線状分子で、地上でも見つかったことがわかった。同班の松山常務理事によると「妊娠の喫煙が胎児に悪影響を与えることは日本をはじめ各國の研究で明らかになっている。今回のデータをみると、夫の喫煙もやはり妊娠にとっては危険なようだ」という(4・17M)。

超電導体の正体突き止め

東北大学金属材料研究所の高温超電導酸化物研究グループがこのほど四百キロボルトの超高分解能電子顕微鏡(EM-400EX)を使って、イットリウム、バリウム、銅、酸素の化合物である超電導酸化物の原子配列を直接観察、きわめて明瞭に写真撮影することに成功した。

今回撮影に使われた試料はイットリウム、バリウム、銅の金属原子がはつきり見え、

界温度を上げる上でのいくつかのブレークスルー(突破口)をなしとげてきたが、超電導体の臨界電流のアップにはほとんど成功しなかった。発表によると、この

超電導体は液体窒素温度(絶対温度七十七度)セ氏点下一九六度)で、一平方センチあたり十万アンペアの臨界電流を出すことができる(5・11M)。

タバコは胎児に悪影響

妊娠中の女性と夫がともにタバコを吸う夫婦は、非喫煙者カップルに比べ、二千五百グラム未満の低体重児が生まれたり早産になつたりする危険性の高いことが四月十六日までに厚生省の「喫煙の母子の健康に及ぼす影響研究班」の調査でわかった。同班の松山常務理事によると「妊娠の喫煙が胎児に悪影響を与えることは日本をはじめ各國の研究で明らかになつていて。今回のデータをみると、夫の喫煙もやはり妊娠にとっては危険なようだ」という(4・17M)。

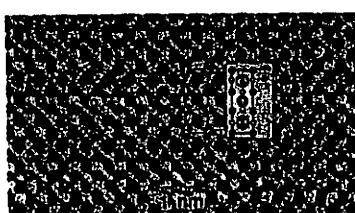
東北大学金属材料研究所の高温超電導酸化物研究グループがこのほど四百キロボルトの超高分解能電子顕微鏡(EM-400EX)を使って、イットリウム、バリウム、銅、酸素の化合物である超電導酸化物の原子配列を直接観察、きわめて明瞭に写真撮影することに成功した。今回撮影に使われた試料はイットリウム、バリウム、銅を一对二対三の比率で混合、九三〇度で十時間以上空気中で焼いたあと、電気炉の中で冷やした商品のもの。写真は平賀賢二教授が撮影したもので、この一部を五千万倍に拡大。その結果、早寝・早起きの子供が低体温児はいかつたことが判明した(5・18M)。

超新星のすぐそばに突然ナゾの星

世界の科学者はこれまで超電導体の臨界温度を上げる上でのいくつかのブレークスルー(突破口)をなしとげてきたが、これが成功した超電導酸化物の原子配列(4・26M)。

原子番号の違いにより黒点の濃さが微妙に違うため、それぞれの原子を識別することができる。酸素は原子番号が小さい

ため明るい点として見える。写真は撮影に成功した超電導酸化物の原子配列(4・26M)。



▲写真が撮影に成功した超電導酸化物の原子配列。数字と記号は写真の上に記入したもの。1nmは10⁻⁹mの長さ。図中のBはバリウム、Yはイットリウム、Cuは銅、Oは酸素を示している。

脳活動。体温にも影響

早寝早起きをする児童に比べて、就寝や起床の遅い児童は大脳の活動水準が低く、活動リズムも乱れていることが佐野勝徳・徳島大学総合科学部教授(行動科学)の研究でわかった。

調査対象は三一五歳児百十三人。午後八時半までに就寝、午前六時半までに起

床する教育を実践している丘庫県尼崎市の保育園児三十人と、沖縄県の五保育所の八十三人をプリカーチル実験と体温測定。その結果、早寝・早起きの子供が体温児はいかつたことが判明した(5・18M)。

超新星のすぐそばに突然ナゾの星

今年二月二十四日、地球から約十六万光年離れた大マゼラン星雲で超新星(一八八七年)が誕生するのが観測されたが、

このすぐ近くに謎の明るい星が出現した。

このナゾの星はハーバード・スミソニアン天体物理学センターの天文学者グループが三月二十五日と四月二日の二日間、トリのラセレタ近くのセロトロロ・イングアメリカン天文台の口径四メートルの望遠鏡とスペックル干涉法と呼ばれる技術を使って発見した。超新星から光の速度で約二週間の所に存在しているが、大マゼラン星雲では超新星に次ぐ明るさで、このような星は超新星誕生以前にはそのあたりには存在せず、「宇宙の巨大事件」とされている(5・24M)。

宇宙人の遺体、米政府が調査していた
三十一年付英オブザーバー紙は四十年前に米国内で墜落したUFOと「宇宙人の遺体について、米政府特別チームによる調査が実施されたことを示す極秘資料を英國のUFO研究家が入手したと報じた。

この研究者はティモシー・グッド氏。資料によると四七年六月二十四日に米ニューメキシコ州にあるロスエル空軍基地の北西約百二十キロに、円盤型の飛行物体が墜落するのを付近の農場主が目撃、UFOの搜索が極秘に開始された。

調査の結果、UFOの墜落した地点から東へ約三・二キロ離れた場所に、墜落寸前に機内から脱出したとみられる人間に似た肢体が発見された。遺体は動物に食べられ、いずれもひどく腐敗していた。資料の中で、当時の中央情報局(CIA)長官は、遺体は一見すると人間のようだが、生物学、進化論的分析によると、人類とは異なった生物だったと述べている。(6・1M)。

中國で大水獣を見た?

中国湖北省の自然保護区神農架で最近大水獣を見たという証言が相次ぎ、野生動物考察学会が調査に乗り出した。

この大水獣が出るのは神農架南坡新華郷石屋頭村と猫兒觀村付近の湖。これまでに三百回以上回目撃されたが、いずれも灰白色。目は茶わんばかりで、口も一メートルあるといふ。水面から顔を出すと水を高々と吹き上げ、この水獣が出てきた後は、なぜかよく雨が降るという。

神農架は海拔三、四千メートルのところにあり、周囲数百キロメートルは一面原始林の樹海で住民が一九六八年八月、白い毛の二匹の野人を、続いて七六年五月には赤毛の二匹の野人を目撃した。早く湖北西北奇異動物調査隊が結成され、三十三センチの巨大足跡を発見。七八年には地元住民が五回にわたって褐色の毛の野人を見つけたという。

この調査隊の活動はその後も活発で、今では会員五百人にふくれ上がった。最近の調査では、野人は尻尾がなく、体が大きい割には「人に向かって笑みをもらす」人なつこさを持つという(6・8M)。

スーパー電算機より百倍早いジョセフソン素子を開発

高温超電導物質を使い、次世代コンピューター用の高速演算素子として注目されているジョセフソン素子を作るのに成功したと東大工学部電子工学科の岡部洋一助教授が十二日に発表した。これが実用化されれば現在のスーパーコンピュータより演算速度が百倍も速くなるといふ(6・13M)。

寿命長い常温超電導物質を開発

住友電気工業は二十九日、セ氏二七度の常温で電気抵抗が完全にゼロになる新

しい超電導物質を開発した。同物質はイットリウム、バリウム、銅、酸素に別の物質を加えたセラミックス系。直径七ミリ、厚さ三ミリの試料五個をテストしたところ、最長で一週間、最短で一日、セ氏二七度で電気抵抗ゼロの状態を持続した(6・30M)。

超電導物質、実用化へ道

世界中が開発にフィーバーしている超電導物質を実用化するには薄い膜かコイルにする必要があるが、工業技術院・化学校技術研究所(筑波研究学園都市)の水田進エネルギー化学部第四課長は、四月二十三日、陶芸の上葉を塗るやり方で超電導物質を手軽に実用化できる画期的な方法を世界に先駆けて開発したと発表した。

新方法は超電導物質の原料(金属元素)を溶かした有機溶液(アルコール系の溶剤)を筆で基板に塗るか、直接ひたすだけの簡単な方法。真空装置やレーザーは数億円もし、しかもちっぽけな超電導物質しかできないが、新方法ではこんな

装置は不要で、超電導物質を大型化できる。新方法は非常にコスト安なので、この方法を使って超電導物質を大量生産できるようになれば、経済的波及効果はばかりしない。

新方法は超電導物質のイットリウム、バリウム、銅を含む市販の粉末や溶液をアルコール系の有機溶液で混ぜるだけ。できた緑色の混合液を別のセラミックス基板の表面に絵筆で塗つたり、基板を直接液につけたりすればOK。これを電気炉に入れ、八百度前後で焼くと有機物が蒸発したり燃焼したりし、超電導の薄膜だけが基板表面をしつかりと覆うという

わけ(4・24Y)。

超電導「イルで磁場

東芝は四月二十八日、世界に先駆けて高溫超電導セラミックスの線材でコイルを作り、從来よりも大過の電流を流して磁場を作ることに成功したと発表した。(4・29Y)。

ガンの進展抑えるサンゴ

国立ガンセンター研究所・藤木博太が予防研究部長の研究によれば、ガン予防薬もまんざらではない。オオウミキノコ(軟サンゴの一類)に含まれる「ザルコフィトルA」という物質が最近有望らしい。

オオウミキノコは日本では三重県以南の岩礁などに生息し、野菜のプロッコリーを大きくしたような形をしている。重量の〇・四%がザルコフィトルAといふからかなり採れる。毒性もほとんどゼロ。

ザルコフィトルAのガン抑制効力はこれまでに同じような作用が確認されている他の物質のざつと千倍。ザルコフィトルAがガンを抑える仕組みがわかれれば、もつと強力なガン予防物質の合成ができるかもしれない(5・29Y)。

ソ連スペースシャトル用ロケット打上げ成功ソ連は五月十五日午後九時三十分(モスクワ時間)、スペースシャトル用の新世代ロケット「エネルギー」をソ連中央アジアのバイコヌール宇宙基地から打ち上げた。「エネルギー」は多目的の運搬ロケットで、この実験的成功はソ連の宇宙開発が新たな段階に入ったことを意味する」と受けとめられている。

「エネルギー」は全長六十メートル、八基のエンジンを搭載、発射時の重さは二千トン以上で、百トン以上の荷物を宇

宇宙基地に運ぶことができるという。テレピニュースは「一億七千万馬力で世界最強のエンジン」と伝えた(5・10Y)。

「月面基地」開発へスタンバイ
NASA(米航空宇宙局)は二十一世紀初頭の宇宙開発計画の柱となる「月面基地」の本格的検討に着手することになった。NASA報道官が五月十三日に明らかにしたところによると、NASAのジョンソン宇宙センターはロッキード・スペース社など宇宙企業三社との構想に関する一年間の委託研究契約をこのほど結んだ(5・15Y)。

ソ連版シャトル打ち上げ準備

五月十三日のタス通信によると、ソ連のゴルバチョフ党書記長が今月十一日から十三日までカザフ共和国のバイコヌール宇宙基地を訪問、スペースシャトル用ロケットの打ち上げ準備を視察した。ソ連がスペースシャトルの打ち上げ準備を公式に表面化したのはこれが初めて。

同通信はこのロケットについて「反覆使用可能な低軌道衛星などを打ち上げるための多目的新型ブースター・ロケット」と説明しており、「これはソ連版スペースシャトルを意味する」とみられる(5・15Y)。

世界最高速のLSIを開発

超高速で作動する「HEMT(高電子移動度トランジスター)」の研究で世界をリードしている富士通研究所は五月十一日、「HEMT」を使ってコンピュータの計算の基本論理回路のLSI(大规模集積回路)を作ることに成功、このLSIで世界最高速の機能を達成したと発表した。同社ではこれにより二年後に「HEMT」による全く新しい「超ス

ーパーコンピューター」を実現できる見通しがついたと説明している。

「HEMT」はガリウム・ヒ素の半導体接合

EMTで構成する論理回路を四千個も集積したもので、十六けたと十六けたの掛け算を十億分の四・一秒で処理するという世界記録を作った(5・12Y)。

これがブラックホール

何でものみ込んでしまうという宇宙の彼方のブラックホールの姿を大阪教育大学地学教室の福江純助手(三一)がコンピューターを駆使して、世界で初めてカラーフィルムで撮影した。五月十二日、京大会館で開かれた日本天文学会で発表した。

福江さんはX-1のX線を逆にたどり、ガスの渦がブラックホールに吸収される姿を真上からぼくぼく横に至るいくつもの角度から見たケースで映像化に挑戦。一画面に必要な約四万の点について、これまでデータとして得られている重力、温度、ドップラー効果(動く物体から発する音、電波などの周波数)などを計算して、色と光度を決定、映像化した(5・12Y)。

大西洋に巨大クレーター

六月十八日発見の英科学誌「ネイチャ

ー」によると、カナダの海洋学研究者が、カナダ東方の大西洋海底にいん石かスイ里的激突跡とみられる巨大なクレーターを発見した。海底で発見されたのは初めて。

発見された場所はノバスコシア半島の南東二百キロ。石油探査のためのボーリング調査と地震波観測データから大陸棚の縁、水深百メートルの海底に周囲と

きわだつて異なる地形が確認された。クレーターの直径は少なくとも四十五キロ。中央部に直径十一・五キロの隆起部がある。研究者たちは約五千万年前に直径二、三キロの巨大いん石あるいはスイ星の核が激突したと推定している(6・18Y)。

十、十一番惑星が存在する?
ソ連国立ゴーリキー教育大学のアントン・リード・アルテムイエフ助教授が雑誌「科学と技術の進歩」最近号で、スイ星の軌道の分析結果として太陽系の最も外側に地球の質量の六十倍、五十倍の二個の惑星が存在するという仮説を紹介している。

今回の仮説はソ連の天文学者、ウラジミール・ラジエフスキイ教授とワジム・トマノフ氏が作成したスイ星のカタログの分析から得られた。推定質量が正しければ太陽系で三番目、四番目に重い惑星になる(6・8Y)。

世界初、エイズ抗体開発成功
エイズ(後天性免疫不全症候群)ウイルスと結合して感染を阻止する抗体を作ることに熊本大学医学部の松下修三博士(三一)が成功、ワシントンで開催中の国際エイズ会議で六月三日発表した。

松下博士が発表した抗体は、感染力を殺したエイズウイルスを注射したマウス

の脾臓細胞から作つたモノクローナル抗体。松下博士によって作られたモノクローナル抗体は、ウイルス外皮タンパクとだけ結合する抗体を生み出す細胞から作り出された。試験管内の実験の結果は、

この抗体がエイズウイルス自身はもとより、エイズウイルスに感染した細胞のいんドームにエイズウイルスを入れて外かれさせざまな圧力を加えてみたが、ウイルスが漏れ出した証拠はなかった。

エイズが大流行しているザイールで春婦三百七十六人を検査したら、感染していないかったのはわずか八人のみ。何と感染率九八%。この八人に詳しく聞くと、客にコンドームを使わせていた(4・10A)。

ピラミッドは墓でなく来世の象徴?
エジプト・カイロ郊外の大ピラミッドはなんのために建てられたのか。エジプト学最大のなぞに、日仏共同の先端技術による内部調査が、これまで常識と考えられていた「国王墳墓説」をくつがえし、「国王の来世を地上で象徴する建造物」との新たな仮説を前進させた。

パリ市の科学産業センター「ビレット」で四月三十日、日仏調査団、各国のエジプト学専門家らによる初の記者会見と公開討論会が行われ、この新仮説に約四百人の聴衆がどよめいた。とくに日本のハイテクに裏打ちされた発表に大きな関心が集まっていた。

今年一月、仏調査の後を受け早稻田大学古代エジプト調査隊（団長・吉村作治・人間科学部助教授）が電磁波探査装置をピラミッド内に持ち込み、コンピュータで分析した結果、フランス隊発見の空洞を確認。さらに新たな空洞のあることなど「電磁波によるピラミッド調査」という論文を今回発表した。

日本調査団の関和明・関東学院大工学部助教授は空洞調査を機会に、ピラミッドを建築学的視点から再検討すると「王の遺体を埋葬する」という実質的功能のためのものではなく、卒塔婆（そとば）のような象徴的建造物ではないか」と発表した。

また、吉村助教授は一九七〇年代から古代エジプトの遺跡発掘を続けてきた経験と今回の調査から「エジプトのファラオ（国王）や王族の遺体はすべて地中に埋葬されてきたはずだ。ピラミッドといふ立体的建造物は墓地なのではなく、来世を信じていたファラオが、この地上に来世を象徴化するため、あるいは来世のシミュレーションのために建てたものと考えた方が自然。したがって、確認された空洞の内部に、王の遺体が埋葬されているとは考えられない」と公開討論会で述べた。エジプト学の伝統を持つフランスで日本の調査が評価されたのはこれが初めて（5・4A）。

強力ボリエチレンの製法を開発

強力なボリエチレン樹脂をつくる研究を進めている奈良女子大学政学部の松生勝・助教授と静岡大教育学部の沢渡千枝講師（いずれも高分子物性）は、銅と同じく伸びにくく、高温にも耐えられるポリエチレンをつくる技術を開発、近

く米国化学会の高分子専門誌に発表する。この技術を使うと、普通なら七〇度を超すと軟らくなるボリエチレンが、一〇〇度までの温度では現在最強のアラミド繊維よりも強くなる（5・6A）。

電線研、磁気センサーを開発

世界に先駆けて工業技術院電子技術総合研究所（茨城県筑波）標準計測部のグ

ループが開発した超高度度の磁気センサー（感知機）システムは、地磁気の十億分の一という脳の中核細胞から出る極めて微弱な磁気を検出することができる。神經細胞の磁気反応を通して生体内の微妙な変化や異常をキャッチできることから、聽覚、視覚神経など脳中核の仕組みの解明や精密な臨床診断に役立つと期待される（5・19A）。

世界の原子力発電状況八六年度分判明

国際原子力機関（IAEA）はこのほど、八六年の世界の原子力発電状況を発表した。全二十六カ国中十六カ国で前年を上回り、全電力量に占める原子力の割合はフランスの六九・八%（前年六四・八%）を最高に八カ国が三〇%を超えた。

世界には三百九十七基の原発があり、全世界の電力の約一六%を生産したとみている。各國の状況は次のとおり。①フランス②ベルギー③スウェーデン④台湾⑤韓国⑥スイス⑦フィンランド⑧アルガリア⑨西ドイツ⑩スペイン⑪日本⑫チエコスロバキア⑬イギリス⑭ハンガリー⑮アメリカ⑯カナダ⑰東ドイツ⑯アルゼンチン⑯ソ連⑰南アフリカ（以下略（5・19A）。

（編注）以上は原子力発電所の保有基數

頃ではなく、一国の全電力量に占める原子力の割合の高い順から列挙したもの）

東邦大医学部の海老沢功教授（公衆衛生）らの実験では、大腸菌、チフス菌、セ

ネズミに対する大量のビタミンC投与がストレスによる胃かいようの発生や、出産率の低下を防ぐ効果があつたとの実験結果を、西川善之・甲子園大教授（食生活科学）のグループが、久留米市で開かれた日本ビタミン学会で発表した。

ビタミンCを飲料水に混ぜて一日に三五ミリグラム程度を二週間与えた。続いて二十時間、二三度の水に今まで漬けるストレスを与えた後、胃かいようの発生状況を調べるために解剖した。すると、ビタミンCを与えたネズミは与えなかつたネズミに比べて、大きさ一ミリ以上の大きなないうの数は半分しかなかつた。

人間は体内でビタミンCをつくれないが、ネズミは自分でつくれる。今回の投与量は大きなストレスがかかつた際に自分でつくるとされる量の四倍近い大量なもの（5・20A）。

細菌をろ過する携帯用浄化器を開発 東京の多摩川はもちろん、上野の不忍池の水でも、ろ過装置を通すだけで細菌類はすべてこれ、普通の水道水並みの安全な飲み水になる携帯用浄化器が開発された。

原理は簡単。細菌の大きさは、例えば大腸菌は太さ千分の一〇・五ミリ、長さは千分の一四ミリ。こうした細菌より細かな穴が壁にあいているチューブのよくな中空纖維をたばね、やや太めの容器に入れて圧力をかけ、内側に浸透した水を集め通す。中空纖維の外周に汚れた水を入れて圧力をかけ、内側に浸透した水を集めれる。菌は穴を通りぬけひつかかる。

（編注）以上は原子力発電所の保有基數

率のものより十倍もピントが絞れるプラネットックの球レンズを、慶應大理工学部の大塚保治教授、小池康博助手（応用化学生）らのグループが開発。京都で開かれている高分子学会で五月二十八日発表。スチックの球レンズ（ピントの鋭さ）を上げるには、何枚かのレンズを組み合わせたり非球面にするなど、形に工夫をこらして、レンズの集光性（ピントの鋭さ）を上げている。球レンズだと、どの方向から見ても同じだから、従来の平たいレンズのように入射光と直角に置く必要がなく、位置さえ決めればよいので、ぐんとされている。球レンズだと、どの方向から見ても同じだから、従来の平たいレンズのように入射する何組かの光も一つのレンズで集光できるので、光ファイバーで運ばれてくる光を交差させる結合器など、これまで考えられなかつたような使い道も見つかりそうだ（5・27A）。

（次号以後も連続掲載）

ラチアを一リットル当たり数十万から数億個入れた水が無菌になつた。特種な活性炭を併用しているため、臭氣などの不純物もかなり除けた。

「上水道の完備していない開発途上国の人々へ旅行する人は下痢に苦しめられるが、これで細菌によるものは防げる」と、青年海外協力隊の熱帯病予防講座を受け持つ海老沢さん。「風呂水でも飲めるようになるので、地震のような災害時にも」とメーカーの三菱レーションはつけ加えている（5・22A）。

新型の球レンズを開発

屈折率を内部で変化させ、均一な屈折率のものより十倍もピントが絞れるプラネットックの球レンズを、慶應大理工学部の大塚保治教授、小池康博助手（応用化学生）らのグループが開発。京都で開かれている高分子学会で五月二十八日発表。

（編注）これは「クリンスイ」という名で販売している。S型二万三千円、D型二万八千円

私は別な惑星へ行った！

**混乱を起すアリババ情報、単極極震を発見せよ! 心霊現象は波動の映像化、宇宙空間と並間
(連載最終回)**

地球救済のための転生の方法

——話は変わりますが、宇宙人、たとえば金星人のなかにはイエスみたいに地球を救済しようとして転生して(生まれ変わつて)地球へ来る人があるでしょう? この場合は老衰死するのを自然に待つて、それから転生するのではなくて、たぶん途中から転生しようと決意するんだろうと思いますが、その場合は自分で命を絶つのです。

「これは、いまだも地球に儀式みたいな

かたちが残つているんですねが、お坊さんなどで即身成仏というのがありますね。あれに近いんです。

まず彼らスペース・ピープルは、地

球のどこそこに生まれ変わつて、自

分でその場所を選びます。そしてそこ

へ意識を集中して、生まれ変わる家庭

の波動や、血筋、その他を徹底的に調べるんです。そしてその家系の未来まで説んでおいて「この家庭ならよし」と決めたら、ここへ入ろうというわけ



で、そこへものすごく想念を集中します。「自分は絶対にそこへ生まれる」と強烈に感じるのです。そして食物を全部絶つて、全身全霊でもってそれに集中します。

そうすると、別に肉体を傷つけなく

ても、自然に肉体が急速に物質に還元

して、意識体だけが急速に移行するん

です。

こうしたテクニックはたぶんチベッ

トあたりに残つていると思いますね。

あそこから後に中国経由で即身成仏と

いう考え方が出てきたのだろうと思いま

す。

鳴する作用があつて、その特異性を利

用してICその他に利用されていると

いう話を聞きます。どうも他から来る

マイナスの想念をシャットアウトして、

出ている想念を完全にルックする作用

があるらしいんです。そうすると固定

された念に意識を集中できるわけです。

「なかには情報錯乱を狙うケースがか

なりあると思うんです。それこそ南米

の飛行機も見たことのないような農夫

を連れ出して、おかしな話をインプット

して大騒ぎさせるというわけです。

近頃は催眠術で記憶を逆行させてU

F.O.に乗った体験をしたと冒わせるケ

ースがありますが、あれなんかは騙す

側からすれば最も楽な方法です。田盤

にみせかけたセットを作らなくとも催

眠術をかけられればよいのですから。あ

あいうケースのブームがあること自体、

非常に作為的なものを感じますね。

キャトル・ミューティレーションと

——話は変わりますが、宇宙人、たとえば金星人のなかにはイエスみたいに地球を救済しようとして転生して(生まれ変わつて)地球へ来る人があるでしょう? この場合は老衰死するのを自然に待つて、それから転生するのではなくて、たぶん途中から転生しようと思いつく人がいます。その場合は自分で命を絶つのです。

「これは、いまだも地球に儀式みたいな

かたちが残つているんですねが、お坊さんなどで即身成仏というのがありますね。あれに近いんです。

まず彼らスペース・ピープルは、地

球のどこそこに生まれ変わつて、自

分でその場所を選びます。そしてそこ

へ意識を集中して、生まれ変わる家庭

の波動や、血筋、その他を徹底的に調べるんです。そしてその家系の未来まで説んでおいて「この家庭ならよし」と決めたら、ここへ入ろうというわけ

と決めたら、ここへ入ろうというわけ

</div

いう現象も明らかに作為的ですね。最初は薬物実験か何かのカムフラージュだったのかもしれません」つまり地球人の「だれか」が作為的な謀略を仕組んで、宇宙人というのはフルなのだと思い込ませようとしているというわけだ。こうして一般地球人に恐怖心を起させることによって、太陽系内の別な惑星群の大文明と偉大な発達をとげたスペース・ビープルの存在に気づかないように工作をしているのである。しかしこうした裏面まで読み取れないUFO研究家がいて、宇宙人は別な太陽系から侵略に来るワルの集団で、アダムスキーノとなる説はすべてフィクションだと騒ぎたてる手合がいるが、これはまんまと彼らのワノにおちいつっていることになるのだ。これに類似した謀略は世界で渦巻いてるので、眞実の宇宙問題に目を向けるようとする人は重々警戒する必要がある。UFO問題に関する雑多な本や雑誌を手あたり次第に読みまくる態度を捨ててかかることが先決だろう。

「近頃はKという人の説が出来ていますが、あれも混乱を起こしますね。Kと親しい人を私は知っていますが、すつかり神がかってきたということです。心靈的なものと相容れやすいんです。心靈的現象と現実のUFO出現と

は厳然と区別をつける必要があります。多いのは、宇宙人のメンタル・テクニックを心靈的なものだと誤解しているケースです。地球人の心靈現象に関する考え方にもとづいています。ところが精神の作用は光速を超えた大変な性質を帯びています。しかしどとんどの心靈的な人の説明はヨーロッパのスピリチュアリズムをベースにして、その枠を超えないんです。それが自体が科学でなくて信仰であるからです。

たとえばテレパシックな人は何かの波動に感應して、いろんなビジョンを見たりするんですが、そうだとと思わず、「そこに靈がいる。空中に浮揚している」と言つたりするわけです。ところが自分だけに像が見えて他の人に見えないのは、自分の体質的なものがあるエネルギーに感應しているのではないかと考えて、その発想で堀り下げる超能力者は強いですね。つまりアダムスキーの言う波動的なものに一步参入しているわけです。

そこまでゆけば超能力者自身も自分で体験する現象をコントロールできるんです。一方、見える映像に気をとられて恐怖心が起りますと精神的に異常をきたすケースが多いんです。

ですからこの問題は、アダムスキーノの言う波動説に同調するかしないかで

初は薬物実験か何かのカムフラージュだったのかもしれません」つまり地球人の「だれか」が作為的

は厳然と区別をつける必要があります。多いのは、宇宙人のメンタル・テクニックを心靈的なものだと誤解しているケースです。地球人の心靈現象に関する考え方にもとづいています。

「類は類を呼ぶ」で、今まで私の所にコンタクトの体験者や超能力者など、いろんな人が来たり会つたりしましたけれど、その波動説までに至つて、その枠を超えないんです。ただ一人だけ念写をやる人で、その説を持つている人がいましたが、その人は大変立派な方でした。つまり心靈論といふのは幻であつて、その奥にある物理的な法則性にまでゆきつかないとダメだと言つっていました。私もその考え方には大賛成です。

アメリカでコンピューターを使ってUFO写真の真偽を鑑定するというグループの話題に及び、これについても春川氏はコンピューターによる写真の解析が究極的には不可能であることを、編者自身も以前この問題が気になつて、当時神奈川県秦野市に住んでいた親類のコンピューター技術者に聞きに行つたことがある。アメリカの一グループによると、アダムスキーの円盤写真は模型を糸で吊り下げたのを写したことがコンピューターによる解析で判明したというが、一体そんなことがコニピューターで出来るのかと尋ねたところ、阪大の数学出身で大手メーカーの課長である相手は大いに驚いた。

「えつ、そんなことがコンピューターで出来るはずはありませんよ。糸で吊り下げたかどうかは、写真のネガをタスクマシンで拡大して検査する以外に方法はないでしょう。印画紙にプリントされた小さな写真から糸を検出するなんて、コンピューターには何の関係もないことです。コンピューターハーはしょせん人間の手で作られたものですから、ただの死物にすぎません。これを人間の手であやつれば、どのよ

うな結果でも出てきます。だから糸ら

りの情報網を持つてゐるようだ。

コンピューターは神様ではない

から超能力者がビジョンを見る現象もアダムスキーの信憑性を肯定する非常に良い材料になると思います。

UFO写真の真偽を鑑定するというグループの話題に及び、これについても春川氏はコンピューターによる写真の解析が究極的には不可能であることを、編者自身も以前この問題が気になつて、当時神奈川県秦野市に住んでいた親類のコンピューター技術者に聞きに行つたことがある。アメリカの一グループによると、アダムスキーの円盤写真は模型を糸で吊り下げたのを写したことがコンピューターによる解析で判明したというが、一体そんなことがコニピューターで出来るのかと尋ねたところ、阪大の数学出身で大手メーカーの課長である相手は大いに驚いた。

「えつ、そんなことがコンピューターで出来るはずはありませんよ。糸で吊り下げたかどうかは、写真のネガをタスクマシンで拡大して検査する以外に方法はないでしょう。印画紙にプリントされた小さな写真から糸を検出するなんて、コンピューターには何の関係もないことです。コンピューターハーはしょせん人間の手で作られたものですから、ただの死物にすぎません。これを人間の手であやつれば、どのよ

うな結果でも出てきます。だから糸ら

りの情報網を持つてゐるようだ。

コンピューターは神様ではない

しい物が出てくるように仕向けることも可能ですが、それはただ糸のよう見えるだけのことです」

科学は重要である。そしてコンピューターは多方面で絶大な役割を果たし、社会に図り知れない恩恵をもたらしている。しかしコンピューターは万能の神ではない。これで万象のあらゆる謎が解けるわけではないのだ。妄信して操作を誤ると、むしろ悪魔化することは各種の映画や小説で描かれているとおりで、一部の愚かなアメリカ人はこれを地でいつてることになる。非常に重要なUFO写真を片づけながら葬り去ろうとしているからだ。

太陽の放射エネルギーの性質は

——アダムスキーによりますと、太陽は普通に考えられているような熱を持つ天体ではないと言っていますが、この点はどうです？

「基本的には太陽の内部は極端な高温ではないと思いますね、中心部は——。あれはやはり单極磁気がからんでいると思いますよ。空中から熱が発生する現象とかですね。とにかく磁気というのが曲者ですね」

どうも春川氏は真相を知りながらもこの辺の話をボカしているようだ。明確に言えない事情があるのだろう。

——太陽の放射線は粒子といふ説と波動という説とがあるようですが、これ

については？

「やはり光子と同じで両方の側面を持っていると思います。しかし基本的に社会に図り知れない恩恵をもたらしている。しかしコンピューターは万能の神ではない。これで万象のあらゆる謎が解けるわけではないのだ。妄信して操作を誤ると、むしろ悪魔化することは各種の映画や小説で描かれているとおりで、一部の愚かなアメリカ人はこれを地でいつてすることになる。非常に重要なUFO写真を片づけながら葬り去ろうとしているからだ。

——アダムスキーの言う波動なのであって、これが根本になると思います。

以前にある物理学者と話をしましたら、まず原子が存在し、プラスとマイナスがあつて、中性粒子のニュートリノがある、それでニュートリノが秘密をにぎつっているらしいけれども、しかし曲者はニュートリノだけではない、これに影響を与える手前の“モノ”があると言うんです。必ずあるんだといふわけです。（注）詳細はアダムスキー全集第一巻『宇宙からの訪問者』を参考照。

——先程の太陽の話ですが、アダムスキーによれば、私たちの太陽系には九個ではなく実際は十二個の惑星があり、その全部の惑星に人間が住んでいて、しかも各惑星に偉大な文明があるといふわけです（注）詳細はアダムスキー全集第一巻『宇宙からの訪問者』を参考照。

——ところが從来の物理学では逆二乗の法則によって、太陽のごとき放射線は距離の二乗に反比例して弱まってゆくということになっています。これは確かなものがあるはずだ、ニュートリノが動くエネルギーを持つてゐるのだから、それを動かしているもつと微弱な根元的なものがいるはずだというのですが、そこから先は限界があつてわからない

ところがその先は精神とか人間の生

命の本源とか、そこら辺に回帰するのではないかと思います。そうなると

地球の科学ではまだ努力不足であると

いうことでしょう。

宇宙人はその点を解説していると思

うんです。ですから彼らは精神的な作業と科学的な作業を完全に併用して、いわば精神と物質の一体論科学とい

うふうを確実に把握しているんです。そ

して自分たちの生活に生かしきつてい

ます。地球もそういう姿勢が出てこな

い限りむつかしいでしょうね」

——アダムスキーはこれをテレ

ビのブラウン管にたとえて説明してい

ます。つまりブラウン管のカソードか

ら出る負の電子ビームは正のアノード

に引つ張られて進行し、そこを通過し

て次のアノードに引つ張られ、さらに

そこを通過して蛍光板にあたり、画像

となるわけです。

——これと同じように、太陽から放射さ

れる正の放射ビームは火星と木星の間

にある負のアステロイド帯に引つ張ら

れてそこを通過し、さらに海王星と冥

王星の間にある第二アステロイド帯に

引き寄せられて加速され、このように

して全十二個の惑星に地球と同様の光

と熱が与えられるのだとアダムスキー

は述べていますが、これは間違いない

ことでしょう。

——ええ、間違いないと思ひます。ただ

あれは一つの譬え話であつて、もつと

奥の深いものがあると思うんです。た

とえばカソードをとりあげても、あれ

だけでは説明しきれないものがあるで

しょうね。あの譬え話だけを取り上げ

てアダムスキーは知識のないやつだと

非難する人もあります。現実は違うじ

やないかと。だけどあれはあくまでも

一つの譬え話であつて、原理を説明す

るための最も近い観念を、アダムスキーリーはいろいろな知識のなかから勉強して導き出した上で、これが最も近いんじゃないかというわけで應用したのでしょうね。

やはり単極磁気と、あとは光の問題です。UFOは光を自由自在にコントロールするんですが、地球人類は光をまだ克服していません。そこら辺が壁です。そこから光のことを宇宙人からいろいろ教わりましたけれども、いまその知識を出してもなかなか生かせないでしようし、むつかしい問題です。科学者がその知識をとりあげるときに、どこまで謙虚な姿勢で迎えることができるかという問題があります。科学者は自分の知識さえふえればよいというのが普通の態度ですから、そこに別な惑星の精神と物質一体の科学と、地球の物質一辺倒のアカデミズムの科学との根本的な相違があります」

精神と物質との統一理論が重要

「たとえばいま私と非常に親しくしている一人のテレパシストがいます。この人はビーター・フルコスという有名な超能力者と同じようなケースで、交通事故で頭髪骨を打つたんです。するとそのとたんに非常に正確なテレパシー能力が出るようになりましたが、特にサイコメトリー的な力があるんです。波動を非常に正確に感受します。

力ギは単極磁気にある

面白いことに、いまその人に取り組んでもらっている仕事として、原子や分子や単極磁気などの構造をテレビ画面に描かせるんです。それを一部の科学者が非常に注目していて、そのマニュアルを作らせたんです。それにたいしていま何人かの科学者が取り組んでいるんですけど、面白い結果が出そうですよ。

そういう手法でもつてやり始めるにとだめですね。精神的なチューナー能を持つ人がいて、科学者がそれとタップしながら研究をするめることになると、すごい結果が出るでしょう。

たとえば円盤というものは宇宙人の想念的なものでコントロールされているのですが、こういう癡想は地球上の今までのやり方では絶対に出できませんね。この円盤の開発でも別な惑星にたぶんパイオニアが最初にいて、想念が物質に影響を与えるということを知りまじめに取り組んで、結局、円盤と呼ばれるような宇宙船が出来たと思います。まず想念の研究があつたんですね。ところが現在の地球では精神的な能力者と科学者が背を向け合って、その能力を發揮して、科学者がしかこの問題はものすごく難解ですから、地球人総出でやらないと解決しないでしようね。しかもこう言えます。たとえば原爆があります。あれはいけないものだということはだれでも知っています。しかし、だからといつて原爆という形だけの物を地球上から廃絶したとしても、地球人の他人の生命にたいする攻撃本能がある限り、それは持つているということがまず考えら

——そうすると冥王星までも地球と同じような熱と光が行くのは、単極磁気が根本的原因になるのですか。

——そうだと思います。原理的に道路に小さな石が一個ころがついたのですが、宇宙人がひょいと手をかざすと、石がピュッと飛び上がって相手の手の中にポンとつかまえられたんです。そういう光景を見たことがあります。

——直後に相手はその石を持たせてきました。すると、石の下側が少しあたたかいです。それは波動的な感覚ではなくて、実際にあたたかいんです。そして上側がすごく冷たいんです。これも何かの原理を示そうとして、わざとやつてみせたのでしょうか。

——どういう原理で石が飛び上がったのですか。

「いや、これは私にもわかりません」といつて春川氏は笑う。

「国内のある研究家が、円盤のコイルはなぜ冷たくて発光するのかという問題に取り組んでいたことがあります。そこら辺ともからんでいるような気がしますね。どちらにしてもコイルがみとなるとやはり磁気でしょう。

円盤の中でコイルが輪つかになつてあるんですが、何かの方法であれを回転させるのでしようね。つまり単極磁気の無秩序な自然のままの回転自体を人工的に起こさせるような装置を円盤

——そうすると冥王星までも地球と同

ず出てくるでしょう。それが根本的に変革しない限り、この門は開かれないと思うんです。

れます。しかし詳しいことは私にもよくわかりません」

「アインシュタインは宇宙人から教わった」

「円盤が人工重力場を持っていることは間違いないことでしょうね。」

「はい、これは間違ひありません。その重力場というのは付随現象で、その根本的なものにやはり磁気の操作があると思います。たとえば宇宙空間になぜ重力場を持つた地球という星が丸い形で存在しているのかということ自体が不思議です。一体どこからエネルギーを得て回転し続けているのか、これも不思議です。その他天体に関するいろいろな現象には現代の科学でも未解決な謎が多いのですが、それからみますと創造主の法則や英知というものは巨大ですね」

「いやあ、それはもう人間の知恵で図り知れないものがありますからね。「考えてみると宇宙自体が永久機関ではないかと思うんです。宇宙は広がりつつあるといわれていますが、その広がり 자체が私は永久機関であると思ふんです。たとえば人間の魂にしても創造主の法則で作り出したものですから、やはり永久機関だろうと思います。ある場所へ行つたら別なものに変換されるけれども（注）転生してさまの肉体を持つけれどもの意）、そ

つて次々と伝えられてゆくわけですか

ら、一種の永久機関だと思います。

そのように考えてみると、もし宇宙自体が永久機関だとしますと、もし宇

宙自体が人工重力場を作ることは可能だと思ふんです。ヒナ型があるわけですから――。抽象的な話になりますが、やはり重要なのは意識改革ではないで

人為的に永久機関を作ることは可能だと思ふんです。ヒナ型があるわけですから――。抽象的な話になりますが、やはり重要なのは意識改革ではないで

以前に円盤、母船の動力部の話をしましたね。あれは六角形の集合物体の中の空間が光るんです。その六角の物

自体がバーツと光るんじゃなくて、六角形の物の中のそれぞれの空間が光るんです。ハチの巣の中心部分の空間です。あれを見たときにハッとしたましだとえセント・エルムの火とか、あした静電気をともなつた空中発光現象がいろいろあります。ああいう現象とからんでいるように思いますね。

近年話題になつた事件で、フライデルフィア事件というのがあります。あれはある艦船に強力な磁気をかけるこ

とによって、ある種の実験をやろうとしたら船が消えたというわけです。何分か後に船の姿がもどつてきたけれども、乗つていた乗組員は発狂寸前になつたとか、変な生物に会つたなどといわれています。アインシュタインがらみだつたと聞いていますが、何かあつ

たのでしょうか。

アインシュタインといえば、聞くところによると宇宙人とコンタクトして

いたそうです。これは宇宙人から聞いたことです。だから間違ひありません。

彼は相対性理論の特殊のほうを出すときには、すごいスランプにおちいつて壁につきあたつていたんです。その壁

が取れない、あの理論は導き出せないんです。ところが彼が導き出さない限りあの理論は四十年遅れたはずなのです。

宇宙人はそれを読みとつて、ある日非常に簡単な示唆を与えたそうです。

夢で示唆を与えたのか、それとも直接に会つて話したのかはわかりませんが、彼は夢で見たとは述べていませんから、たぶん宇宙人が直接会つて示唆を与えていました。

たんだらうと思います。それによつて急速に問題が解けたんです。しかしそれを教えたために宇宙人側にもいろいろ問題が起つたらいいですよ。直接の伝授ですからね。

宇宙人は最近は科学者にあまりヒントを与えないようです。宇宙人に言わせますと、地球人は力を持っているの

に、それを充分に使わないだけだというのです

自分の事は自分で解決せよというの

の伝授ですからね。

宇宙人は最近は科学者にあまりヒントを与えないようです。宇宙人に言わせますと、地球人は力を持っているの

に、それを充分に使わないだけだとい

うのです

自分の事は自分で解決せよというの

だらう。これが眞の進歩向上になるの

だとアダムスキーも言つてゐる。

――円盤の推進原理ですが、アダムスキーによれば、円盤自体に人工重力場

を発生させて完全な無重量状態にしておけば、あとはわずかな推力で光速に近いスピードで飛ぶのだということです。

それはわかるのですが、その推力をどんな方法で与えているのか、これ

が全くわかりません。この真相はどう

です？

「ええ、そこの問題です（しばらく言葉がとだえる）。いまいろいろ仮説が出ていますが、さまざまの側面を解明していると思うんです。イオンクラフトとか――。

こういう話があります。二枚の円板を距離をおいて重ねて、ペアリングで間を離します。そしてその二枚を互いに逆方向に高速で回転させると空中を飛ぶんです。その他いろいろな浮揚方

法がとなえられていますが、それぞれ一面をとらえていますよ」

ここでGAP本部役員の遠藤昭則君の金星文字解説による円盤の推進原理の研究と、小型モーターの開発について話す。しかしながら推力を与える方法までには至つていない。

「ははは、そうですか。あとはスイッチですね（しばらく無言）。根本的に

は想念の力ですね。ですから念力の非常に強い人とタイアップして研究されば早く解明できるかもしません。

たとえば模型が浮かび上がつた段階

な念をもたらし、物体にたいして想念による作用を起させます。空中に停止している実験用物体に、最初にち

いわゆる守護靈なるものが話題となる。もちろん我々は二人とも守護靈の存在を肯定する者ではないが、一見存在するよう見えるメカニズムについて春川氏は語る。

はできませんが、想念的なやり方だからできるんです。いまのところ、そこの手の超能力者をどこから引っ張つてこないとダメでしよう」

——円盤はそんなふうに想念の力を応用しているわけですか。

「ええ、スターターの段階では想念の力が非常に重要なのです（注=この件は本誌93号の連載第一回の記事を参照）。だから、いくつかのスクリーンの前で最初は想念コントロールを二、三回くり返しながら最初のスイッチが入りま

す。なぜああやつてスクリーンに自分の心をファードバックしながらこまかくやるかといいますと、そこにテクニックがあるんです。あれほど高度に発達した宇宙人でもスクリーンを用いてフィードバックしながらやるわけです。——機械的なエンジンのようないんですか。

「竜神などの姿を見るという超能力者がいるんですが、あの場合も、細い神経をつかさどっている意識の波動が投影化して見えると、長細い物に見えるんです。その錯覚ではないかと思います」

——幽靈が見えるといふのもその手ですか。

「ええ、これは明らかに波動感応です。感応して自分が映像化しているんですね。つまり自分がテレビジョンになるわけです。そこまで気づかないんです。

——見守護靈のようと思われるけれども、まるきり違うということですね。この前もある集まりに行ってみましたら、その人々はある新興宗教の信者で、靈とか竜神などの存在を信じているんです。これも本当は波動にたいして錯覚を起こしているんですね。

以前、私の友達でコンピューター技師がいて、ある旅館に泊って幽霊を見たというんです。そのとき彼は正確に分析していくまして、フスマの前に出たというんですが、最初は幽霊が完全に映像化してなくて、映像化する前にフスマの黒い色と白い色とが白黒写真のネガみたいに反転したというのです。つまり黒い部分が白くなり、白い部分が黒っぽくなつたわけです。そしてその部分の中に幽霊が白く浮き出たということです。これは心靈現象よりも何か物理的なものじゃないかと話し合つたものです。

——幽霊写真はどうですか？ よく幽霊

ギーを瞬間に発生させる人間の作用だと思います。そこで、何がきっかけとなつてエネルギーがバツと出るかといいますと、それが波動なのです。だから現象の裏側まで追求する姿勢のある超能力者は最終的に生き残りますよ。ところが非常に心靈的なものにおちいつている人は現象の面白さだけを追つていいのであって、それを追いかければ追いかけるほど混乱していくんです。そのレベルで止まつた超能力者は人格的にメチャメチャになるんで

アダムスキーキーはその真理をちゃんと

—— 亂世写真はどうです？ よく出来ますか？

が写つたりすることがあります。が——
「あれも写真のフィルムが波動的なものに敏感に感じやすいからでしようね。
心靈写真是いくつか見ましたし、私が
撮影すると、その手の写真が写ること
があるんです。白いモヤみたいなもの
がかかりして。

これもフィルムの感光剤がエネルギー
ーに感じるのだと思います。念写的原
理だと思われますね。念写の場合も、
いつたん波動に感応した能力者の想念
がそれを増幅し、別質のエネルギーに
変換してフィルムに感光させるわけ

人間の想念は変換作用を持つてい
うことです。念写も実験してみましたが、
カラーが白黒になつたり、白黒がカラ
ーになつたり、いろんな現象が起つこ
とす。

ギーを瞬間に発生させる人間の作用だと思います。そこで、何がきっかけとなつてエネルギーがパツと出るかといいますと、それが波動なのです。だから現象の裏側まで追求する姿勢のある超能力者は最終的に生き残りますよ。ところが非常に心的なものにおちいっている人は現象の面白さだけを追つているのであって、それを追いかけば追いかけるほど混乱してくるんです。そのレベルで止まつた超能力者は人格的にメチャメチャになるんですね。

アダムスキーはそこの真理をちゃんと押さえていますね。彼自身もそうした超能力的な現象を体験していたと思うんです。そして彼はその裏までつかんだわけですね。だから彼は哲学関係の書物で戦然と書いたのでしょうか――アダムスキーは相当な超能力者だったようです。テレパシー、遠隔透視、オーラ透視などの力があつたそうです。が、自分の書物では自分の能力のことあまり書いていません。私はアメリカへ何度も行って、アダムスキーの弟子だつた人たちからそのことを聞きましたがね。

続いて六月に来日したイスラエル人のアレックス・タナスというすごい超能力者の話になる。驚異的な演説をやるようだが、それほどの人でも何かの実験で自分の魂が体から脱出すると信

じているらしいが、実際はそうではないのだと春川氏は語る。ただし彼は日本若い人の自殺多発現象を二年ぐらいため若く予言していたが、それをいけとして来日したと宣言したので、ただのショーマン的超能力者ではなく、近来まれにみる立派な超能力者だと氏が説明する。

超能力ヤングが輩出する近未来

続いて編者がユリ・ゲラーを上まわるほどのすごい超能力者でイスラエルのロニー・マックスという人の話をし、から、春川氏がきわめて興味深い発言をした。

「私たちが具体的に超能力関係の動きに入つたのは一九七四年（昭和四十九年）から七年（五十二年）にかけてのことです。この世代に入った超能力者は沢山いるんです。

それで一九八八年、つまりあと二年先にもいっしきに若い超能力者が出てくるんです。いまその予備軍がかなり出てきているらしいんです。たぶん日本人で沢山出てくるでしょう」

—その人たちはこれから生まれるのではなくて、今まで自分の超能力に気づかないでいて急に気づくようになる人たですか。

「そうです。急に気づくようになる

です」

—それと似たようなケースですが、日本で救世主が出現するというような予言みたいなものがありますが、これはどうです？

「私は救世主理論というの、あるグループの作戦的な操作があると思うんです。そのグループは東南アジアに人出そうとしているんです。いろんな超能力者をあやつってノストラダムスの予言にからめてやっているわけです。

フランスにノストラダムスの研究家がいて、この人が日本に救世主が出ると予言したんです。その予言が本物かどうかは、まだ直接の交流がないもんで波動を感じできない状態ですが、日本で立たせようとしている動きもないことはないんです。

いつだつたか横浜で六歳ぐらいの女の子が狂人に刺されて死んだ事件がありました、その記事を見たときに、その女の子がものすごい超能力者だということが波動でわかつたんです。その女の子がもし生きて大きくなれば将来、偉大な超能力者として世に出たかもしれません。心靈に狂った狂人出刃包丁で一突きにされたということでした。

ですから理想的なケースは超能力を持つ少年少女が沢山出てくることです。宇宙人によれば、私はそうした人たちを見守つて、うまく歩けるようにするためのお膳立てをする任務を帯びた

人間らしいんです。とにかく超能力少

年少女たちが社会に公然と受け入れられるように仕向けることと、マスコミの体質もそのようになります。それで私も

名前を表面に出さないで、そうした超能力のある若い人たちの教育をやつてあるわけです。

幸いなことに今の若い人たちはそうした超能力的な精神的なものを非常に簡単に受け入れてくれますし、ある意味では一つのファッショナ化していくので助かります。流行が持続すると

たしかにUFO問題が今はある程度市民権を獲得しつつありますように、超能力も次第に定着しつつあると思いまますね。それからみますと多年この方面で活動してこられた久保田先生の功勞は大きいと思います。先生の活動のベースの上に私などがこうしてお話しできる状況が出てきたわけですからね。私もこれから大いに頑張るつもりです」

延々と続く春川氏の深遠なインフォメーションに圧倒されるばかりで興趣は尽きないが、連載五回にわたるこの記事により、氏の高潔な人柄とその宇宙的体験が尋常一様でないことは読者にも察知できたと思う。宇宙哲学的に言えば、この記事から（もつと具体的に）言へば、この記事から（もつと具体的に）

に言えば、ここに印刷されている文字群から）発する“波動”をキャッチして内容のレベルを感知されることだろ

う。

ここでもう一度春川氏の人物像について記したい。

まず氏の雄弁ぶりには感歎のほかない。言葉を選びながらボソボソと話すタイプではなく、豊富な語彙と相俟つて、一鶴千里、滔々と明快な言葉が流れ出る。もつと驚くのは抜群の記憶力。よくもここまで覚えていられるものだと呆れるほどに人名や地名などの固有名詞がポンポン出てくる。

スペース・ビープル（友好的な異星人）から直接聞いた話と自分の意見との区別を必ずしも明確にしないが、氏が「宇宙人から聞いた」といちいち言わないので、選ばれた人としての誇らしい態度を極力避けようとしているからだと思われる。

確かに氏はきわめて謙虚であつて、喫茶店やレストランなどの支払いを当方が持つと、毎回ひどく恐縮して丁重な謝辞を述べるが、それは決して儀礼的なものではなく、誠意のこもった態

度である。

氏はアルコールは全くやらない。したがつて氏との会食はいつもアルコール抜きの食事であるから、素面の会話となつて話の崩れがない。ただしスペース・ビープルは地球人の飲酒を必ずしも咎めないという（注＝本誌94号23

頁を参照)。要は好みと量の問題だらう。

氏が非常に思いやり深い人であることは、あるとき氏の自宅での対談中、電話がかかって「あの人はいま大変苦しいときでしようから、なんとかして助けてあげましょうよ」と応答していたときの音声で理解できた。それは心底からの同情と憐れみに満ちた声で、いまも脳裏に響いてくる。

何よりも驚嘆するのは氏のテレビシリーズの能力である。ある会員の原稿の内容について氏の意見を求めたところ、読む暇のない氏はテーブル上に置いた原稿の束に両手をあてて言つた。

「この筆者の方はすでに亡くなっていますね」
まさにそのとおりだった! 原稿から発する波動で感知するのである。これに類する氏の『実演』を何度もまわたりにした編者は、これが本物の波動感知力かと舌を巻いたものだ。

氏は心靈現象そのものを否定するのではなく、その現象をすべて死者や生者の『靈』の仕業とする心靈家の説を否定し、現象自体は波動に対する体验者の錯覚だと言うのだが、これはアダムスキーや『生命の科学』に述べてある理論と一致する。アダムスキーや心靈体験、特に靈界通信は靈媒の体内の細胞から来る印象(波動)であると説いている。現段階の科学で未解決な

問題であるためにまだ決着がつかないけれども、来世紀になれば解決の糸口が出てくるだろう。

とまれ春川氏の出現はアダムスキーワーの信憑性を大きく浮上させた。そして私たちのGAP活動にこよなき激励と力を与えてくれた。一般社会の裏面でひそかに発生している、大衆の夢想もしないような出来事を『事実』として立証し、大衆に認識させる作業は、正直に言つてわれわれには荷が重すぎるし、難問が山積しているけれども、活動を続ける価値はあると確信する。

日航機事件について

——去年十一月にアメリカのアンカレッジ付近で日航機の機長が見たという巨大なUFOはどこから来たものですか。

「そうですね、あの件は波動的によくわかりませんが、ただ考えられるのはあたりにした編者は、これが本物の波動感知力かと舌を巻いたものだ。『靈』の仕業とする心靈家の説を否定し、現象自体は波動に対する体验者の錯覚だと言うのだが、これはアダムスキーや『生命の科学』に述べてある理論と一致する。アダムスキーや心靈体験、特に靈界通信は靈媒の体内の細胞から来る印象(波動)であると去られています。某国が持つて行つた

そのあとその国の上空に光の玉が出るケースが非常に多くなったんです。ですから他の惑星から来たものか地球的なものか、いまちょっと波動的にわからんといふんです。写真があれば鮮明にわかるんですがね」

(注)ニコラ・テスラは一八五六年から一九四三年まで在世したアメリカの電気工学科学者。エディソンの研究に協力した後、多相交流による回転磁場の中で誘導電動機の原理を発見し、テスラコイルと呼ばれる変圧器も開発した。セルビアの生まれで米国に帰化

そこで編者はカバンの中から写真週刊誌エンマに掲載された寺内機長の大きな写真を出して見せた。

「ほほう、この写真を見るのは初めてです。画面も描いてありますね。これなら(波動で)わかります。これは別な太陽系から来たものですね。しかしこの機長の方もよく大胆に発表されました。航空関係者は嚴重に口止めされています。航空関係者は嚴重に口止めされているんでしようけれど。

今年はUFOの出現事件が多いと思いましたよ。なかに十年周期みたいなものがあるようです。UFOフラップ(騒動)が七七年にあつて今年の八七年にまた発生しそうです。地球人たるところが彼の死後大量の文献を持ち去られています。某国が持つて行つた

後日、日航機長が目撃したUFOに

ついでF A A (米連邦航空局)アラスカ支部はレーダーなどの分析では実体は存在しなかつたと発表した。しかし米政府機関がUFO事件に関するズサンきわまりない公表をすることはむかしから定評がある。やはり何かを隠しているのだろうか。

宇宙は有限か無限か

——スペース・ピープルは宇宙が有限なのか無限なのか、その点をどういうふうに言つておられますか。

「それはこうです。われわれ地球人のレベルから見ると、地球人に感じ得る限界があるというのです。その感度の限界の外側には(注)宇宙の外側の意味ではない) 地球人の知覚できないも

つと広いものがあるというわけです。いくつかの基本的な、生命の内在する単位があるらしいですね。感じる広さの――。それによって、もつと大きいものがあるというのです。

スペース・ピープルもそれぞれ感じる段階の範囲があるので。ただし地球人が感じている宇宙よりもスペース・ピープルの感じる宇宙のほうがはるかに大きいようですね。ですから彼らとしても、そこから先は未知なのでしょうけれども、その枠の中で計算するに大きな誤りがあります。だから彼

の基本的にはやはりかなり外側にずっと広がっているということになる

ようです」

——そうすると無限ですか。
「うーん、そこはむずかしいところですね」と春川氏は笑う。

——宇宙がもし無限であって、果てがないということになれば、三次元空間の概念が成り立たなくなつて、空間とはいつた何かといふことになります。

あるいは宇宙の遠い果てに巨大なコンクリートの壁のようなものがあつて、それが球状をなして包んでいるとすれば、その外側にまた別な球状の宇宙があり、そんな宇宙がハチの巣状につながつてゐるとしても、やはり無限といふことになりますが、すばり有限か無限かについてスペース・ビーブルはどうに言つておられますか。

「私もそれと同じような質問を出したことがあります。そうすると宇宙人は

宇宙は膨張しているという説がありますが

「基本的には膨張と収縮を繰り返しています。つまり呼吸をしているという感じですね」

母船内のスクリーンで見せられたことがあります。壁といいますか、光る綿を集めたような弾力性のある壁があります

まして、そこにいくつかの小さな光る球がバーンバーンとぶつつかつては、はね返る光景でした。そのうち、光の球のいくつかがそれをぶち抜いて外側へ出て行くんです。

「これは最近のあれですが、何かの物体が動いていても、実は物体の中自体に一種の波があるんだそうです。その波というのは現在の地球物理学的に検知できる波以外に、動いているハウリングがあるらしいですね。そのハウリングの中にもいくつか波長があつて、その法則をもつと深く追求してゆくと磁気的なものがわかつてくるらしいんです。その関係が、そこから生み出します。意識の部分で感じる波動ですね。

ですから宇宙自体もその波動の法則からはずれていません。何もない

でいて、それぞれレベルが違うようです。

ですからたとえば遠く離れた銀河系にいる人間が他の銀河系へ行く場合は、それなりの肉体的な変調が必要になるようです。そこらへんのいろんな形での、いわば生命宇宙ともいべきものの範疇が個々にきまつていて、そのようなカプセルが沢山集められた大きなプロシキみたいなものがあつて——と

です

——宇宙は膨張しているという説がありますが

「これはどうなつてゐるかということも、その答は人間の内部にあるはずです。それを感じる機関もちゃんとあるはずです。それがわかると自分の範囲も広くなるでしょう。宇宙には壁みたいなものがあるのを

キャンバスがあつて、そこに波線を描くように波動があるというかたちではありません。同じ型の連続体です」

——そうすると、たとえば私たちがわれなんです。人間自身もそのあらわれであります。宇宙そのものであり、宇宙とは私でありますと言えますね。

「それは言えますね。ですから、それが意識レベルで主観的にとらえるといいますか、テレパシックにとらえることができるはずなんです。

ですから宇宙の果てがどうなつてゐるかということも、その答は人間の内部にあるはずです。それを感じる機関もちゃんとあるはずです。それがわかると自分の範囲も広くなるでしょう。宇宙には壁みたいなものがあるのを

ものでしようね。

「ええ、そうだと思います。現実的な形のものではないと思いますね。非常に面白い象徴です。

いろいろ面白い象徴があります。たとえば円盤の飛行原理ですが、あれを考えていたときに、やはり母船のスクリーンの中に、谷間みたいな所があつて、その谷間に円盤が降りながら降りてくるんです。そういう所では皿までのビジョンを見たんですね。ところが円盤はそこへクルクルッと回りながら降りてくるんです。そういう所では皿まで

わしのような施回を何度も繰り返しながら降りるんですが、それ自体に磁気的な意味があるんです。そういう盆地的な所に降りるのにクルクルと回るんです。学者がその光景を見れば意味がわかるかもしれません」

——時間についてはどうですか？ 時間といふものは存在するのかしないのか、または時間の永遠性については？

「そうですね、時間といふものは相対的なものだと宇宙人は言つていました。

要するに私たちは空間を把握するのに縦、横、高さという考え方の軸があって、それにもう一つ意識という軸があります。この軸が変調されると時間の軸が変わつてくるというふうな構造でもあるんです。ですから広がつてゆく部分が収縮したり大きくなつたりを繰り返して、感じる外側に広がつてゆく部分が収縮したり範囲内の宇宙空間の呼吸の数がきまつ

面白い光景でした」

——それは何かを象徴的にあらわした

時間自体にも一つのエネルギーがあ

つて、そのエネルギーの調節バルブみたいなものも意識の中にあるらしいんです。そうすると、地球では同じ波動をずっと保っていますから、意識レベルでも、ここだけは変わらないという部分をお互いに持っているわけです。そして同質結集の法則によって、その枠の中では時間のとらえ方は大体にこなれぐらいだという地球時間が生じています。

ところが他の惑星へ行つて、多少ともその枠が広がれば、時間のコントロール範囲といいますか、時間のエネルギーの圧力が希薄になるんです。そうすると時間にたいする観念がもつと自由になります。

ですから、われわれ地球人は時間の進行を一日二十四時間ということで絶対的な節目を持つていて、この感じ方の収縮はもつと激しくなるんです。われわれは楽しいときに時間を短く感じ、マイナスの感情を起こしたときに時間を長く感じますが、それ自体はかなり物理的なものらしいんです。そういう意味では時間といつのは一つのエネルギーなのでしょうね。そのような観念は宇宙人からよく教えられましたね。

母船内のスクリーンで見せられたいつかのパターンサンプルのなかで、植物が種子から成長して枯れるまでの光景がありました。それはバイオファイードバック的なのですが、見ることちら

が非常に不安定な感情になつてくると、その植物の盛衰が激しく見えるんです。

パーツと早く枯れるんです。時間が非常に長かつたり、実が大きくなるビジョンになつたり、それぞれ違う

うんです。私は一時間ばかり自分の時間の感じ方をそのスクリーンの前で試してみましたが、いろいろ自分の思い出を浮かべてみて、その思い出なりのいろいろな感情をサンプルとして出してみたんです。するとその植物の育ち方が微妙に変わるんです。実の色が変わつたり、芽が出たらすぐ枯れるとか。フィルムの早まわしみたいな状態です。

これは感情の出し方、または想念運動の出し方によつて時間自体が変化するわけです。しかも他の生命、たとえば私たち地球では人間以外に別な生命があるわけですが、その生命の時間にも人間の意識が影響を与えるというこの象徴だと思います。

そういう感じ方をしたら次のカリキュラムにパッと移してくれます。次へ移れたということは正解を出したからで、正解が出なければ同じことばかりやらされるか、またはスクリーンが中断した状態になつて終わりになります。

だから時間の感じ方はやはり相対的なものだと思いますね」

意識の法則が最重要

——いまアメリカのニューサイエンスは良い方向に行つているんでしよう

ね。

「ええ、そう思います。統一場理論にせまろうとしていろんな角度から斬り込みを始めていますし、結構直感的な発想も出ていますね。いままでは物理学の人たちだけが時間の問題を取り組むという状態でしたが、いまは生物学やいろんな分野から研究者が出ていました。最終的には心理学もからまらないと具合が悪いでしょうね。

ですから観察されるものは人間の四つの感覚器官という表面的なものだけでとらえようとしていますからね。それを基準にしてとらえようとするうちはどうもダメだと思いますね。

だから意識に関する法則性をみつけないと基本的にはむつかしいでしょう。すべての分野は精神研究によつて閉ざされた封印が解かれると思うんです。ヨハネの黙示録にある七つの封印を解くというのは、そういうような意味もあるんじゃないかと思いますね」

——地球の自転軸も意識の変化によつて変わるといわれていますね。

「ええ、自転軸は人間の意識のパラメータみたいなものですからね。あの自転軸がよろめくということは意識自体にどういうエネルギーが加わるか、

人間からどんな想が出されるかによつて物理的に変わつてくるんです。

だから地軸がよろめくから人間が危いんじゃないなくて、人間がよろめくから地軸が危くなるわけです」

春川氏は結局アダムスキーフ哲学と同じ性質の宇宙的な思想を開拓してきたのである。氏は十数回にわたつて編者と会見し、食事を共にしながら、毎回長時間にわたりコントакトの体験、世界の裏面にひそむ事実等の秘話を語つた。その談話のすべてはテープに録音してあり、ぼう大な量に達している。本誌に公開した記事はほんの一端にすぎないが、五回にわたつて連載した世にも稀な体験記は一応これで打ち切ることにする。

読者は大体に別な惑星、特に金星の偉大な文明とそこに住む偉大な発達をとげた人々、宇宙船などの実態が把握できたと思う。この記事こそはアダムスキーフの体験の傍証として世界で比類なきものと確信する。春川氏に衷心より感謝する次第である。

この記事はいずれ一本にまとめて補筆の上、単行本として他の出版社から刊行する予定である。時期は未定なるも今年中には実現すると思われる。その場合は本誌に広告を掲載するのであらためてお読みいただきたい（編者）。

投稿欄 U-CON広場

A氏の著書を精読しよう

仙台 塚原弘可

信念をもってGAP活動を

鹿取県 上田幸男

重ねてのお心配りの電話をいただき恐縮し、また心から御礼を申し上げる次第です。

私自身、今回の事、更に会社の民営化等を通して感じていますことは、要は徹底的に自分が変化しなければ駄目だということです。身边に起るあらゆる状況は自分が割り出し、また引き寄せていくことですから、誰の責任でもありません。幸い長年先生のもとで宇宙哲学を学ばせていただいているお蔭で、最終の状態になることはないのですが、今後は宇宙的な飛躍をしなければ今生の目的が達成できません。

最近痛感しますのは、アダムスキーリーの著書を充分に読まない会員はやはり中途で挫折したり別な方向へ行ってしまうということです。本当に宇宙的活動をやろうという人は、ア氏の著書への強い関心が永続するはずです。今後の仙台支部運営の根幹として、これから集う方へは「ア氏の著書の精読」「久保田先生の解説取」をするつもりです。

今回も色々と御指導にあずかり勉強させていただきました。益々GAP活動に力を入れていく所存です。でよろしくお願い致します。GAPの発展をお祈り申し上げます。

（筆者は仙台支部代表）

決意を新たにしています。

さてそのGAP活動についてですが、先生もご存知のように仲間がないことあります。しかし何とかして仲間を集めようと思い、先日送つて頂いたU-CONのバックナンバーを新聞紙上で呼びかけて無料で頸る

動きはできていません。しかし何とかして仲間を集めようと思い、先日送つて頂いたU-CONのバックナンバーを新聞紙上で呼びかけて無料で頸る

ということをしています。今までに二回いましたが、連絡がきたは各回一人ずつで、しかもこちらから紹介された「ボストンクラブ」という本を読んでみましたが、やはり素晴らしい本でした。

実は松山支部大会が終わって何日かたった四月のある日、だんだんと衝動が高まってきました。春川正一氏がA氏であることがわかりました。そして氏がボストンクラブの代表であることを知り、書店に頼んで「ボストンクラブ」を手に入れたのです。

記事はA氏で始まって久保田先生で終わるという構成で、「何か意味がありそうだな」という気もしましたが、他の記事も心靈的・神秘的なものは全くなく素晴らしいの一首でした。「数年後にU-CONと超能力の本格的ブームが起こる」とU-CONの中に載っていましたが、その根据がわかつたような気がします。

ボストンクラブはまだスタッフが少ないということですが、その中で潜在意識について記事を書かれた角慎作氏という方は岡山県の美作（みまさか）の出身ということで（美作高校にU-CON'93、'94、'95号を寄贈しました）。いずれはU-CONを毎回、そしてアダムスキーリー全集なども寄贈しておられるのではなく、意外な一面も持つていらっしゃるのに安心しました。

最近も妹に頼んで妹の通っている高校にU-CON'93、'94、'95号を寄贈しました。昨日は勝ちとることができます」を思い出すようにしています。

最近も妹に頼んで妹の通っている高校にU-CON'93、'94、'95号を寄贈しました。私が大きなことをやつてやろうと

でもらいたいと思っています。

そこで一つ先生に質問させて頂きたいのですが、これらの教育機関にいることで、それがどういった質問かもしれません。どうか良いアドバイスをお願い致します。

またこれはお願いなのですが、これから試験活動を続けていく過程にお送りした後に一度お礼の手紙を頂いただけで、その後何の連絡もありません。おそらくアダムスキーリー哲學を理解できなかつたのでしょう。やはり山陰地方は昔からの古い習慣があり、山陰地方は昔からの古い習慣があり、山陰地方は昔からの古い習慣があり、山陰地方は昔からの古い習慣があります。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

GAP賛歌

福岡市 田中信代

松山支部大会では素晴らしい講演をありがとうございました。テレビと違ってやはり先生の姿を前にしてナマの声を聞くのは迫力があって、もちろん気落ちしそうになることもあります。そのため私は「宇宙からの訪問者」の中のファーコンの言葉、「私は失望なるものを知りません。ずっと昔、私は信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力などを学びました。昨日失われたゴールを明日は勝ちとることができます」を思い出すようにしています。

最近も妹に頼んで妹の通っている高校にU-CON'93、'94、'95号を寄贈しました。やはりU-CONを毎回、そしてアダムスキーリー全集なども寄贈しておられるのではなく、意外な一面も持つていらっしゃるのに安心しました。

嬉しい思いしました。豪快で包容力があつてユーモアも解するお人柄はとても魅力的です。GAPに入って本当によかったです。伊藤さんをはじめ、松山支部の方々のお心尽くしにも感激しました。

九州の人間は何というか気性が荒

す。だからこそ表面的な言動はまだわざれず、その人の本当に良い所を見るようにしなくてはならないんですね。

月例会のこといろいろ書つてしましましたが、一つにはGAPの何だか溶け込めないような気がしているのですが、松山支部大会に参加たものですが、松山支部大会に参加して、いろんな人がいるんだな、その人をありのままに受け入れてあげればいいんだなと悟りました。そして自分から明るく楽しい雰囲気を作つていくように努力すべきだと決心しました。

私もどちらかと云うと周囲の雰囲気に影響されやすいので、もととパワフルになって何事もどんどんアラスの方に変えるマジックを持ちたいと思います。いろんな意味で松山支部大会はやりの多いものでした。本当にありがとうございます。今年はゼン行きたいと思いませんが、来年はゼン行きたいと思いません。それまでに英会話の方もまた勉強し直そうと思っています。これからも益々がんばって下さい。

知りせる運動の一端を果たす

福井県立 畠我部くみ子

先日開催されました静岡支部大会に参加させて頂き、有意義な連休を過ごすことが出来ました事をとても感謝しています。全てに宇宙的な運動というものの面白を感じる事が出来ました。

私は市内観光は初めての体験だったのですが、私は住んでいた惑星地球を少しでも理解するいい機会な

のだと認識する事も出来ました。私なりにいろんな意見のある大会とな

りました。

41

久保田先生をはじめ静岡支部代表の野口さん、高梨さんの御講演に感動しました。頭で理解するのではなくて意識が理解しているという感じでした。とても楽しかった支部大会が無事に終わり、最後は静岡駅の改札口で会員の方々が笑顔で手を振つて見送つて下さった光景がとても印象に残りました。初めてお会いする方々のことにとても親しみを覚え、全身が嬉しさでいっぱいになりました。

帰りの列車の中ではしばらくボーッと余韻にひたっていました。

波動がいい時はいいもので、列車の中で前の席に居合わせた方がとても温厚な方でした。最初はたわいもない世間話をしていたのですが、話が進むにつれてその方がクリスチャーン（シスター）であることが次第にわかつてきました。するとその方が

突然UFOに関する話をされたのです。上京なさる時の列車の中で超能力とかUFOとかを研究なさっている方と席が一緒になつたそうです。

そのような事から御自身もUFOは娘さんの時分に（現在五十二歳くらいの方）目撃された事があるという話をされました。コースの練習

の帰り道で、まわり一帯は田んぼだらけの人家のない、まっさらな所だったので、怖くなつて走つて逃げ帰つたということでした。その当

時はUFOとかいう認識はなかったようですが、後になつていろんな情報から、自分が見たものはUFOだったのだと確信したという話でした。そのような事なので、とてもおさへて話すやうな方でした。翌書の中にUFOの事が述べてありますねと

書つておられました。

私は嬉しくなつて手許のUコン97

号を早速お見せしました。ところど

ころ熱心に読んでおられました。別れざわに「とても興味深い話、楽し

かかったです」とおっしゃつて下さいました。私なりに「知らせる運動」の第一歩であつたように思いました。

静岡支部大会での野口さんの御講演の「連鎖反応」の事が印象にありましたので、私のようなものでも人に影響を与えることが出来たのだと嬉しい限り致します。

私はまるで別人のようでした。非常に緩慢ではありますが、私なりに成長しているのだと確信しました。これからもよろしく御指導のほどをお

うござります。

雨とは打つて変わつてお天気にも恵まれ、自然の雄大さと美しさを満喫して頂けたことと存じます。八甲田山、十和田湖はエネルギーの集中点として、UFO目撲の声を期待していたのですが、そちらの方は今一つ盛り上がりに欠けたようで少しお残念でした。

ただ函館の坂野さんから十和田湖遊観船上で黒い物体を目撲されたとのお話をうかがいました。ただしUFOか鳥か確認できなかつたそうで

す。私自身も八甲田山をバックに記念撮影をした湯の台で、八甲田山と反対方向にどんよりと灰褐色に垂れこめた雲の中に、ひとときわ白く光る小さな雲を見えて、何かしら不思議な気がしました。そこから奥入瀬（おいらせ）渓流に向かう途中、やはり太陽の左側に気になる小さな雲があり、これは夕日に照られたような色でした。また十和田湖から空港へ向かって山を下つている時にも、車の中から太陽の左側に向じて夕焼けのような小さな雲を見かけました。気象学に詳しくないので、ごく普通にありうる現象なのかもしれません、手持ちの本ではよくわからず、いまだにあの雲が気になつております。

この大会では本当に多くのことを学ばせて頂きました。久保田先生、出席して下さいました方々、また合同支部大会をこころよく引き受けた下さり、積極的に大会の運営にあたられました秋田支部の皆様、青森支部の方々に心よりお礼を申し上げます。また全国各地の会員の皆様から

激励の意念を送つて頂き、支當に有難く存じます。これからもどうぞよろしく御指導頂きますようお願い申

UFOと超能力のUFO誕生

千葉県 横木淳一

日本最大のパソコン通信（PC-VAN・NEC・約四万人）にUFOのコーナーを開設。GAP活動にぜひご利用ください。詳細は横木淳一（0474-177-0100）まで。

テレホンサービスを開始

横木県 遠近克明



熱心な会員



三本を放送します。

原稿は私が書き、それを横木支部会員の稻見雅子と高村由美子がナレーターとして朗読したテープが流れれるという趣向です。聴く人は一般大衆で、特に若い男女が多いと思われますから、アダムスキー問題だけでなく、UFOの入門的な事柄も広く加えて関心をそそるように工夫しました。十日ごとに変わる題名は次のとおりです。

- (1) UFOとは何か
- (2) 古典に見るUFO飛来
- (3) 古代遺跡と宇宙人の謎
- (4) UFOはどこから飛ぶ（お買へ続く）

第9回 静岡支部大会

●昭和六十一年五月四日（祝）

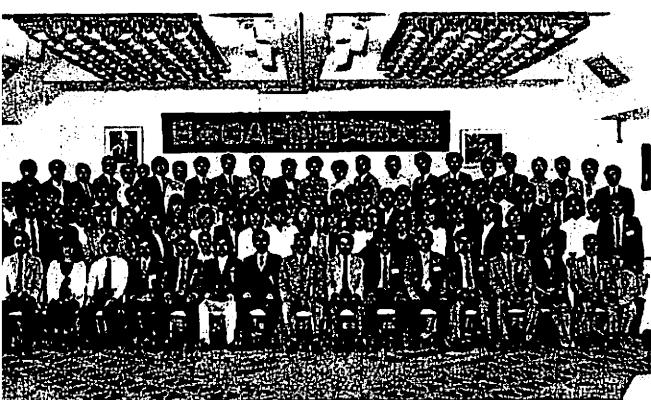
●静岡市 静岡ステーションホテル

●出席者 百名

支部設立十周年、支部報発行百号記念として開催された今年の支部大会は、北海道や九州と全国から熱心な会員の皆様が多数参加された。大会は船氏の司会で始まり、会員の体験講演として高梨和明氏は「ミラクルワード・ミラクルイメージ・宇宙の意識」、野口敏治は「実践アダムスキーフilosophy」、そしてメインの久保田会長の講演は「宇宙的人間になるにはどうしたらよいか」と三者三様の持ち味を出しての大変聞きたかったある講演内容であった。

夕食会では皆さんと、おおいに親睦を深め合い、今年は十周年を記念して中嶋順子さん作詞作曲による支部のテーマソング「コズミック・ファーリング」の発表があった。

翌日は六十名が大型観光バスに乗り込み、静岡市内観光に出掛けた。ホテルを出発してまもなく、バスの進行方向方に左から右に移動する白銀色に輝くUFOが出現。このUFOはバスの右側にも移動し、多くの人々が目撃した。最初の見学場所の浅間神社でもバスの中でも見たものと同じ型のUFOが神殿の左側から右に光りながら移動していくのを多くの方々が目撃した。



第1回 秋田合同支部大会

●昭和六十一年六月二十一日（日）

●青森市 青森県観光物産館（アスパム）

●出席者 一十三名

今年の大会は新しい静岡支部の出発の日でもあった。「今までと同じ事をしていたのでは進歩はない。大変化する時が来た。各個人も一大変化をさせるのは今だ！」と強力な印象を感じた大会で、大変意義深い大会となつた。お世話になつた久保田会長を始めご出席いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。（野口敏治）

会場のアスパムはむつ湾を一望のもとに見渡せる、目の前を青函連絡船が出入港する大三角形のビル。この六階会議室で大会が行われた。朝方は小雨の降る天気だったが、五年ぶりに来訪された久保田先生の熱氣溢れる大講演の頃にはすっかり天気も回復し、美しい山々が展望されるようになつた。

講演は「驚異的なアダムスキーフilosophy」と題して行われた。日本GAPの活動

は世界的にみても素晴らしい事であり、われわれはレッスンを通して自分自身の内部に無限の英知と能力が満ちているのだというフィーリングを常に持ち、「自分は大宇宙なのだ」との自覚を得ることによって、人間の持つている恐怖心をなくして大安心の境地をきづくためには荒行をも辞せずといふほどの気持を持つようにしなければならない。ただ漠然と普通の人々と同じような生活をくり返していてもだめだ、とのお話を全員が目の覚める思いで聞きいつていた。

記念写真の後、質疑応答で種々の質問があり、それを通じて明快な御指導を頂き大会を終了。夕食会には久しぶりの出会いに話がはずみ、なごやかに

談笑しながら楽しいひとときを過ごし、知り合った喜びを高めた。

翌二十二日はだれもが一度は行きたがっていると思われる国立公園十和田湖へ行つた。この日も初めは曇つていながら奥入瀬渓流を過ぎて十和田湖に着いたら空も水も青く澄み、遊覧船より新緑の山々を眺め、大空に目をむけてUFOの出現を期待したが目撃できず、これも何かの深い意味があるのかと思いつつ大変楽しい一日をすごした。

今回は隣の秋田支部と合同大会を初めて行い、同志が協力し合うことの素晴らしさを感じた。今後は会場を両県交互に移して行いたい。久保田先生と会員諸氏に感謝します。（鈴木武男）



アダムスキーア全集 読者感想発表会

主催 沖縄支部

●昭和六十二年六月七日(日)

●那覇市 中央公民館

●出席者 十八名

至上の宝書よ 偉大な方々の志よ
万人の手にゆき渡れ 万人の心をと
らえよ 万人に生命の歡喜を 万人
人に樂園を。

本土を遠く離れたこの沖縄の地でア
ダムスキーア全集がかなり読まれている
実状にかんがみて、このたび標記のよ
うな会合の開催に踏みきつた(編注)――

沖縄におけるア全集の普及は新里代表
の貢献による。

七日は快晴。午後一時すぎよりスター
ト。司会者挨拶に続いて参加者全員
の感想発表があり、その後久保田先生
の二時間に及ぶ大講演がスライド映写
と共に行われた。UFO問題が地球全
体に及ぼす意味やアダムスキーア全集の
「命の科学」に関する解説が行われ、
重要な話を全員が真剣に静聴した。隣



（久保田八郎）

の事務所の職員の方々も仕事をしてい
るふりをして実は先生の講演に聴き耳
を立てていたようだ。これを含めれば
参加者は二十四名になる。そのあと二

十分間の質疑応答が続いて五時に閉会
となつた。

これで沖縄支部もにぎやかになるだ
ろう。最近は女性会員の増加が目立つ。
バランスの法則からすれば男性メンバ
ーをふやすための方法を真剣に考えね
ばならない。ただしGAP月例会の本
筋にそつた動機をもつ人だけだ。

久保田先生、お疲れさまでした。そ
して今回の先生の来沖のきっかけを作
つて下さったXさん、有難うございま
した。公民館の職員の皆様、祝電を下
さった本部役員の方々、そして今回の
催しをひそかに援助して下さったであ
るうスペース・ピープルの皆様、有難
うございました。

（新里義雄）

編者付記

訪沖は今回で三度目だが沖縄支部が
すっかり定着して趣味のサークルの域
を超えた熱意ある集団に生長したこと
は喜ばしい。本土を遠く離れた地域差
をもち、心靈的な伝統
の残る風土のなかでG
AP活動を推進するの
は容易ではないようだ
が、支部代表・新里氏
その他の有力会員のご
奉仕により、この種の民
家はもと米軍将校の家族が住んだ住宅

ことは特筆にあたいする。健闘を称え
たい。

例によつて人数の多寡は全く問題に
せず、渾身の力をふりしぼつて二時間
の講演を行つた。

（南国せい）

か、いつたに沖縄の人
は悠然茫然たる感があり、反応が鮮明
に返つてこないけれども、あとで新里
氏に聞くと、みな感動しているようだ
が表情をあらわさないのだという。と
きたま来るよそ者には実態不明なるも
沖縄の人が遠慮しがちであることは確
かだ。

大会終了後は東京の銀座通りに相当
する國際通りのアメリカンレストラン
で夕食会が開催され、九名が参集。こ
こで楽しく飲談した。そのあとパピリ
オンというクラブで二次会を開き、ク
ラシックギターの生演奏をバックに十
二時すぎまで愉快に談笑。

翌八日は新里さん運転の車に石野君
と私が同乗。まず浦添市の嘉数の高台
にある「白い砂の家」へ行く。ここは
無人喫茶店として名高く、コーヒーそ
の他の飲食をした客は店内の箱へ適当
な料金を入れればよいといふ。本土か
ら來た観光客がデータラメをやるのは
ないかと案じて聞いてみたら、そうで
もないということだつた。

この家の造りはどうみても日本人の
手によるものではない。すべてがアメ
リカ風だ。尋ねると、このあたりの民
家はもと米軍将校の家族が住んだ住宅

で、払い下げられたといふ。そういうえ
ば沖縄は米軍の影響下にあるせいか高
度に文化的な面が目につく。

沖縄戦の激戦地だった嘉数高台公園
から浦添市を展望。民家はすべて鉄筋
コンクリートで、白亜やクリーム色の
壁が並んで外国の風景を見るようだ。

五年前も驚いたが、今や沖縄に木造家
屋は存在しない。住宅はすべて水洗ト
イレ付きの豪勢な鉄筋コンクリートで
ある。これは台風に対する防衛対策だ
といふ。日本で住宅が高度に発達して
いる地方は沖縄と北海道だろう。

午後は北中城村宇大城の重要文化財、
中村家を見学。戦火をまぬがれた二百
年前の旧家が残っている。

中城城跡へ寄る。五百三十年前に中
部の豪族・読谷山按司譲佐丸が築いた
優美な石工技術を示すこの城で、勝連
城主・阿麻和利の謀略により譲佐丸一
族は自害して果てた。本丸、二の丸、
三の丸の敷地は広大で芝生が美しい。

夜はエグソティックな沖縄民謡を鑑
賞。これは世界の民俗音楽でメキシコ
民謡について私が愛好する音楽である。

数カ国に支配され権謀のドラマが渦
巻いた非運の沖縄は太平洋戦争末期の
地獄を経て新生した。あしきカルマは
解消し、南海の楽園と化したこの島が
永久にエデンの園であることを願うと
ともに、ご招待下さった沖縄支部の方
々に深謝する次第である。

（久保田八郎）

集まって宇宙的フィーリングを拡大しよう!

〈予告〉62年度地方支部大会(その3)

第5回 福岡支部大会	第8回 山形・仙台合同支部大会	第2回 長野支部大会
10月4日(日) 午後1:00→5:00	11月1日(日) 午後1:00→5:00	11月22日(日) 午後1:00→5:00
「チサンホテル博多」2Fホール ☎092-411-3211 福岡市博多区博多駅前2-8-11 博多駅より博多口(北)へ出て正面、徒歩約6分。	「滝の湯ホテル」2F端鶴の間 ☎0236-54-2211 山形県天童市山元1441 ●山形空港より車で15分 ●奥羽本線天童駅下車(特急にて山形駅の次)、天童駅より車で2分。 ●天童駅より山交バスで温泉西バス停下車。	「長野ステーションホテル」2F ☎0262-26-1295 長野市末広町1359 長野駅より駅前からアーチになっている善光寺表参道の通りを行き、駅から徒歩1~2分の所。右側。
￥2000(希望者のみ全員記念写真代￥800を別納。グランドキャビネ判。送料共)	左に同じ。	左に同じ。
司会 吉岡寛人 1:00 支部代表挨拶 喜多正宜 1:10 講演「アダムスキーの真実性と彼の哲学」(スライド使用) 日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 全員記念撮影・休憩 3:00 全員自己紹介、意見発表、質疑応答 5:00 閉会 ※日本UFO研究界の大先駆者で国際的に活動を続けておられる久保田先生を囲んで徹底した話し合いの会にしたいと思います。豪快親切な九州男児が歓迎しますので多数ご参加下さい。	司会 柴田文子 1:00 支部代表挨拶 柴田光明 笠原弘可 1:15 講演「世界のUFO問題の意義」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 全員記念撮影・休憩 3:00 全員自己紹介、意見発表、質疑応答 5:00 閉会 ※今回は山形・仙台両支部設立満10年を記念して山形県の名高いリゾート天童温泉で開催することにしました。豪華な大酒店の会場で天童の湯の香りと久保田先生の雄弁を潤沢にして下さい。人情味豊かな東北一人同心からお待ちしています。	司会 中村公一 1:00 支部代表挨拶 博田文喜 会員による体験講演(氏名未定) 1:05 休憩 1:50 講演「アダムスキーとUFO問題の重要性について」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:00 全員記念撮影・休憩 3:00 全員自己紹介、意見発表、質疑応答 4:00 閉会 ※昨年の松本市における第1回大会に続き、今回は長野市に会場を変えて気分一新を図ります。有名な善光寺のひざもとで先生の雄大な宇宙問題のお話を聞くのも忘れ得ぬ思い出になるでしょう。気軽においで下さい。
大会終了後6:00より希望者による夕食会と同じホテルの別室で開催します。 会費￥5000	大会終了後6:00より希望者による夕食会と同じホテルの隣の間「祥鶴」で開催します。 会費￥5000	大会終了後6:00より同じホテルの同会場にて希望者による夕食会を開催します。 会費￥4500
「チサンホテル博多」(大会会場と同じホテル)をお世話します。 シングル ￥5500(税サ込) ツイン ￥9900()	「紀の川ホテル」をお世話します。 シングル ￥4200(税サ込) 2室予約済 ツイン ￥8000() 2室 ※このホテルは大会会場のすぐ裏手。	「長野ステーションホテル」(大会会場と同じホテル)をお世話します。 シングル ￥5500(税サ込) 20室予約済 ツイン ￥8800() 5室
大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキにいざれかを記して10月3日までに下記へお申込下さい(電話でも可)。 〒814福岡市城南区金山団地40-204 喜多正宜 ☎092-863-5438	大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキにいざれかを記して10月末までに下記へお申込下さい(電話でも可)。 〒999-51山形県新庄市大字萩野82 柴田光明 ☎0233-25-3261	大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキにいざれかを記して11月20日までに下記へお申込下さい(電話でも可)。 〒399-07長野県塩尻市広丘吉田948-4 博田文喜 ☎0263-58-8510
大会翌日は希望者で福岡市内観光を行います。朝10:00ホテルを出発。貸切りバスで博多湾に浮かぶ市民憩いの島「能古島」へ渡り、秋の博多湾情緒を楽しむ予定です。午後4:00博多駅前で解散。 参加費￥3000(昼食代共)	大会翌日は希望者で舞鶴山公園、天童高原、寒河江(さがえ)ダム等を観光の予定です。 参加費￥3000(昼食代共)	大会翌日は希望者で名所旧跡を見学の予定です。朝9:00ホテルを出発、市内を周遊しながら善光寺を見学。昼食後、小布施町の北斎館を見学後リンゴ狩りを予定。長野駅で4:00頃解散。 参加費￥3000(昼食代共)
10月の月例会は大会のため中止。	山形支部のみ11月の月例会は大会のため中止。 仙台支部は平常通り開催。	11月の月例会は大会のため中止。

(4) 買りこんで来るのか

(5) 月は宇宙人の中継基地か。

(6) 国連・イギリス上院議会UFO委員会

(7) CIAはUFOを認めている

(8) UFO墜落事件

(9) 宇宙人遭遇事件

(10) アダムスキー特集 I

II

(11) ヨーロッパ

III

IV

う。

ヨーロッパ・アダムスキーは一八九一年ボーランドに生まれ米国へ移住した、哲学者でありアマチュア天文家でもありました。彼は、大宇宙と人間との不離一体の関係を研究し、長年宇宙哲学を教える教師として生

星雨銀河の際巨大な葉巻型UFOを目撲し、翌年二百機ほどのUFOの出現を見た時には、地球外知的生命の乗り物であると確信を持つようになります。UFOに大いに関心を持ったアダムスキーは、軍の依頼もあって一九四八年から五二年までの間に五年間、六インチの反射望遠鏡

でUFOの写真撮影に努力しました

(以下略)

以上のような説明が音楽をバックに美しい女性の声で流されます。会員の皆様もぜひお聴き下さい。お聞き下さった感想をGAP本部宛にお送り下されば幸いです。

〈筆者は橋本支部代表〉

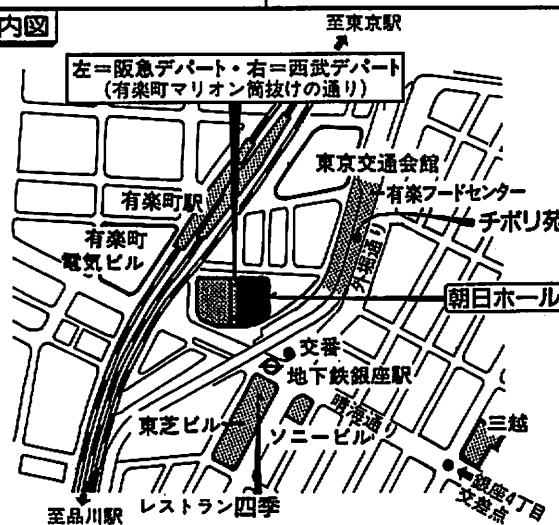
ダニエル・ロス氏招待大講演

62年度 日本GAP総会

本年度の総会は本号より連載を開始した「UFO-宇宙からの完全な証拠」の著者ダニエル・ロス氏を日本へ招待して講演会を開催することになりました。氏はアメリカにおけるアダムスキーパー派の驍将としてUFO問題の啓蒙運動に専念し、高度な科学知識を駆使してアダムスキーパーの体験の眞実性を立証しています。日本GAPに対する強力な支持者であるロス氏の本邦初講演をぜひお聴き下さい。役員一同心からお待ちしております。

日本GAP東京本部役員代表 篠 芳 史

総会 大夕食会 東京都内観光

9月20日（日）午後1:00～5:00	9月20日（日）午後6:00～8:30	9月21日（月）午前9:00～午後5:00
「有楽町朝日ホール」 （朝日新聞系） 東京都千代田区有楽町2-5-1、西武デパート11階。 ☎(03) 284-0131 JR有楽町駅の銀座側下車。駅を背にして右方へ歩き、果物屋の前の小路を通り抜けると西武デパートと阪急デパートの間の通称「マリオン」と呼ばれる簡抜けの広い通路がある。その通路の左側の西武デパート入口横にエレベーターがあるので、そこから11階へ昇り、降りた右側に大ホールロビーの入口がある。有楽町駅より徒歩3分。	中央区有楽町数寄屋（すきや）橋交差点角の東芝ビル7階（1階は昔からある阪急デパート） レストラン「四季」 ☎(03) 575-3311 有楽町数寄屋橋交差点角まで行き、ソニービルの向かい側の東芝ビルの右手にまわるとエレベーターがあるので7階へ昇る。降りてから右手の低い階段を上がる。夕食会は立食形式。	団体用大型貸切バスで「東京ホテル浦島を9:00に出発。定員45名。 午後5:00。 南天丸駅。 *列車、飛行機等の都合により早目に引き上げる方には便宜を図りますから、出発前に田中氏宛お申し出下さい。
¥3800 （会場受付でご納入下さい。大夕食会の予約をされた方はその代金も併せてご納入下さい） 全員記念写真希望者は¥1200（送料料）を追加ご納入下さい。六ツ切カラー。	¥6500 （総会会場受付でご納入下さい）	¥2700 （当日バスの中で田中氏が集金します）昼食代別。
1:00 司会者挨拶 篠 芳 史 1:05 挨拶と講演「アダムスキーパーとUFO問題」 日本GAP会長・久保田八郎（スライド使用） 2:00 休憩 2:10 講演「宇宙開拓で立証されたアダムスキーパーの主張」 ダニエル・ロス 通訳 脳（みかづき）民典 3:40 休憩 4:00 質疑応答 ダニエル・ロス 通訳 ミチ・スガワラ （最後に花束贈呈・全員記念写真撮影） 5:00 閉会 *講演中の写真撮影（ストロボ共）とテープ録音は可なるも講演の著作権は日本GAPが所有。	6:00 司会者挨拶 篠 芳 史 6:05 会長挨拶 久保田八郎 6:10 乾杯音頭 野口 敏治 祝宴。余興。 8:30 閉会 *夕食会終了後、有楽第一ドセンター西館地下の「チボリ苑」にて11:00まで2次会開催予定。希望者は夕食会終了後、東芝ビル1階エレベーター前のロビーに集合。（注意=昨年の2次会会場とは違い、銀座側フードセンターの「チボリ苑」 ☎564-0904）	9:00 ホテルをバスで出発後→東京駅八重洲口→皇居前広場二重橋→銀座4丁目→東京タワー→原宿ファッション街→新宿超高層ビル→浅草→東京駅→ホテル浦島 *この都内観光は重要な場所を重点的に見学し、その都度バスを降りてしばらく自由行動にするのが特長です。時間の都合で上記のコースを変更することもあります。 昼食代は¥1000程度。
9月20日夜の大夕食会、21日の都内観光、宿泊希望者は下記の要領でお申込下さい。	案内図	至東京駅 左=阪急デパート・右=西武デパート (有楽町マリオン簡抜けの通り) 
<ul style="list-style-type: none"> ●大夕食会=ハガキに「夕食会出席申込」と記入し下記の申込先へ9月18日までに（必着）お申込下さい。定員100名。 ●都内観光=9月10日までにハガキで下記へお申込下さい。定員（45名）に達しない場合は料金に多少の変動があります。 ●宿舎=「東京ホテル浦島」をあっせんします。中央区晴海（はるみ）2-5-23。 ☎(03) 533-5331。 シングル ¥ 6000 (60室) ツイン ¥ 11000 (15室) 希望者はハガキに ①宿泊日 ②シングル・ツインの別 ③住所・氏名・電話番号を明記して下記へ9月15日までにお申込下さい。 ■申込先=上記の申込はすべて下記へ。 〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル 2F ワールドセブントラベルKK 田中 正（宛） ☎(03) 499-2461 夜間は田中自宅の(0474) 77-4728へ。 		

ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳 全8巻 B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

発行所宛直接注文の場合に限り、左記のように定価・送料をサービスいたします。
☆☆第一巻より第四巻まで一括注文(正価) 八八〇〇円
☆第五巻より第八巻まで一括注文(正価) 一六九〇〇円
↓
特別セット価格 八〇〇〇円(送料共) 全巻セット価格 七三〇〇円(送料共)
↓
B5判 12頁 上質紙使用 ￥300(送料￥170、3冊まで￥240、10冊まで￥350) 注文は郵便振替下記へ。切手代用も歓迎。

4 宇宙哲学

一四八頁 一三〇〇円

人間のセンス・マインド(肉体の心)と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に運営整然と説く。著者は、人間の意識と物理との因縁の解説と応用をめざす21世紀の科学の最先端をくわんで、アダムスキーの哲学論考三著作の中

3 UFOとアダムスキー

2 UFO問題の真相

二六二頁 二五〇〇円

第一巻の続編的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特にUFOの推進理論とUFOとの関係を述べた箇所は重要なである。第二部はアダムスキーの世界講演旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サインレス・グループの妨害が分明に描写されている。

8 質疑応答集

二一六頁 二〇〇〇円

アダムスキーが実際に体験した出船による宇宙旅行を詳述した「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本巻第一部「金星・空間を超えて」が注目。またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り抜けたばつ大情報と書簡を収録して第二部とした。

7 アダムスキー論説集

6 生命の科学

二一〇五頁 一八〇〇円

アダムスキーが他界する数年前に出した「Science of Life」と題する十(分冊)の講座を和訳して一巻にまとめたもの。アダムスキーの宇宙論的思考の最も重要なのが電子倍率で、真実のテレパシーと心霊的な宇宙連絡の大通路を明確にし、心霊現象への接近を警戒する西湖的な書。

1 宇宙からの訪問者

三三八頁 二五〇〇円

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験。一九五二年十一月二十日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会見した体験。春川正蔵は「着陸した」を本書の第一部とし、田舎や田舎に隠れ、多数の田舎人と会見した実録を第二部とした驚異的な書物。本書の中心をなす是莫要なる。

5 テレパシー開発法

一九〇頁 一八〇〇円

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開發法を説明したもの。特に耳・鼻・口の四官能に因縁を置いた「分冊」の講座を和訳して一巻にまとめたもの。アダムスキーの宇宙論的思考の大電子倍率で、真実のテレパシーと心霊的な宇宙連絡の大通路を明確にし、心霊現象への接近を警戒する西湖的な書。

文久書林 〒113 東京都文京区西片1-19-10 西片ハウス2F ☎(03)813-9561 振替/東京4-2521



■60年7月に刊行したNo.1は世界のUFO研究界で絶賛を博しつつあり、長い伝統を誇るイギリスのUFO専門誌 Flying Saucer Review誌、イギリスGAP機関誌ニュースレター32号、デンマークGAP機関誌 ufo contact その他が記事を転載して激賞している。また多数の欧米UFO研究グループと機関誌や情報交換のルートを確立、日本GAPは名実共に東洋最大のUFOと宇宙哲学研究グループとして一躍脚光を浴びるに至った。

■第3号も久保田日本GAP会長が執筆した格調高い英文記事により、本誌93号に掲載した春川正一氏の「私は別な惑星へ行ってきた！」の連載第一回分を掲載。早くも海外UFO研究界で注目をあげている。会長みずからプロ用大型電子英文タイプライターを駆使して版下を作成。デザイン、レイアウトから1字1句に至るまで会長が熱意をこめて作ったこの国際的文献をぜひお読み下さい。英語学習用にも好適。

B5判 12頁 上質紙使用 ￥300(送料￥170、3冊まで￥240、10冊まで￥350) 注文は郵便振替下記へ。切手代用も歓迎。

日本GAP 振替 東京4-35912



A Young Japanese Man Visits Other Planets [PART 1] by Hisakiro Hotta

In my previous article, I mentioned that I had a dream about the author of this article. He was a young man who had just graduated from university. He was interested in science and technology, especially in the field of space exploration.

He had a desire to visit other planets in our solar system. He was very interested in the possibility of life existing on other planets. He was also interested in the development of science and technology.

He had a desire to visit other planets in our solar system. He was very interested in the possibility of life existing on other planets. He was also interested in the development of science and technology.

He had a desire to visit other planets in our solar system. He was very interested in the possibility of life existing on other planets. He was also interested in the development of science and technology.

He had a desire to visit other planets in our solar system. He was very interested in the possibility of life existing on other planets. He was also interested in the development of science and technology.

He had a desire to visit other planets in our solar system. He was very interested in the possibility of life existing on other planets. He was also interested in the development of science and technology.

—昭和62年度—

日本GAP全国月例研究会案内

支部名	会場	会員料	会員による体験講演。	
東京本部	毎月第2土曜日 午後1:00~6:00 ※8月のみ第1土曜日の1日に皇居北の丸公園の科学技術館5F会議室にて開催。 ※9月は総会のため中止。	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-328-2111。JR「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいすぐ。 連絡先=日本GAP ☎03-651-0958	会場費 ¥500 セミナー 受講料 ¥1000 計¥1500	1:30~2:30 会員による体験講演。 2:30~4:00 久保田会長の「テレパシー開発法」講義と近況報告、テレパシー練習、休憩。 4:00~6:00 自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
新潟支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00 ※8月と9月のみ第4日曜日に変更。	長岡市今朝白1丁目「けさじろう荘」 ☎0258-33-7400。長岡駅東口より徒歩5分。無料駐車場あり。 連絡先=里 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
福岡支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00 ※10月は大会のため月例会は中止。	福岡市天神町5丁目1-23「福岡市民会館」3F国際会議室 連絡先=喜多正宜 ☎092-863-5438	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00~4:30 ※8月より会場を変更。 ※10~11月は第1日曜日に変更。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141㈹。JR東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・テレパシー練習・座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10~4:20 ※8月のみ16日㈰に変更。(会場:市民会館) ※9月より会場を右のように変更。	仙台市1番町4丁目141(チヨイチ)ビル内5Fエルパーカ仙台セミナー室 ☎022-268-8300。仙台駅よりバスで斎藤市役所前下車、三越デパート前。 連絡先=笠原弘司 ☎022-295-0725	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00~5:00 ※11月は大会のため月例会は中止。	山形市小白川町「社会福祉センター」 ☎0236-42-5181。山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00~4:30	中央区北一一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
静岡支部	毎月第1日曜日 午前10:30~5:00 ※午前中は「生命の科学」の研究会。テキスト持参。	静岡市黒金町「静岡労政会館」5階会議室。 ☎0542-21-6280。静岡駅北口より徒歩5分。 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表。
福井支部	毎月第4日曜日 午後1:00~5:00	旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室。 ☎0166-26-1304。 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・質疑応答・テレパシー練習。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00~5:00 偶数月: 広島市広島駅ビル内「ステーションホテル」5F全廻遊。 偶数月: 「松山市民会館」会議室。 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・座談会。	
高島支部	毎月第2日曜日 午後1:00~5:00	群馬県太田市「社会教育総合センター」3F。 連絡先=久保田佑一 店: ☎0276-25-5958 自宅: ☎0276-45-3544	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。座談会。
丹波支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表等。
沖縄支部	毎月第3日曜日 午後1:00~6:00	那覇市寄宮1-2-1「那覇市民会館」1F A会議室。 ☎0988-55-5081。与儀公園の隣。 連絡先=新里義雄 ☎0988-54-1623	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・懇親会とテレパシーの研究報告・自己紹介・座談会等。
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00~5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
神奈川支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00	川崎市川崎区富士見2-5-2「川崎市立労働会館」4階4号室。 ☎044-222-4416。JR京浜急行「川崎駅」下車。市バス・よ頭線・労働会館前。 連絡先=大崎幸典 ☎044-65-0389	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・座談会等。
茨城支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00	水戸市梅香1-2「水戸市中央公民館」4F小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00~4:30 ※11月は大会のため例会は中止。 ※8月22日㈯・23日㈰は山梨県清里高原で移動例会。詳細は右の連絡先へ。	寄数月: 岐阜市大門7番町「岐阜県総合文化センター」第1会議室。☎052-54-1253。 偶数月: 松本市川「あがたの森文化会館」2F。 ☎0263-32-1812。 連絡先=博多文喜 ☎0263-58-8510	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。ナレパシー練習・座談会・研究発表等。
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車・徒歩5分。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0605(呼・田中)	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」と「宇宙からの訪問者」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。ナレパシー練習・座談会・研究発表等。
福井支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00	鹿沼市(市役所裏)「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR関沢駅から西の方へ徒歩1.5km。バスは小糸川駆けり・天神町で下車・徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
長崎支部	毎月第3日曜日 午後1:00~5:00	長崎市魚の町5番1号「長崎市民会館」 ☎0958-25-1400。公会堂前停車。 連絡先=元木和雄 ☎0958-22-5521	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文献である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそれ下さい。下記以外の旧号も残っています。お問合せ下さい。

No.94 主要記事「テレパシーで飛来した真っ黒い円盤」畠江篤一/「八丈富士山麓でUFOを撮影 谷口美雄」「地球を救う愛の想念放射運動」山崎清美/「母船の周囲には人工大気層がある」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた」(速報第2回)春川正一

No.95 主要記事「茨城県千代田村のUFO」日本GAP茨城支部/「アダムスキー問題に対する考察」内田格男/「私のUFO目撃と不思議な体験」中嶋顯子/「シンボルマークと共に並行して飛んだ円盤」久保田八郎/「私の別な惑星訪問体験とアダムスキーの真実性」春川正一

No.96 主要記事「私のオーラ透視とテレパシー現象」清水南/「京都市上空にUFO5回出現」久保田八郎/「想念放射透視、UFO目撃」遠藤昭則/「UFOと心盤は無間隙」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた」(速報第3回)春川正一

No.97 主要記事「驚異の『生命の科学』と円盤大接近」伊藤達夫/「八王子市でUFOを撮影」峰田和彦/「別な惑星の偉大な人類と文明」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた」(速報第4回)春川正一

各¥700 パソコンカードに限り送料は不要

「テレパシー開発法」と「アダムスキー論脱集」解説講義録音テープ

昭和62年2月より12月まで東京月例研究会で日本GAP会員・久保田八郎先生が新鮮雄大な構想のもとにアダムスキーの名著を解説する録音テープ。テレパシーを主体に人間を救う能力開発法を脱いた名講義。GAP会員必聴の重要な資料。月例会における近況報告も録音。

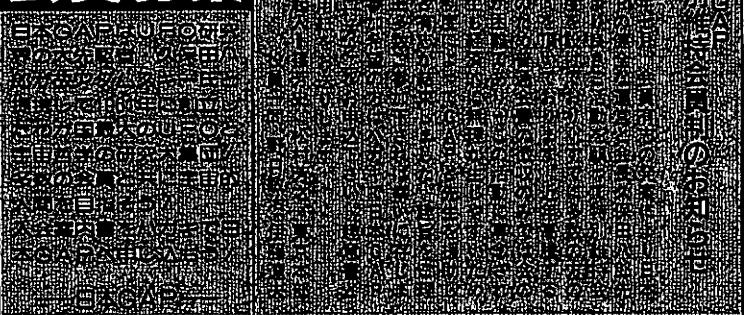
テープ1本(120分) ¥1300 送料¥200

*このテープは日本GAPでは取扱いませんので、××月分と記して必ず下記へご注文下さい。(2月分より在庫)。

〒430 静岡県浜松市三島町577-1 小島園弘

☎0534-42-3507 振替へ名古屋7-51065

会員募集

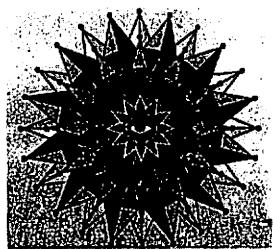


日本GAP機関誌・季刊
UFO Contactee
編集部行人
発行所
〒133 東京都品川区本郷一丁目12番地
振替 東京4-3591-2851 P郎
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印
物への無断転載を禁じます。
昭和六十二年七月十日発行
定価700円・送料200円

98号
秋季号
●本誌は約百名のボランティアにより全国主催店に卸されています。この奉仕活動に参加をお送りします。

●UFO目撃、超能力開発、宇宙哲学実践等の原稿を募集します。ふるってお寄せ下さい。

●本誌は約百名のボランティアにより全国主催店に卸されています。この奉仕活動に参



①オーラン肖像写真 ②シンボルマーク

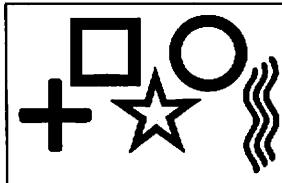
①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコントラクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーランという名で出てくるが、これをアフ氏の記録やアリス・ウエルズのスケッチにもとづいて文流画歌ゲイ・ベツツグ描いた名画の写真。(キャビニテ判・カラー写真)
②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四隅の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判・カラー写真) 上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥600 送料¥120 ②¥300 送料¥60 一括注文の場合送料¥120

テレパシー練習用 ③ゼナーカード

アメリカで開発されて世界的に広まつたテレパシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。英語箱入り。

¥600 送料¥120



①+②+③の場合送料¥170



会員バッジ

ジョージ・アダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジと形、色共全く同じ複製した幅18mmの丸い優美なバッジです。薄青色地に金色のシンボルマークが浮彫りされており、縁も金色です。表面には透明樹脂がかけてありますからキズがつかず、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏側が心様子ジグメ式、女性用は裏側が安全ピン式です。ぜひお求め下さい。ご注文のさいは男性用・女性用の別を明記して郵便振替で日本GAPへご送金下さい。(無断複製を禁じます)

1個¥2000 送料4個まで¥120

編集後記



○アダムスキー派の穀村ダニエル・ロス氏の「UFO—宇宙からの完全な証拠」の速報が始まりました。氏は本誌89号に「米政府はUFO問題の真相を公開せよ」と題する柔情らしい記事を書きましたが、今度は米国内でアドバイスと偉大さを立証するダイナマイドの一書を出しました。反響が楽しみです。

●私は別な惑星へ行ってきた! は本号で完結しました。大センセーションを起こしたこの速報記事はいずれ単行化して刊行されます。春川氏とは親交を続けていますから、いずれ別な機会に第二弾を発表することになるでしょう。なお右の記事の連載第一回分を掲載した93号は品切れでした。某所から約六十冊が出てきましたので注文に応じます。春川氏とは親交を続けていますから、他の木星は木星の多様な記事で幅広く見、UFO目撃、科学等の多彩な記事で幅広く見ました。定価は掲載ですから実質的な値下げです。運営は楽ではありませんが、わが国唯一のUFO専門誌としてより高度な内容を目指して頑張ります。

●来たる九月二十日(日)、東京有楽町朝日ビルにおいて今年度日本GAP総会を開催します。今回は本号速報記事「UFO—宇宙からの完全な証拠」の筆者、ダニエル・ロス氏を招待して大演説を行います。多数ご出席下さい。(詳細は本号45頁)。

●UFO目撃、超能力開発、宇宙哲学実践等の原稿を募集します。ふるってお寄せ下さい。

●本誌は約百名のボランティアにより全国主催店に卸されています。この奉仕活動に参

